



沖縄県薬剤師会報

No.267. 2013(平成25年) 11・12月号



沖縄県薬剤師会

目次

行政通達	労災診療費請求書の提出先の変更について …… 沖縄労働局労災補償課…(1)
寄付	故 山城幸久先生(山城恵子・晶 両氏)より寄付がありました…(2)
インフル対策	沖縄県の新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく 指定地方公共機関に当会も指定されました…(2)
表彰	平成25年度沖縄県薬事功労者知事表彰(高良武和先生)…(3) 第45回沖縄県公衆衛生大会長表彰(知名繁夫先生・宮里郁子先生)…(4) 沖縄県薬物乱用対策推進本部長表彰(吉田久子先生)…(5) 第8回日本禁煙科学会学術総会優秀演題賞受賞(笠原大吾先生)…(5)
巻頭言	此の頃思う事 …… 下地 仁…(6)
沖縄学術大会	第27回沖縄県薬剤師会学術大会報告 …… 外間 惟夫…(8) 第27回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム…(10) 第27回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会報告 …… 大城 喜仁…(16) 第27回沖縄県薬剤師会学術大会特別講演講師 菅野彊先生をお迎えして … 吉田 洋史…(18) 第27回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告 …… 亀谷浩昌・宮城敦子…(19) 第27回沖縄県薬剤師会学術大会奨励賞受賞発表要旨…(20)
薬と健康の週間	くすりと健康フェア(県民公開講演会)…… 池間 記世…(22) 薬祖祭・街頭キャンペーン・平成25年度「薬と健康の週間」行事表…(24)
実務実習	平成25年度第Ⅱ期薬学生実務実習報告～4年目Ⅱ期が終了しました!～… 我喜屋美香…(26) 平成25年度薬学生実務実習Ⅱ期生からの体験記・感想…(27) 金城直美・稲嶺盛佳・國吉沙也佳・山口義樹・上原あかね・喜屋武千早 仲里翔太・崎浜康豊・安谷屋源・儀保翔・上原美樹
研修会	一般用医薬品の薬局等における対面販売・相談対応等に関する講習会報告 … 新垣 秀幸…(32) 開局委員会主催 第8回スキルアップ研修会報告 …… 喜久山有沙…(34)
部会だより	青年部会主催 岩渕安史先生講演会報告 …… 石川 恵市…(36) 岩渕安史先生講演会うらかた日記 …… 牧野 唯右…(37) 大森眞樹先生との座談会 …… 大城 喜仁…(37) 平成25年度学校薬剤師部会支部長会・研修会報告 …… 村上 市子…(38) 平成25年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会参加報告 …… 島袋さゆり…(39)
研修レポート	「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会(第1回)」 および「一般用医薬品担当者全国会議」報告 …… 新垣 秀幸…(41)
寄稿	薬物乱用防止月間を終えて …… 祖慶 和美…(42)
月例相談会	第110回健康とおくすり相談会報告(南部地区薬剤師会)…… 照屋 秀子…(44) 第111回健康とおくすり相談会報告(中部地区薬剤師会)…… 渋谷 貴子…(45)
地区だより	第22回糸満市健康福祉まつり参加報告 …… 新垣 秀幸…(46)
告示	一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員補欠選挙について …… 野崎 真敏…(47)
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報…(48)
D I	薬事情報おきなわNo.225 …… 薬事情報センター…(49)

【宮古地区特集】		宮古地区特集にあたって …… 宮城 敦子…(63)
	薬局訪問	宮古島移動理事会の後の懇親会 …… 亀谷 浩昌…(64)
	Spot Light	はいさい!はいた〜い!!病院前薬局(宮古島市) …… 宮城 敦子…(66)
	医療機関・施設訪問	盛島明隆先生〜強面で頼りになる班長!〜 …… 池間 記世…(68)
	青年部	沖縄県立宮古病院 …… 伊差川サヤカ…(70)
	リレー随筆	燃えろ!青年団 山崎今日太さん …… 鈴木 一徳…(73)
	月例相談会	「ストロング・メディスン」を読んで…… 方 智子…(74)
	部会だより	第112回健康とおくすり相談会報告(宮古地区薬剤師会)…… 前里由紀子…(76)
	寄稿	学校薬剤師って、知っていますか?〜離島から都会の学校へ〜 …… 村田 成夫…(77)
		健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告 …… (財)沖縄県老人クラブ連合会事務局…(78)

卒煙物語	その43 まごはやさしい …… え ん こ …… (79)
薬学の歴史	第23回 最初のアルカロイド化学者、ゼルチュナー …… (80)
	第24回 カヴァントゥー、ペルティエ、そしてキニーネ …… (81)
薬草学	身近な薬草を知ろう 第11回 ウコン …… 狩俣 イソ …… (82)
薬連だより	国会レポート ～第185回臨時国会が始まる～ …… 藤井もとゆき …… (84)
告知ポスター	くすりと健康フェア（県民公開講演会）PRポスター …… (86)
転載記事	薬事功労評価 高良さん表彰 南部地区薬剤師会役員 …… (3)
	地域医療に貢献 5氏を知事表彰 県公衆衛生大会 …… (4)
	薬物乱用撲滅で感謝状 …… (5)
	「第8回日本禁煙科学会学術総会 in ぐんま」笠原大吾先生の優秀演題受賞要旨 …… (5)
	くすりと健康フェア（県民公開講演会）PR新聞広告 …… (87)
	日本薬剤師会「薬と健康の週間」国民向けPR記事 …… (88)
	薬局を地域の健康拠点に～ちぐはぐな国の薬事政策～ …… 亀谷 浩昌 …… (90)
	正しく使って健康を維持～薬の安全性と有効性～ …… 金城 栄一 …… (91)
	健康維持の場 薬局活用して …… 玉城 武範 …… (92)
	季節風 「薬と健康の週間」が紹介される …… (92)
	くすりと健康フェア（県民公開講演会）PR …… (93)
	起業家支援でイベント 他分野でも活躍中の高江洲はつよ先生 …… (93)
	第24回中部トリムマラソンにてピタリ賞に喜ぶ会員の福地健治先生 …… (93)
理事会	平成25年度第6回定例理事会議事概要 …… (94)
年間目次	おきなわ薬剤師会報 平成25年もくじ（通巻262号～267号） …… (100)
会務報告	平成25年10月～11月末日分（薬剤師連盟会務報告） …… (112)
訃報	藤本勝喜先生を悼む …… 新川 重一 …… (116)
一包一話	マラソン応援記 …… 橋 の 下 …… (118)
会員作品	誌上ギャラリー（裏表紙）について …… (120)
編集後記	…… (120)
お知らせ	平成25年度薬事功労受賞者合同祝賀会案内 …… (7)
	県薬が会員に販売している印刷物等 …… (35)
	地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！ …… (46)
	会報原稿募集のご案内 …… (75)
	J P A L S（日本薬剤師会生涯学習支援システム）について …… (85)
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について …… (117)

行政通達

沖縄労働局労災補償課からのお知らせ （労災診療費請求書の提出先の住所が変更になります）

平成26年2月3日（月）から、労災診療費請求書の提出先の住所が変更になりますので、お知らせします。

＜新しい提出先＞

沖縄労働局労働基準部労災補償課分室

〒900-0006 那覇市おもろまち2-1-1

那覇第二地方合同庁舎1号館

寄付

故 山城幸久氏の奥様 山城恵子氏と娘の晶さん、そしてお孫さんの光生(こうな)くんが御来館され、当会へ寄付をされました。

御芳志誠に有難く、厚く御礼申し上げます。

平成25年10月18日 来館

左より 城間盛光氏、山城恵子氏、山城晶さんと光生くん



インフル対策

当会は、沖縄県の新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく指定地方公共機関の指定を受けたことにより、業務計画（新型インフルエンザ対応マニュアル）を作成することとなった。

沖縄県や各団体と相互に連携協力し、新型インフルエンザ等対策の的確かつ迅速な実施に万全を期すこと、抗インフルエンザウイルス薬の備蓄と適正な流通等を図らなくてはならない。



期日：平成25年10月28日(月) 場所：沖縄県庁 知事応接室



県は、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく指定地方公共機関に、県医師会（宮城信雄会長）や県歯科医師会（比嘉良喬会長）など5団体を指定し、仲井真弘多知事「写真中央」が28日、県庁で指定書を交付した。新型インフルエンザが発生したときに、国や県と連携して的確で迅速

インフル対策 5団体を指定 県医師会などに県

な対策に万全を期する責務を負う。
指定は23日付。このほか、県看護協会（奥平登美子会長）と県薬剤師会（神村武之会長）、琉球大学医学部付属病院（村山貞之院長）も指定された。宮城会長は県を中心としたネットワークが県内で機能していると強調した上で「流行するであろう新型インフルエンザに十分対応できると考えている」と話した。県は今回の医療機関・医療関係5団体を皮切りに、ガス事業者や旅客自動車運送事業者、通信事業者など10団体以上を指定地方公共機関として、順次指定を進める。

平成25年10月30日(水)
沖縄タイムス

表彰

平成25年度 沖縄県薬事功労者知事表彰



高良 武和先生 おめでとうございます

期日：平成25年10月23日(水) 会場：沖縄県福祉保健部 部長室



左より、神村武之 会長、高良武和 氏、崎山八郎 福祉保健部長

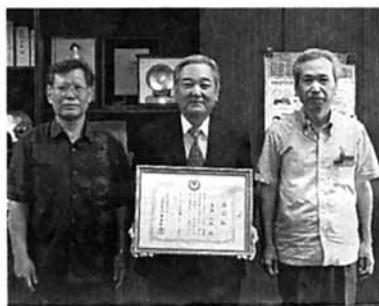
薬事功労評価 高良さん表彰

南部地区薬剤師会役員

南部地区薬剤師会副会長の高良武和さん(63)＝豊見城市＝に23日、薬事功労者知事表彰が贈られた。県庁で崎山八郎福祉保健部長が表彰状を手渡した。高良さんは「重い賞を頂いて恐縮している。今後は高齢化に伴う在宅医療を拡充できるようにスタッフと連携しながら取り組みを進めていきたい」と話した。

高良さんは1996年から現在まで南部地区薬剤師

薬事功労者知事表彰を受けた高良武和さん(中央)と県薬剤師会の神村武之会長(左)、崎山八郎県福祉保健部長＝23日、県庁



会の役員を務め、組織強化や会員の資質向上に貢献したことや、95年から15年間にわたる豊見城小学校での学校薬剤師としての活動などが評価された。

平成25年10月24日(木) 沖縄タイムス

第45回 沖縄県公衆衛生大会長表彰



知名 繁夫先生 宮里 郁子先生 おめでとうございます

期日：平成25年11月1日(金) 会場：沖縄県市町村自治会館



左より 吉田久子氏、比嘉真三 沖縄県公衆衛生協会副会長、宮里郁子氏、知名繁夫氏、前濱朋子 学校薬剤師部会長

地域医療に貢献 5氏を知事表彰

県公衆衛生大会

「県民の願い健康長寿
守ろう豊かな自然環境」を
シンボルテーマに第45回県
公衆衛生大会(主催・県、県
公衆衛生協会)が1日、那覇
市の県市町村自治会館で開
かれた。地域に密着した保
健医療や疾病予防などで長
年にわたって貢献したとし

県公衆衛生大会式典で崎山八
郎県福祉保健部長(左)から
知事表彰を受け取る渡慶次英
子さん(右)1日、那覇市・県市
町村自治会館



て知事表彰5人、大会長表
彰8人、県保健所長会長表
彰5人に賞状が贈られた。
被表彰者を代表してあい
さつした知事表彰の渡慶次
英子さん(60)は糸満市役所
は、1976年に駐在保
健師として渡名喜村に赴任
し周囲に支えられた思い出
などを振り返り、「一層の
研さんを重ね、沖縄県が長
寿1位を取り戻すよう引き
続きまい進みたい」と語っ
た。

大会では日本福祉大学社
会福祉学部近藤克則教授
(社会疫学)が「健康格差
社会と沖縄の健康とソーシ
ヤル・キャピタルの『見え
る化』」をテーマに特別講
演した。

そのほかの被表彰者は次の通
り。(敬称略)

【知事表彰】玉澤吉弘、村山
秀子、宮城敏夫、福續紀秀【大
会長表彰】長瀬由治、本村昌一、
金城恵子、豊見山京子、知名繁
夫、城間吉弘、山内れい子、宮
里郁子【県保健所長会長表彰】
田場久勝、渡口輝、屋良悦子、
徳元和政、山城恒一

平成25年11月3日(日) 沖縄タイムス

沖縄県薬物乱用対策推進本部長表彰



吉田 久子先生 おめでとうございます

期日：平成25年11月28日(木) 会場：沖縄県福祉保健部 部長室

薬物乱用撲滅で感謝状 県、花城さんら7人に

覚せい剤やシンナーなど薬物の乱用撲滅の推進に功績があったとして、仲井真弘多知事を本部長とする推進地方本部は11月28日、麻薬中毒者の相談を9年間務め、1996年から薬物乱用防止指導員を続けている花城景俊さん(86)ら7人を表彰した。県庁で副本部長の崎山八郎福祉保健部長が感謝状を手渡した。このほか表彰されたのは、い



ずれも県薬物乱用指導員の宮城功光さん(62)、照屋妙子さん(73)、島勇夫さん(78)、中澤祥子さん(72)、吉田久子さん(72)。1人は職務上の都合で非公開とした。

表彰された(前列右から)宮城功光さん、照屋妙子さん、島勇夫さん、花城景俊さん、中澤祥子さん、吉田久子さん＝11月28日、県庁

平成25年12月2日(月) 沖縄タイムス

第8回 日本禁煙科学会学術総会優秀演題賞受賞



笠原 大吾先生 おめでとうございます

期日：平成25年11月4日(月・祝) 会場：高崎健康福祉大学(群馬県)

発表要旨は下記の内容となっております。

『第8回日本禁煙科学会 学術総会 in ぐんま』より

C-1-3 薬剤師が行った未成年への禁煙支援介入事例 - 2名の定時制高校生生徒への支援の事例について

笠原 大吾

(一般社団法人) 沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会



【目的】演者は学校薬剤師として、児童・生徒の発達段階に応じたさまざまな喫煙防止教育に携わってきた。今回は、未成年の喫煙者の禁煙支援にかかわったが、同時に禁煙を開始した2例のうち、成功例は1例のみであった。両者の結果の差について考察する。

【方法】**実施時期**：平成24年12月～平成25年2月、**対象**：19歳A女子(定時制高校3年生)、既往歴無し。喫煙歴：20本×5年。2歳の女兒の母親であり、子どもが母親の喫煙を認識する前にやめたい。19歳B女子(定時制高校3年生)、既往歴無し。喫煙歴10本×4年。Aの友人であり、一緒に禁煙に挑戦したい。**実施方法**：禁煙は、“OTCの禁煙補助薬”ニコチネルパッチ”を使用して行った。禁煙開始後は、登校時に保健室でニコチンパッチの貼付状況を養護教諭に確認してもらった。また、概ね1週間に1回、保健室にて、養護教諭同席のもとで、薬剤師が面談を中心に禁煙指導を継続して行った。面談時には禁煙ダイアリーならびに禁煙効果チェックリストを記入してもらった。

【結果及び考察】A女子は、12月12日～翌年2月20日まで、パッチを使用して禁煙に成功した。一方、B女子は、開始後1週間で喫煙してしまい、治療継続の意思が認められず禁煙は中止となった。両者の差は、禁煙に対するモチベーションの高さの違いであると考えられた。A女子は、禁煙は子どものためという理由があったのに対して、B女子は、そこまでの大きな理由がなかったことが、治療中の喫煙欲求に対して意思を強く持つことができなかったと思われる。本結果より、禁煙に対するモチベーションの高さの維持は重要であり、支援者は、その点に配慮した指導が必要であると感じた。また、学校での介入においては、生徒にとって身近である教職員の協力は欠かせない要因の一つであると考えられた。教育現場においては、防煙教育に加え禁煙介入の可能性も示唆された。

※発行元(編集出版社)のご許可を得て編集転載しています。

巻頭言



此の頃思う事

宮古地区代表理事
下地 仁



此の頃、先頭を走っていたのが気がつけば最後尾になっていたり、以前にあった船団方式が崩れ、強いところに全てが集まる一極集中になってきたりと、今までの常識が当てはまらなくなってきました。薬業界も同様で、一部の大手調剤薬局チェーンによる利益追求が全体のイメージを作り上げ、医薬分業へのバッシングが末端の薬局への皺寄せとなっており、又、規制緩和と利便性からインターネットでの薬の販売が可能になる等、大きな激流に翻弄されています。

私たち薬剤師会は、薬の販売は対面販売を原則とし、インターネット販売に対しては対面販売による適正使用をないがしろに国民の健康を害するとして反対をしています。利便性の優先から一部の劇薬を除き、第一類医薬品も含めて解禁となる模様です。なぜ、薬の適正使用の指導が困難で、乱用が起りうるかもしれない、安全性も担保できない、インターネットによる販売が認められるのでしょうか。

購入時の情報は入力された情報のみで、その正否さえも確認する方法もなく、販売の量的な制限もあるのかないのか不明です。過剰な販売による乱用や副作用に関する情報も一律な文章で、個々の生活から影響を受け発生するかもしれない副作用の情報提供は可能なのかと問題提起はありますが、それでもインターネットによる販売を国は認めました。

さてさて、国が認めた以上、薬剤師会はどう対処するのでしょうか？

経済誌に、富士フィルムが何故大改革に成功したかが載っていました。業績が絶好調だった80年代から、フィルムカメラの危機感を持っていて、液晶用フィルムに加え新たな医薬品や化粧品等メディカルやヘルスケアの分野にまで業態を拡大していきました。業績が絶好調の時だからこそ将来の危機を見据えて、内外からの批判が厳しい中、社員の整理や事業の変更等、大きな痛みを伴う改革を行った事が載っていました。一方、ソニーやシャープ等の家電業界は、目先の利潤を重視するあまり時代を読み違い、シェアの後退を余儀なくされています。

つまるところ、薬剤師会はいつまでも反対するのではなく、インターネットの問題点を一番指摘している薬剤師会が、逆に先頭に立って新しい流通システムを取り入れ、日本の医療を改革していくというのはどうでしょうか？

明治以降、薬剤師が望んでいた医薬分業がほぼ達成されつつあります。今はバッシングの対象となっていますが、私は薬剤師による調剤がバッシングされているとは思いません！

先日、ある医療機関から麻薬記載の処方箋が来て、そこには在宅希望の印が押されていて、私は時間を指定し訪問するとそこには末期癌のおばあちゃんと、その周りにはご家族の方や看護師、ヘルパーさんが私を待ちました。当初、家族は私の話にただ聞いていただけでしたが、時間をかけ色々な世間話を交えながら服薬指導をしているうちに打ち解け、最後は薬の事以外にもいくつかの質問を

投げかけてきました。そして、帰宅する玄関先でご家族の全員が見送りに来て、緊張していた顔も感謝で和らいだ顔になっていて、私自身和んだ一日になりました。

調剤は薬を渡すことで終わるのではなく、薬の服用によって完結すると考えた場合、まだまだ医薬分業は道半ばです。薬剤師は恐れずに、単なる宅配でも患者様の自宅訪問をして、世間話だけでもいいから患者様の中に入っていくことにより分業による薬剤師の将来像が見えてくるかもしれません。

私は、大学を卒業後に地元で薬局を開設しました。昭和56年からOTCのみを17年

間、調剤を始めて14年の計31年間、薬剤師の仕事をしてきました。大学での授業は殆どが創薬中心だったと記憶しており、卒業直後に開設した薬局での仕事は、まさに試行錯誤の連続でした。お客様に叱られ、激励されながら、大学では教わらなかったOTCや健康食品、接遇等を研鑽する日々で、その時の経験が調剤をするうえでプラスとなり、薬局経営に寄与していると思います。

先生方、薬局内で調剤に勤しむのも大事ですが、OTC販売に在宅までとはいかなくても、時々お薬の宅配をして、オジーやオバーとユンタクしましょう！

平成25年度 沖縄県薬事功労受賞者合同祝賀会案内

日時：平成26年1月19日(日) 午後6時～

会場：沖縄都ホテル 虹雲の間(地階)

【旭 日 双 光 章】	島 袋 薫氏	
【九州山口薬剤師会会長賞】	山 城 志 津氏	
【日本薬剤師会有功賞】	宮 城 初 枝氏	崎 山 信 子氏
【沖縄県薬物乱用対策推進本部長表彰】	吉 田 久 子氏	
【沖縄県薬事功労者知事表彰】	高 良 武 和氏	
【沖縄県薬剤師会長表彰】	嘉 数 和 子氏	平 良 仔己子氏
	外 間 惟 夫氏	普久原 隆氏
	古 謝 真 己氏	
【沖縄県学校保健会長表彰】	石 原 英 子氏	上 原 陽 子氏
	瑞慶山 純 子氏	
【沖縄県公衆衛生大会長表彰】	知 名 繁 夫氏	宮 里 郁 子氏

※祝賀会チケットをお求めの方は、沖縄県薬剤師会事務局、または地区薬剤師会までご一報ください。

沖縄学術大会

第27回沖縄県薬剤師会学術大会報告

日時：平成25年11月24日(日) 10:30～17:50

会場：沖縄県薬剤師会館ホール（会員発表・ランチョンセミナー・特別講演）

沖縄県薬剤師会館 研修室（機器展示）

大濱信泉記念館（八重山地区会場・石垣市）

シモジ薬局2階（宮古地区会場・宮古島市）



神村 武之 大会会長挨拶

（八重山地区会場から遠隔中継で挨拶を行うサプライズがあり、会場一同驚き、和やかになった）

秋晴れの清々しい天候のもと、薬剤師会館を会場として第27回沖縄県薬剤師会学術大会は開催された。受付開始前に薬剤師会館に到着したが、会場には既に受付待ちの列が出来ており少し驚いた。本大会は会を重ねるごとに学術研修に対する会員の熱意の高まりを感じてはいたが、実際の参加者は総計303名で過去最高となった。その内訳は、県薬会館282名（県薬会員183名・病薬会員95名・非会員4名）、宮古地区会場7名（県薬会員5名・病薬会員1名・非会員1名）、八重山地区会場14名（県薬会員7名・病薬会員4名・非会員3名）である。

定刻通り、午前10時30分の開会となったが、先ず実行委員長として開会の挨拶を行った。講演要旨集表紙のデザインが少彦名神社であり、日本の薬の神様である少彦名命と古代中国最初の皇帝で百草を嘗めて薬効を確かめたと伝えられる神農炎帝が祭られていること、大会テーマが「ほっぷ すてっぷ 薬剤師新時代」で、既に薬学6年制薬剤師が輩出され、さらにフィジカルアセスメントなどの



大会実行委員長
外間 惟夫

スキル習得など新時代に突入してはいるが、今後更に飛躍することを祈念する大会としたという思いを話した。次の大会会長挨拶では、なんと神村武之会長が八重山地区会場から中継で挨拶を行うサプライズがあり、私を含め会場一同が驚いた。今大会からテレビ会議システムによる遠隔放映で宮古地区会場、八重山地区会場との双方向中継が実施されたのだが、それを会員にお披露目する非常に効果的な演出であったと思う。神村会長は開口一番に、宮古、八重山そして本島の「うちな〜ぐち」での挨拶から始まり、近年、薬剤師に対する社会的要請が高まる反面、一般医療用医薬品のネット販売解禁、医薬分業への批判など難問も山積しているため医療制度の一翼を担っている自覚と責任を持つべき事、また少子高齢化を見据えて在宅医療への積極的

な参画が求められること、さらには近年の医療の高度化、多様化に対するチーム医療連携のキーパーソンの役割が求められている事などを述べられた。

会員発表の部では病院薬剤師関連から11演題、保険薬局関連から5演題、その他3演題の合計19演題の応募があった。病院診療所部門からは新システム構築や妊婦・授乳婦とくすり外来、OR薬剤セットの導入など新しい業務取り組み、保険薬局部門ではおくすり手帳や薬-薬連携関連の発表、その他の部門では学校薬剤師、スポーツファーマシスト関連の発表があった。発表された先生方は是非、実施効果の評価やその後の改善、更なるデータ蓄積などを検討し、九州山口薬学大会や薬剤師学術大会等への発表を目指して頂きたい。時間内での発表やスライドのまとめ方など、まだ改善の余地がある演題も見られたが、若手薬剤師の参加、発表が多かったこと、また座長も若い先生が起用されている点は非常に喜ばしいことであった。大会奨励賞は、病薬関連部門からハートライフ病院の伊藤昌徳先生による「当院における薬学生実務実習への新たな取り組み」が、保険薬局・その他関連部門からすこやか薬局グループの比嘉朋子先生の「保険薬局における「マイクロTDM」を活用した生化学値測定」がそれぞれ選ばれた。両氏には大会終了後の懇親会の席上、神村武之会長から賞状と奨励品が授与された。

ランチョンセミナーでは、田辺三菱製薬株式会社との共催で、豊見城中央病院糖尿病・生活習慣病センターの比嘉盛丈センター長をお招きして「2型糖尿病に対する薬物治療戦略」を、さらに特別講演はどんぐり工場の菅野彊先生に「薬剤師のための薬物動態学10の鉄則」を講演して頂いた。線形・非線形薬物、腎・肝排泄型薬物、定常状態のない薬、高たん白結合率、総クリアランス、最高血中濃度、平均血中濃度、Giusti-Hayton法、投与量の変更、非線形薬物の投与量など、難しい薬物動態の鉄則を大変分かり易くご講演頂いたと思う。また講演終了後に菅野先生の著書販売会を開催したが、大変多くの先生方に購入して頂きサインを求める長蛇の列ができていた。実は先生には昨年も講演を依頼した

講演要旨集表紙



が、日程が合わずに断念しており2年越しのオファーではあったが、菅野先生の人気の高さ（特別講演は例年120～150人程の参加だが今年は240余名と満席）が伺え、本講演を企画して良かったと思った次第である。その他、研修室では機器展示会が開催されたが、昨年は11社と多くの参加があり展示スペースが手狭であったため、今年は展示面積等を考えて9社の展示とした。最新の薬局設備機器や調剤支援技術ソフト等を展示・紹介していただき、出展して頂いた企業には感謝したい。そして講演終了後の17時50分に、渡具知一枝大会副実行委員長による閉会の辞で学術大会は無事終了となった。

最後に今後の課題として、①宮古・八重山会場との中継において音声聞き取りにくく、参加者の私語までマイクで拾ってしまった事、②特別講演会会場やプログラムに急遽変更が生じた事、③参加者が年々増え会場の収容が限界である事、等いくつかの反省点もあり、スムーズな大会運営のために改良すべき点を踏まえた企画や運営マニュアル等の改訂が必要と思われる。今回、本大会を成功裏に終えることができたのは共催や広告、および機器展示に出展頂いた協賛企業のご支援と、薬剤師会事務局並びに大会運営スタッフのご尽力等の賜物であり、心より感謝申し上げます。

第27回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム

受付 9:50 ~
開会 10:30 ~



司会 広報委員会
伊差川 サヤカ
(琉球大学医学部附属病院)

- 開会の辞 第27回沖縄県薬剤師会学術大会・実行委員長
- 会長挨拶 第27回沖縄県薬剤師会学術大会・会長

外間 惟夫
神村 武之

I 会員発表（午前の部）

◎演題番号（1～5） 10:40～11:30 座長 入月 健
(沖縄協同病院)



1. 当院における持参薬管理の新たな取り組み

—電子カルテと薬局業務支援システムとの連携を通して—

社会医療法人 かりゆし会 ○翁 長 寛 人 仲宗根 ちひろ
ハートライフ病院 薬局 上 地 美 和 宮 里 武 行
西 盛 麻 子 谷 山 美紗子
西 澤 香 織 義 田 育 美
大 関 秀 和 田 中 泉
田 中 健 嗣 伊 藤 昌 徳



2. 腸管切離状態にある短腸症候群患者の栄養管理

沖縄県立中部病院 薬局 ○勝 連 真 人 蒔 由 衣



3. 「妊娠／授乳とくすり外来」開設における薬剤師の関わり

沖縄県立中部病院 薬局¹⁾ ○喜友名 朝 史¹⁾
吉 本 容 子¹⁾ 赤 嶺 一 姫¹⁾
具志頭 聡 子¹⁾ 川 平 浩 子¹⁾
周産期産科²⁾ 大 畑 尚 子²⁾



4. 手術室用薬剤セット導入における薬剤師の関わり

社会医療法人敬愛会 中頭病院 薬剤科¹⁾ ○島 袋 朝太郎¹⁾ 長 濱 照 美¹⁾
 手術室²⁾ 栗 国 貴美子²⁾ 比 嘉 明 美²⁾
 麻酔科³⁾ 上 川 務 恵³⁾



5. 琉球病院における治験への取り組み

独立行政法人 国立病院機構 琉球病院 ○上 原 智 博

ブレイクタイム (休憩)

11:30～11:40



◎演題番号 (6～8)

11:40～12:10

座長 川上 雄一郎

((株)アトル沖縄営業部)



6. 学校環境衛生検査“騒音測定”によりみえてきたこと ～平成24年度の県内全公立学校の測定結果より～

学校薬剤師部会 ○山 里 美恵子
 前 濱 朋 子 笠 原 大 吾



7. 今後のスポーツファーマシスト活動について

～2020年東京オリンピック・健康スポーツを意識して～

○西 平 克 子
 伊 藤 昌 徳 大 城 恭 子
 松 山 朝 雄 新 垣 秀 幸
 笠 原 大 吾 吉 田 典 子



8. 保険薬局薬剤師による第1類医薬品販売の意義

(株)薬正堂 すこやか薬局 北谷店 ○田 崎 仁
 吉 川 馨 米 須 有 子
 宮 里 知 恵 山 内 将 輝
 徳 元 美 紀 山 里 さおり
 津 波 直 美 山 乃 端 ゆかり
 村 吉 真理恵 佐 藤 雅 美

ブレイクタイム (休憩・機器展示閲覧)

12:10～12:40



ランチョンセミナー（昼食）

12:40～13:40

共催：田辺三菱製薬株式会社

製品紹介 選択肢DPP-4阻害剤「テネリア」の創薬と開発

田辺三菱製薬株式会社 開発本部 プロジェクトマネジメント部

プロジェクトリーダー 林 義治



講師 比嘉 盛丈 先生



『2型糖尿病に対する薬物治療戦略』

豊見城中央病院

糖尿病・生活習慣病センター

センター長 比 嘉 盛 丈 先生

ランチョンセミナー進行役 山本 泰久

（田辺三菱製薬沖縄営業所長）



<プロフィール> 比嘉 盛丈（ひが もりたけ）

1990年：琉球大学医学部医学科卒業、医師免許取得、琉球大学医学部医学研究科（大学院）入学 1994年：同修了（医学博士号取得）、琉球大学医学部第2内科入局 1997年：テキサス大学サウスウェスタン校へ留学、Roger H Unger 教授のもと糖尿病研究

2001年：琉球大学医学部第2内科助手 2002年：琉球大学医学部第2内科医局長 2005年：社会医療法人友愛会豊見城中央病院内科医長 2007年：同院糖尿病・生活習慣病センター・センター長 2009年：琉球大学医学部第2内科非常勤講師 2010年：社会医療法人友愛会豊見城中央病院研修管理委員会委員長 現在に至る

学会：日本内科学会認定医・研修指導医、日本糖尿病学会認定専門医・指導医、日本内分泌学会認定専門医・指導医、日本肥満学会員、日本甲状腺学会員、日本老年医学会員、日本循環器病学会員ほか

ブレイクタイム（休憩・機器展示閲覧）

13:40～14:00



II 会員発表（午後の部）

◎演題番号（9～13）

14:00～14:50

座長 加藤 晴久

（長浜調剤薬局）



9. 当薬局におけるお薬手帳の使用状況と今後の課題

ぎのわん健康支援センター がじまる薬局

○川 満 裕次郎

比 嘉 はつみ

照 屋 林一郎

高 里 麻 子

上 原 智佐子

知 念 賀 美

石 川 元 信

石 井 真喜子



10. お薬手帳の活用状況と理解度、これからの課題について

沖縄健康企画 こくら虹薬局

○比 嘉

仁

阿 部 美 咲

金 城 春 樹

平 良 栄 子



11. 残薬確認への取り組み

ぎのわん健康支援センター にしぼる薬局

○久 貝 千賀子

沖 山 尚 美

新 垣 麻衣子

沖 山 勝 彦



12. お薬手帳を活用した薬薬連携について

医薬分業対策委員会 ○西 川 裕
池 間 記 世 江 夏 京 子
仲 真 良 重 川 上 善 久
石 川 恵 市 仲 座 方 利
姫 野 耕 一 川 上 雄一郎
下 地 仁 宮 良 長 博
知 念 正 人 屋嘉比 康 作



13. 保険薬局における「マイクロTDM」を活用した生化学値測定

(株)薬正堂 すこやか薬局 新川店¹⁾ ○比 嘉 朋 子¹⁾ 比 嘉 浩 一¹⁾
四 谷 祐 子¹⁾ 諸見里 真 弓¹⁾
高 良 武 志¹⁾ 又 吉 拓 舟¹⁾
広島大学 薬学部 臨床薬物治療学²⁾ 池 田 佳 代²⁾ 横 繁 智 子²⁾
中 元 智 子²⁾ 吉 川 智 司²⁾
猪 川 和 朗²⁾ 森 川 則 文²⁾

ブレイクタイム (休憩)

14:50～15:00



◎演題番号 (14～19)

15:00～16:00

座長 宮城 英之
(中頭病院)



14. ポリコナザール点滴静注投与とタクロリムス経口投与時の薬物相互作用

琉球大学医学部附属病院 薬剤部¹⁾ ○潮 平 英 郎¹⁾
山 田 智 史¹⁾ 赤 嶺 由美子¹⁾
上 原 仁¹⁾ 外 間 惟 夫¹⁾
琉球大学大学院 医学研究科臨床薬理学講座²⁾ 植 田 真一郎²⁾



15. オキサリプラチンによる下肢脱力感に

C a / M g 投与が有効だった2症例を通して

浦添総合病院 薬剤部 ○川 上 博 瀬
翁 長 真一郎 浜 元 善 仁
中 村 サヤカ 村 田 利恵子
前 泊 美 保 宮 里 弥 篤
佐次田 頌 比 嘉 保



16. 当院における抗精神病薬の減量化へ向けた取り組み

独立行政法人 国立病院機構 琉球病院 ○松 原 友 規



17. 沖縄県立中部病院における漢方薬の処方状況と、
漢方薬に対する研修医の意識調査
沖縄県立中部病院 薬局 ○菊 池 伶 奈



18. 当院におけるL E Nの使用状況
地方独立行政法人 那覇市立病院 薬剤部 ○仲 村 哲 也 永 井 賢 作
金城 雄 一 金城 清 二



19. 当院における薬学生実務実習への新たな取り組み
社会医療法人 かりゆし会 ○伊 藤 昌 徳
ハートライフ病院 薬局 田 中 泉

ブレイクタイム（機器展示閲覧・休憩）



16:00～16:20



(株)ITSシステム



(株)EMシステムズ



(株)タカゾノ



(株)トーション・キャノンライフケアソリューションズ(株)



パナソニック ヘルスケア (株)



日立メディカルコンピュータ (株)



(株)ユヤマ



(株)琉球光和



(株)リレーションズ

Ⅲ 特別講演

16:20～17:50

『薬剤師のための薬物動態学10の鉄則』

どんぐり工房 菅野 彊 先生



講師 菅野 彊 先生

<プロフィール> 菅野 彊 (かんの つとむ)

1941年：岩手県平泉町生 1967年：東京薬科大学卒業 1967年：薬剤師免許取得後、日本アップジョン株式会社勤務 1968年：関山堂薬局自営 1972年：川久保病院勤務（盛岡市） 1982年：医薬品卸（株）小田島勤務 1985年：副作用データベース「ARIS」をリリース 1996年：日本医薬品卸連合会創立50周年記念職場体験記コンクールで「厚生大臣賞」受賞 1998年：医薬品情報データベース「Beluga」をリリース 1999年：全国の薬剤師22人の仲間と合資会社どんぐり工房を設立、医薬品情報部を立ち上げ、仙台市に調剤薬局を開設 2000年：盛岡市に調剤薬局2店舗設立 2002年：2000年にリリースした「添付文書の読み方10の鉄則」が10万部を超えるベストセラーに成長 2012年：現在に至る

著書に「これからのDrug Information（医薬ジャーナル社）」、「わかる臨床薬物動態理論の応用（医薬ジャーナル社）」、「薬剤師のための添付文書の読み方10の鉄則（アドバンスクリエイト社）」、「患者とくすりが見える薬局薬物動態学（南山堂）」、「実践副作用学（医薬ジャーナル社）」、「薬物動態を推理する55Question（南江堂）」、「まず疑えから始めよ（日経BP社）」他がある。

座長：

第27回沖縄県薬剤師会
学術大会・委員
吉田 洋史



- 閉会の辞 第27回沖縄県薬剤師会学術大会・副実行委員長
17:50 渡具知 一枝



○ 会員発表審査会

16:00～16:15

会場：沖縄県薬剤師会館 会長室・会議室

病院薬剤師関連部門審査員

- 長田 茂 ○姫野 耕一 ○村田 美智子
○松山 朝雄 ○亀谷 浩昌

保険薬局・その他関連部門審査員

- 川満 直紀 ○城間 盛伸 ○玉城 有子
○山里 勇 ○宮城 敦子



沖縄学術大会

第27回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会

日時：平成25年11月24日（日） 18:30～20:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

例年、沖縄県薬剤師会学術大会の特別講演は隣接の沖縄県医師会館ホールにて開催されてきたが、今回の大会はテレビ会議システムを導入したこともあり、同システムの移動展開が難しいことから、会員発表に引き続き、特別講演も沖縄県薬剤師会館ホールで開催された。

特別講演終了後に同会場で、演題発表認定証授与ならびに奨励賞表彰、そして沖縄県薬剤師会会長表彰式も執り行われる予定であったが、特別講演講師の菅野彊先生のサイン会（書籍販売）で会場はサインを求める参加者の長蛇の列ができてしまい、急遽、下階の懇親会会場で行われることとなった。

各賞の授与式が行われた会場は、溢れんばかりの参加（約80名）があった。伊差川サヤカ氏が引き続き、司会進行をされた。

最初に、演題発表認定証授与式が行われ、外間惟夫大会実行委員長より発表者19名全員に認定証が授与された。次に、奨励賞の授与が行われた。同賞は、発表演題を病薬関連部門と保険薬局・その他関連部門の2部門に分け、特に薬剤師の資質向上に寄与した発表に対して授与されるものである。外間実行委員長が受賞者・演題と受賞評を発表し、神村会長から受賞者に奨励賞の授与が行われた。受賞者・演題は次のとおりで、受賞者から喜びの言葉をいただいた。



発表者19名全員に外間惟夫大会実行委員長から認定証が授与された



奨励賞の発表をする外間惟夫大会実行委員長



受賞の喜びを述べる奨励賞受賞者
伊藤 昌徳氏



比嘉 朋子氏



薬事功労者沖縄県薬剤師会会長表彰
左より 嘉数和子氏、平良仔己子氏、外間惟夫氏、普久原隆氏、古謝真己氏(代理：吉田洋史氏)



受賞者代表謝辞をする嘉数和子氏

○病院診療所関連部門

伊藤 昌徳 氏 (ハートライフ病院)

「当院における薬学生実務実習への新たな取り組み」

○保険薬局・その他関連部門

比嘉 朋子 氏 (すこやか薬局 新川店)

「保険薬局における『マイクロTDM』を活用した生化学値測定」

続いて、沖縄県薬剤師会会長表彰式が執り行われた。嘉数和子、平良仔己子、外間惟夫、普久原隆、古謝真己の5氏に神村会長から表彰状と記念品が授与され、嘉数和子氏が代表して謝辞を述べた。

引き続き、同会場にて、第27回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会に入った。

松山朝雄副会長の開会の辞で始まり、神村会長が挨拶、その後、新垣正次顧問の乾杯のご発声の後、歓談となった。

会も半ば、サイン会を終え懇親会にも出席いただいた特別講演講師の菅野彊先生からご挨拶をいただき、懇談の場を更に盛り上げていただいた。

楽しい交流を深めた懇親会も瞬く間に時間となり、吉田洋史副会長の閉会の辞により盛会裡に終了した。

(報告：第27回学術大会事務局 大城喜仁)



開会の辞
松山 朝雄 副会長



あいさつ
神村 武之 会長



乾 杯
新垣 正次 顧問



閉会の辞
吉田 洋史 副会長



菅野彊先生を囲んで



受賞者を祝いに多くの方が参加された

第27回沖縄県薬剤師会学術大会特別講演講師

菅野彊先生をお迎えして



大会特別講演座長 吉田 洋史

TV会議システムを導入した八重山地区の中継会場から帰ってきた神村会長と同じくらいの時刻に、那覇空港へ菅野彊先生がご到着されました。前日は徳島でご講演をされて東京から来られたため、気温差に驚いていました。それもそのはず、昼過ぎのこの時間は24℃超えでした。ホテルにはチェックインせずにそのまま会場へ向かいました。

講演準備が済むと学術大会の発表をご覧になりました。そして講演会は満員大盛況！薬物動態学の基礎を分かりやすく10の鉄則としてご教授頂きました。学生時代に勉強した計算式が多く、ちょっと引いてしまった方もいたようですが、ボリュームのある内容を短い時間にも関わらず、優しくテンポよくお話いただきました。かなりモチベーションが上がり、明日からの業務に活かしていくという声を多く頂きました。

引き続き、著書である「薬物動態を推理する55 Question」と「どんぐり式

薬局副作用学のススメ「まず疑え」から始めよ」の即売サイン会を開催。1冊ずつ丁寧にサインされたため、20分の予定が40分以上に大幅に伸びる大盛況で70冊以上販売、サイン会には既に購入した本を家からお持ちになった方も見かけられました。

懇親会では、先生のファンの方が取り囲み、講演会が続いていました。二次会では沖縄独特の料理に興味津々。ミミガー、豆腐よう、島らっきょう、ジーマミー豆腐などをご堪能頂きました。

翌朝、雨だったのですが、大勢の修学旅行生に混じり、首里城を時間ギリギリまでゆっくりお周りになり、勉強されていました。

今、各地にいる有志（ファン）によって、「どんぐり未来塾」と称して菅野先生の講演会が全国で開催されています。熱烈なファンのいる沖縄でも立ち上がるかもしれませんね。facebookでは菅野先生の全国での活躍が拝見できますよ。



講師控室にて記念撮影

左より 吉田洋史(特別講演座長)、渡具知一枝(大会副実行委員長)、神村武之(大会会長)、菅野彊先生、田場英治(大会副会長)、外間惟夫(大会実行委員長)



サイン会は長蛇の列



二次会の席で菅野先生からサインをもらい喜ぶ司会を務めた伊差川サヤカ氏



翌朝、あいにくの雨の中、首里城を視察された

第27回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告



＜病院薬剤師関連部門審査報告＞

病院薬剤師関連部門審査委員 亀谷 浩昌

第27回沖縄県薬剤師会学術大会において、病院薬剤師部門の発表は11演題ありました。内訳は中部病院が3題、ハートライフ病院、琉球病院が共に2題、中頭病院、琉大病院、浦添総合病院、那覇市立病院が各1題となっています。研究テーマは持参薬管理、NST業務、妊娠・授乳と薬剤師、手術室薬剤管理、治験業務、薬物相互作用、薬剤の著効例、薬物療法の適正化、漢方薬、抗がん剤のレジメン、学生実習などから見つけており、日常業務の中に研究テーマはいくらでもあることを伺わせています。今回は演題発表のなかった施設も次回大会に向けて頑張ってもらいたいと思います。

大会当日の発表された演題の中から奨励賞を選定するのですが、評価の基準は、研究成果を患者や地域に還元できるか、研究の進め方が倫理にかなっているか、発表構成は適切か、発表内容に関して抄録と発表内容との関連性、プレゼンテーション技術、時間配分について審査し、これを点数化して選定しました。

5名の審査委員で協議した結果、ハートライフ病院の伊藤昌徳先生による「当院における薬学生実務実習への新たな取り組み」が奨励賞に決定しました。従来の学生実習カリキュラムに新たに、①手術見学患者に対する服薬指導、②骨髄移植見学、③医療用ガス講習会、④精神医療を主とする病院での実習、⑤治験同意取得説明（疑似体験）、⑥地域医療における市民向け勉強会開催、⑦納品管理システム見学、⑧医師向け緩和ケア研修会聴講を加えたもので、実習後の実習生へのアンケート結果ではその多くが好評でした。これらの取り組みにより実習後の学生のモチベーションが上がることで、他施設との連携で実習内容の幅を広めたこと、この発表が今後の実習カリキュラムを考える上で有用であろうこと等が審査において高い評価を得ました。

学術大会の演題数は年々増え、プレゼン内容も向上してきています。今大会のテーマである、「ほっぷ すてっぷ 薬剤師新時代」にふさわしい大会であったと思います。



＜保険薬局・その他関連部門審査報告＞

保険薬局・その他関連部門審査委員 宮城 敦子

保険薬局・その他関連部門では8題の発表がありました。内訳は保険薬局5題、学校薬剤師部会、スポーツファーマシスト委員会、医薬分業委員会が各1題ずつとなっています。

保険薬局部門では「おくすり手帳」に関する内容が多く、やはり保険薬局においては欠かせないテーマであると感じました。

その他関連部門では、部会や委員会の発表により、その活動内容が広く会員に伝わったことと思います。今後の活動に期待しております。

本部門での奨励賞は、(株)薬正堂すこやか薬局の比嘉朋子先生による「保険薬局における『マイクロTDM』を活用した生化学値測定」に決定しました。「普通の薬局でやっていないことに取り組んでいるところが興味深く、薬局と大学との共同研究は保険薬剤師にとって励みになる」との評価を得ました。

来年の学術大会も多くの会員の皆様に、参加・発表していただけますようお願い申し上げます。

＜病院薬剤師関連部門奨励賞受賞講演要旨＞

19. 当院における薬学生実務実習への新たな取り組み

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院 薬局 ○伊 藤 昌 徳
田 中 泉

【はじめに】

薬学部6年制導入により平成22年度から新たな実務実習が開始された。全施設にて、ある一定の基準を満たす為に「実務実習モデル・コアカリキュラム」が作成された。これは事前学習5週間・病院実習11週間・薬局実習11週間から構成され、それぞれに一般目標、それを達成するための達成目標（SBQ）とその方略（LS）が示された。そして、治験業務や外来化学療法といった「アドバンス実習」を活用することも可能となっている。当院では以前より薬学実習を行っており、今回2名の薬学生を受け入れた。実習期間中に多くの経験と知識を教示する目的で、新たに導入した実習項目を報告する。また、主な実習項目に対する薬学実習生の評価結果について報告する。

【方法】

1. 新たな実習項目は、当院薬学実習修了生の声や臨床研修医制度カリキュラム、学会での学生シンポジウム等を参考に検討し、導入した。
2. 評価目的に当院薬学実習生を対象にアンケート調査を行った。
実習期間：平成25年5月13日～平成25年7月28日
対 象：薬学実習生 2名（男性：1名、女性：1名）

【内容】

取り組み前の主な実習項目は下記14項目であった。新たな項目を検討し、導入を図った。
①内服・注射調剤 ②DI活動 ③服薬指導 ④納品・在庫管理 ⑤医薬品管理 ⑥院内製剤
⑦手術見学 ⑧輸血・クロスマッチテスト実習 ⑨治験業務 ⑩チーム医療への参加
⑪治療薬物モニタリング実習【琉球大学附属病院にて実施】
⑫患者向け勉強会見学 ⑬医療安全 ⑭感染対策
⑮放射線科見学（心臓血管造影検査〈冠動脈ステント留置術を含む〉、MRI検査）

【結果】

1. 実習項目として、下記8項目を新たに導入した。
①手術見学患者に対する服薬指導 ②骨髓移植見学 ③医療用ガス講習会
④精神医療を主とする病院での実習【医療法人卯の会 新垣病院にて実施】
⑤治験同意取得説明（疑似体験） ⑥地域医療における市民向け勉強会開催
⑦納品管理システム見学【(株)アトルにて実施】 ⑧医師向け緩和ケア研修会聴講
2. アンケート結果：「非常に良かった」と回答があった事項は、a) 精神医療実習 b) 手術症例見学と当該患者への指導 c) 大学病院実習 d) 糖尿病教室 e) 医療用ガス講習会であった。
物足りなかった事項は、内服調剤、注射剤混合調製であった。
難しかった事項は、服薬指導・ロールプレイであった。

【まとめ】

今回の取り組みにおいて、薬学生の評価が高かった事項は下記内容であった。
① 手術見学後、当該患者が退院するまで指導で関わること
② 他医療施設で行われている特殊性のある実習項目に触れること（TDMと精神医療）
③ 患者指導・同意取得における薬剤師の役割を体験したこと
物足りなかった事項は、時間的に少なくなった内服調剤であった。
協力病院と提携することで、よりレベルの高い実習に取り組むことができた。

<保険薬局・その他関連部門奨励賞受賞講演要旨>

13. 保険薬局における「マイクロTDM」を活用した生化学値測定

(株) 薬正堂 すこやか薬局 新川店¹⁾ ○比 嘉 朋 子¹⁾ 比 嘉 浩 一¹⁾
四 谷 祐 子¹⁾ 諸見里 真 弓¹⁾
高 良 武 志¹⁾ 又 吉 拓 舟¹⁾
広島大学薬学部臨床薬物治療学²⁾ 池 田 佳 代²⁾ 横 繁 智 子²⁾
中 元 智 子²⁾ 吉 川 智 司²⁾
猪 川 和 朗²⁾ 森 川 則 文²⁾

【目的】

日本薬剤師会より発行された「薬剤師の将来ビジョン」によると一般市民の保険薬局に対する認識は「お薬を調剤してもらいところ」という回答が91.1%と多く、「OTC薬など購入するところ」や「健康や病気の事について相談できるところ」という回答が少ないことが示された。これは、保険薬局は処方せんがないと利用できないという印象を持たれ、「セルフメディケーション」など、薬剤師の知識を十分に生かした場となっていない現状を表している。そこで、すこやか薬局では「マイクロTDM」を活用し生化学値の測定を行うことで、薬局が「医薬品の適性使用」や「地域の健康相談ステーションの役割」を地域の皆様に認識していただくための活動を継続的に行っている。今回は、地域住民を対象とした「お薬健康相談会」を開催した結果と「腎排泄型薬剤の処方量監査」を行った症例を経験したので報告する。

【方法】

「マイクロTDM」とは微量量の生体サンプルから様々な生体情報を得るためのシステムの総称である。今回は、被験者自身が指先を穿刺し得られた指頭血を薬剤師が採取し、生化学測定器（レフプロトン）やHbA1c測定器（ギアK）を利用して生化学値やHbA1cを測定した。「お薬健康相談会の開催」では地域住民が頻繁に利用する銀行にて、総コレステロール、中性脂肪、尿酸値、HbA1cを測定し、測定結果より、特定健診を促し、各検査値と生活習慣病との関連性、生活習慣病予防のための食事管理などの相談に応じた。「腎排泄型薬剤の処方量監査」では、血清クレアチニン値が不明な患者に対し腎排泄型の薬剤を調剤する場合に、血清クレアチニンを測定した。評価方法としてアンケートを行った。

【結果】

「お薬健康相談会」においては、参加者の大半が、基準範囲内であった。しかし、測定者の中には数年前に糖尿病を指摘されたが放置しHbA1cが高値を示し、医療機関への受診勧告を行った例も存在した。また、アンケートでは参加者のほとんどが「痛みがなく簡便である」「気軽に薬局で測定できると非常に便利」と回答した。「腎排泄型薬剤の処方量監査」の一例として、帯状疱疹にてバラシクロビルが処方された90歳代女性の血清クレアチニンを測定し、処方量が適正であることを医師に報告した。

【考察】

「マイクロTDM」を活用することで簡便に生化学測定が可能となり、保険薬局において薬剤物治療の適正評価だけでなく、地域住民の健康状態を把握することができた。本法を用いて保険薬局が地域の健康管理の拠点となり客観的データを基に薬剤師が評価する場所と認識されればチーム医療や在宅医療に大きく貢献でき、医薬品の適正使用およびセルフメディケーションの観点からも有用であると考えている。

薬と健康の週間

くすりと健康フェア

＜県民公開講演会＞

日時：平成25年11月17日（木）18:30～20:20

会場：パレット市民劇場（那覇市）

主催：沖縄県薬剤師会・沖縄県・那覇市



広報委員会
池間 記世

今年も10月17日（木）から23日（水）までの1週間「薬と健康の週間」が実施され、この行事の一環として「くすりと健康フェア～心身ともに健康～」と題して県民公開講演会がパレット市民劇場で開催された。

初めに、崎山八郎沖縄県福祉保健部長、国吉秀樹那覇市保健所長、神村武之沖縄県薬剤師会会長の主催者挨拶があり、その後沖縄県薬剤師会製作の対面販売に関するテレビコマーシャル（薬と健康の週間バージョン）の紹介放映がなされ、講演に移った。

初めに、沖縄県福祉保健部薬務疾病対策課の金城桂史技師の「薬と安全」についての基調講演。スライドを用いて、お薬を正しく使用する事の大切さをテーマに「医薬分業について」「薬剤師の役割について」「お薬の分類（医療用医薬品と一般用医薬品）について」「OTC医薬品の役割（セルフメディケーションの重要性）」「ジェネリック医薬品について」「薬の重複や相互作用など薬の間違った飲み方について」「薬を正しく管理するためにかかりつけ薬局を決める事が大切」「お薬手帳の役割について」「医薬品副作用救済制度の説明（抗ガン剤、個人輸入医薬品は対象外であること）」そして最後に「違法ドラッグについて」ととても分かり易く丁寧な説明があった。

続いては、山之内製薬（現アステラス製薬）に38年間勤務し、現在は永井記念薬学国際交流財団評議員をされている、後藤直良（ごとうなおよし）氏の「作家の飲んだ薬～夏目漱石と司馬遼太郎を中心として～」と題しての特別講演があった。

作家と薬との繋がりについて、有名作家の薬にまつわる実生活のエピソードを垣間見ることができ興味深い講演であった。今から670年前、兼好法師は徒然草の中で、衣食住プラス薬が豊かに生きるための基本的条件であると述べている。中でも作家は睡眠薬を常用している人が多く、その他いろいろな薬を常用する人が多いとのこと。平成12年（2000年）に朝日新聞の二千年特別企画の中で、この1000年の「日本の文学者」読者人気投票を行った。1位・夏目漱石、2位・紫式部、3位・司馬遼太郎、4位・宮沢賢治、5位・芥川龍之介と続き、松本清張は8位。

堂々の1位で、数々の傑作を残した夏目漱石が小説家として活躍したのは、わずか10年とのこと。享年49歳でこの世を去った漱石は、生涯胃病に苦しみ、死因も胃潰瘍であった。漱石は夏目家の8人兄弟の末っ子として



神村武之会長あいさつ



左より 高江洲はつよ氏(司会)、崎山八郎氏
後藤直良先生、国吉秀樹氏、神村武之会長

<プログラム>

○開 会

○主催者あいさつ

司会 沖縄県薬剤師会 会営薬局とよみ 高江洲 はつよ

沖縄県福祉保健部長 崎山 八郎

那覇市保健所長 国吉 秀樹

沖縄県薬剤師会会長 神村 武之

○沖縄県薬剤師会製作テレビコマーシャル（対面販売PR）の紹介・放映

○基調講演 「薬と安全」について 沖縄県福祉保健部薬務疾病対策課技師 金城 桂史

◎特別講演 「作家の飲んだ薬～夏目漱石と司馬遼太郎を中心として～」

講師：後藤 直良 先生



<講師プロフィール>

後藤 直良（ごとう なおよし）

一橋大学卒。山之内製薬（現アステラス製薬）38年間勤務。定年退職後、東京薬科大学・東京医薬専門学校にて「薬業経済論」の非常勤講師を10年間務める。

現在、永井記念薬学国際交流財団評議員。「作家と薬」についての研究小論を『薬事日報』に半期に一度寄稿中。著書『薬の経済学』『作家と薬』など4冊。いずれも薬事日報社刊。

生まれたが、すぐ里子に出され、その後生家に戻るが、又すぐ塩原家の養子に出される。しかし兄達が次々と結核で亡くなってしまったため夏目家に戻るといふ、品物のように行ったり来たり幼少時代を送っている。「吾輩は猫である」に出てくる「消化薬タカジアスターゼ」は、三共から発売された当時の画期的新薬で、三共は養子先の塩原家が設立した会社であるというのも面白い。勿論、胃病に苦しんでいた漱石も愛用していただろう。カルルスパート（アルカリ性塩類泉から作った胃薬）は毎日服用しているとの記載がある。漱石の「日記」には入院中「今朝 硝酸銀の薬を飲む。粘液を洗うためならん。」とあり、当時は恐ろしい薬を使用してことに驚いた。

人気第3位の司馬遼太郎のペンネームの由来は、司馬遷の書いた史記を研究していたので、「司馬遷」にはるか（遼）に及ばざる日本の者（太郎）という意味のようだ。司馬遼太郎は作品の中で、自分のことは何も語らなかったもので、司馬遼太郎夫人の話から、とのこと。実家は薬局で父親が薬剤師という。書き上げた原稿は7万枚以上という歴史小説の大家である。72歳の時、腹部大動脈瘤破裂による大出血で亡くなった。存命中は坐骨神経痛で苦しんでいたようであるが、腹部大動脈瘤が原因だったのではという説もある。しかし、大の病院嫌いだったので真相はわからない。

少し予定時間を残して講演は終了したが、質問が相次ぎとても有意義な講演会であった。



基 調 講 演



沖縄県薬剤師会製作テレビコマーシャルも紹介された

薬と健康の週間

薬 祖 祭

(波之上宮本殿)



「“薬と健康の週間”行事は、毎年、波之上宮本殿で、朝10時からの薬祖祭を皮切りに行われる。宮司の祝詞の中に薬祖神、少彦名命（スクナヒコナノミコト）に薬の取扱いに間違いがないよう病める人の苦しみの癒えんことを奏上して、薬剤師会、卸協会、小売商組合、薬種商協会等の各団体名を言上されている。朝の澄みきった潮風の流れるさわやかな雰囲気の中で、各団体長はじめ関係業界人で厳修される。医薬の道を天職とする薬業人にとって年一回の薬祖祭には、この一年の無事を感謝し、薬の取扱いの過ちのないように祈願したいものである。」

と、故仲松弥元氏（第六・八・十一代会長）は、薬祖祭雑感を寄稿されている。仲松氏は、昭和37年に製薬会社が軒を並べる大阪市道修町の少彦名神社より御分霊「神農（中国医薬の守護神）」を勧請して、那覇市波之上宮に依頼して奉祀された。道修町で毎年11月22、23日に神農祭が行われることから、波之上宮に神農が奉祀された翌年より、11月23日（勤労感謝の日）に薬祖祭が執り行

われるようになった。

参拝者には、病除祈願の張り子の虎を笹に結びつけたお守りが配られる。この風習は、日本で初めてコレラが大流行した年に道修町の医薬商が相議り、疫病除御薬「虎頭殺鬼雄黄圓（虎の頭骨を配合した丸薬）」を作り、神前で祈祷して庶民に無料で施し、虎と竹を組み合わせたお守りと共に配った。当時、コレラを「虎列刺」と書き、その猛威と怖さを誇示していたので、薬に“虎を殺す鬼”と名づけられた。

神農を祀る神農祭とは別に、東京、京都、名古屋をはじめ、各地で薬剤を祀る祭礼が行われている。祭神は日本の医薬の神として敬われてきた少彦名命と大国主命（オオクニノシノミコト）。祭日は土地ごとに違っていたが、近年、10月17日に統一され、薬剤師会や薬業界が祭主となって催している。

今年の薬祖祭は、10月18日（金）、晴れわたった朝の澄みきった潮風の流れるさわやかな雰囲気の中で、沖縄県薬業連合会と沖縄県で厳修された。（文責：事務局 大城）

薬と健康の週間

街頭キャンペーン



パレットくもじ前広場



北部地区薬剤師会
(イオン名護店前)



宮古地区薬剤師会
(サンエーショッピングタウン宮古前)



八重山地区薬剤師会
(サンエー石垣シティ前)

平成25年度「薬と健康の週間」(10月17日～23日) 行事表

月 日	時 間	行 事 名	場 所	実施団体
10月17日(木)	16:00～16:30	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	パレットくもじ前広場	沖縄県薬業連合会、沖縄県那覇市
	16:30～18:30	くすりと健康フェア 健康とおくすり相談会	パレット市民劇場 ロビー	南部地区薬剤師会
	18:30～20:00	くすりと健康フェア 県民公開講演会	パレット市民劇場	沖縄県、薬剤師会 那覇市
10月18日(金)	10:00～10:30	薬祖祭	波之上本殿	沖縄県薬業連合会、沖縄県
	10:30～11:00	永年勤続者表彰	波之上本殿	医薬品卸業協会
	13:30～14:00	認可外保育園子供用マスク寄贈	沖縄県庁福祉保健部長室	沖縄県医薬品卸業協会
10月19日(土)	13:30～14:00	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	サンエー石垣シティ前	八重山地区薬剤師会・沖縄県
	15:00～16:00	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	イオン名護店	北部地区薬剤師会、沖縄県
10月20日(日)	14:00～15:00	「薬と健康の週間」街頭キャンペーン	サンエーショッピングタウン宮古前	宮古地区薬剤師会、沖縄県
10月21日(月)				
10月22日(火)	13:00～17:00	第44回全国統一薬事講習会	沖縄県薬剤師会館	沖縄県医薬品登録販売者協会
10月23日(水)	10:00～10:30	沖縄県薬事功労者知事表彰 (被表彰者: 高良 武和 氏)	沖縄県庁福祉保健部長室	沖縄県
	16:00～17:00	「麻薬・覚せい剤乱用防止」 街頭キャンペーン	イオン北谷店前	沖縄県医薬品登録販売者協会 沖縄県

実務実習

平成25年度 第Ⅱ期薬学生実務実習報告

～4年目Ⅱ期が終了しました！～



薬学生実務実習受入委員会
委員長 我喜屋 美香

薬学生実務実習受け入れ4年目Ⅱ期が11月16日に終了しました。県内の11の保険薬局にて11名（5大学）の5年生が9月2日～11月16日の11週間にわたる実習です。

彼らは、この実習に出て来るまで、いくつかの難関を突破してきています。感想文にも表れていますが、現場の実習がどれだけ多くの影響を彼らに与えたか、いかに彼らの今後を左右するものになるのか・・・実習を受け入れた薬局は十分に感じていただけたと思います。

また、今回、青年部の企画した災害についての講演会は、多くの薬剤師の心に響き、参加した人々は皆、石巻から来県された岩渕先生の一言一言を噛み締めて聴講されていました。実習生にとっても、そのような実体験に

基づいた講演会を、大学では聴けない薬剤師のいる環境で聴き、薬剤師と語らい、考えることは、大学では出来ない素晴らしい体験になったことでしょう。

さて、次年度は今年度よりさらに多くの学生がふるさと実習に来ることになっています。未来を担う薬剤師の育成にお力をお貸しいただけることを望みます。

実務実習受入薬局の先生、他スタッフの皆様、協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

以下に、11名の感想文を掲載します。

実習薬局（11薬局）

- | | | | |
|---------------|---------|--------------|-----------|
| ○あいらんど薬局 さつき店 | ○クララ薬局 | ○すこやか薬局 新川店 | ○会営薬局うえはら |
| ○たいせい堂薬局 首里店 | ○こくら虹薬局 | ○薬志堂薬局 首里店 | ○会営薬局とよみ |
| ○ひかり薬局 宜野湾店 | ○豊見城薬局 | ○ワタキュー薬局 内間店 | |

協力施設・委員会・団体

- | | | | |
|------------|---------|--------------|----------------|
| ○がじまる薬局 | ○こくら虹薬局 | ○すこやか薬局 新川店 | ○ドラッグイレブン 新都心店 |
| ○ぼたん薬局 | ○福寿薬局 | ○すこやか薬局 野嵩店 | ○マツモトキヨシ 中城店 |
| ○(株)ダイコー沖縄 | ○(株)薬正堂 | ○すこやか薬局薬歴委員会 | ○南部地区薬剤師会 |
| ○学校薬剤師部会 | ○青年部 | ○薬情報センター | ○会営薬局医療センター前 |
| ○学校薬剤師の先生方 | | | (以上、順不同・敬称略) |



記念撮影

後列(指導者)左より 亀田真弓氏、我喜屋美香氏、仲座方利氏、大塚成一郎氏、平良栄子氏、神村武之会長、玉城有子氏、比嘉一登氏、宮城敦子氏、仲真良重氏
前列(薬学生)左より 上原あかねさん、仲里翔太さん、國吉沙也佳さん、崎浜康豊さん、上原美樹さん、金城直美さん、安谷屋源さん、喜屋武千早さん、山口義樹さん、儀保翔さん、稲嶺盛佳さん

平成25年度実務実習Ⅱ期生からの体験記・感想

第一薬科大学5年 金城 直美

(すこやか薬局 新川店 実習)
(指導薬剤師 比嘉 朋子)

薬局実習を始めてから2カ月半はあっという間でした。患者様の表情を身近に感じてとても緊張していたのがついこの前のようです。

実習でお世話になったすこやか薬局さんでは、薬剤師に必要な技能や知識だけではなく、患者様を第一に考えたマナーの大切さ、未来の薬局の姿についても学ばせていただきました。

すこやか薬局さんだけではなく、OTCや学校薬剤師、お薬相談会などでお世話になった薬剤師の方々にも様々な知識や経験を教わり大変勉強になりました。

この薬局実習を通して、「自身の活動範囲は努力すれば広げることが出来る」と感じました。この経験をフルに生かして患者様に寄り添える薬剤師になれるよう努力していきたいです。

徳島文理大学(香川薬学部)5年 稲嶺 盛佳

(会営薬局うえはら 実習)
(指導薬剤師 仲真 良重)

2期の薬局実習は、1期の病院実習と比べ外部実習も多く、実習先の会営薬局うえはら以外にも薬剤師が活躍する現場を多く見ることができ、貴重な体験をすることができました。他の医療従事者に比べ薬剤師の活躍する場は多く、それに付随して多くの知識、他職種とのコミュニケーション力も持たなければならないのだと感じました。また、会営薬局うえはらを含め、実習先々での薬剤師の先生方を見て、将来どのような薬剤師になりたいかを考えさせられる良い実習になりました。

沖縄は薬剤師が不足しており、普段の業務を行うだけでも大変な中、実務実習を受け入れてくださいました会営薬局の皆様、外部実習で受け入れをしてくださいました薬剤師の先生方、ありがとうございました。私にとって有意義な2カ月半を送ることができました。

第一薬科5年 國吉 沙也佳(ひかり薬局 宜野湾店 実習 指導薬剤師 仲座 方利)

9月の初旬から11月の中旬まで、駆け足で終わったような11週間でした。

病院での実習は、ひとつの施設内で完結したもので、病院の中だけで多くのことを学び取ることができるものでしたが、薬局実習では、外部実習が主となり、様々な薬局や施設での実習を体験することができました。

ドラッグストアの実習では、薬剤師は顧客のセルフメディケーションの手伝いを行える存在であり、顧客が最も望むものが一体何なのかを汲み取るコミュニケーション能力が重要なのだということを。災害活動の講義では、緊急の現場において、薬剤師も医師や看護師と同等に活躍できるのだということを。在宅の実習では、薬剤師が在宅医療に介入することで、患者のコンプライアンスの向上さえも

望めるのだということ。その他、学校薬剤師の体験や県薬でのDI業務の体験、漢方製剤の調整に医薬品卸業の見学、薬歴の書き方についての講義や地域のおくすり相談イベントへの参加など。

これらの実習に参加し、現場を見て、体験することによって、大学の講義を受けているだけでは決して知ることのできない、多くの貴重な経験を得ることができました。そしてなにより、薬剤師としてどう在るべきなのか。その根幹にあるとても基礎的で、けれどひどく重要な事柄を見出すことができたように感じます。

貴重な経験を与えてくださった薬剤師の先生方には、心から深く感謝します。ありがとうございました。

福岡大学5年 山口 義樹

(会営薬局とよみ 実習)
(指導薬剤師 比嘉 一登)

薬局実習を終えて、まず一番に感じたことは大学での講義と現場とのギャップだと思う。大学では、国家試験のための勉強が主になるのは当前だし、現場の仕事内容などはイメージしづらい。自分が実習を行う前の薬局のイメージは、失礼ながらも、調剤ばかりでやりがいがないと感じていた。

しかし、実習をしてそのイメージは大きく変わった。その中でも外部実習はとても考えた方を変えてくれたと思う。大学では、学校薬剤師や在宅医療、薬局製剤、卸し、スポーツファーマシストなどのことはほとんど講義でもやることはない。しかし、これらの外部実習を通して、様々なところで薬剤師は活躍しており、薬局の薬剤師の仕事の内容の幅の広さに驚いた。

薬局内でも、薬剤師の先生方が積極的に勉強会を開いて勉強熱心だし、患者さんに安心して薬を飲めるよう努めているのが肌で感じた。また、服薬指導の丁寧さについても、患者さんと直接関わることが多い薬局薬剤師の特徴だと実習をして思った。こういったことがわかり、薬局というものに対する考え方は実習前後で大きく変わった。

最後に、人数も少なく忙しい中、丁寧に指導してくださった薬剤師の先生方、会営薬局とよみの方々に感謝するとともに、地元沖縄で薬局の実習が行えたこと、外部実習で様々な経験が積めたことを踏まえ、今後の進路も考えていきたいと思う。

九州保健福祉大学5年 上原 あかね

(あいらんど薬局 さつき店 実習)
(指導薬剤師 亀田 真弓)

緊張から始まった薬局実習も11週間で終了し、実習を振り返ってみるといろいろなことが思い出されます。特に初回の投薬では、患者さんに「声が小さい」と指摘され、この先うまく実習を行っていけるのか不安になったことや、患者さんのマシンガントークに圧倒されて話し出すタイミングが掴めなかったこと等が既に懐かしく感じられます。

指導薬剤師の亀田先生に励まされながらの実習は、投薬を重点的に経験させて頂き、多くの患者さんと関わることができました。こんなに投薬を経験できる環境はなかなか無いと思うので、今回、あいらんど薬局さつき店で実習を行えて本当に良かったです。

実際に、投薬は毎回緊張しましたが、終えた後の達成感は座学では決して得ることのできないものだと感じました。また、知識だけではなくコミュニケーションスキルや思いやりの心が薬剤師にとって大切であることを改めて実感しました。

本実習では、外部実習も充実していて、学校薬剤師や医薬品流通、在宅やドラッグストア等、薬剤師の職域の広さを知る良い機会になりました。

大学に戻っても本実習で学んだ知識や経験を活かし、一人前の薬剤師になるために努力していきたいと思います。あいらんど薬局の皆様をはじめ、実習に関わって下さった方々、本当にありがとうございました。



オリエンテーション

長崎国際大学 5年 喜屋武 千早（薬志堂薬局 首里店 実習 指導薬剤師 玉城 有子）

9月2日から調剤薬局実習が始まりました。最初の週は分包機の使い方や、薬局に来た患者さんへの窓口対応など、基本的な内容を教えていただきました。しかし、実習が始まってすぐに患者さんとお話するような距離にいる緊張感が病院と違って新鮮でした。

また、処方箋の見方の中でも保険関連の欄に気を使うことに慣れていったため“あたふた”しながら窓口の業務を体験していました。

調剤実習が始まると、処方箋の見なければいけない内容が急激に増え、調剤ミスもとても多かったです。中でもジェネリック医薬品への変更かを確認し忘れた調剤が多く、軟膏も混合した後に気づくことができました。また、ジェネリックかどうか判断しにくい薬もあったことや、途中から名称変更があるなど自分の中での混乱はありましたが、少しずつ覚えて調剤業務を体験していました。

問屋さんから届いた薬を検品する業務や在庫確認、借用で隣の薬局に薬を借りに行く業務も体験しました。薬局に薬がないと、患者さんにはデメリットしかないのに薬をできるだけ欠かすことがないように、薬局の経営上デットストックも少なくするというバランスがとても難しいと感じました。

課外実習では、OTC・DI・在宅・漢方・薬局製剤・学校薬剤師の業務実習や問屋さん見学で、薬剤師が地域に貢献できる業務と薬局を支える職業をより深く知ることができた体験となりました。

また、災害講演では、体験したことのない状況下で、薬剤師としてどのように関わって

いくかを具体的に教えていただき、質問もできて勉強になりました。さらに、「おくすり相談会」では患者さんと薬剤師という形ではなく、地域の方々と薬や健康についてサポートすることを通して、地域に貢献しているということを実感できるイベントでした。

実習が後半になると、服薬指導をさせていただき機会が増え、患者さんと直接話して患者さんに対する質問内容と指導内容もそれぞれで戸惑いながらも何人かの患者さんとお話することができました。そのなかで、想定していなかった質問で私が固まってしまう、患者さんを不安にさせてしまうこともありましたが、指導薬剤師の先生のフォローもあり徐々に落ち着いて答えることができました。

さらに、経過を追って服薬指導に協力してくださる患者さんのおかげで、症状の移り変わりやアドバイスのバリエーションなども勉強することができました。

他にも、服薬指導の際に「お薬手帳」を積極的に勧めていくなかで「お薬手帳」の重要性についても患者さんに紹介し、実際に作成していただけたので、実習している中で一番、自分の説明で何か役に立てたと思うことでした。

最後に、実習を終えてたくさんの地域の方や薬剤師の先生方の支えがあったと実感できる内容で、将来薬剤師になったときに即戦力になれるように努力できた2ヶ月間でした。地域に貢献できるような薬剤師を目指して大学に戻ってからは勉強していきたいです。



医薬品情報業務の実習

九州保健福祉大学 5年 仲里 翔太

(ワタキュー薬局 内間店 実習)
指導薬剤師 玉城 智恵子

病院と薬局、それぞれ11週間の実習が終わり、多くの事を学ばさせていただきました。今では、調剤棚の医薬品の配置を覚えて、商品名や一般名、薬効などもある程度一致することが出来ていますし、患者さんに服薬指導する時も、電子薬歴やお薬手帳を見て、前もって患者さんに伝えたいことや聴き出したいことを考えて行う事が出来るようになりました。

今までに学校で習ってきたことと病院や薬局での大きな違いとしては、やはり直接患者さんと接するということです。

最初、服薬指導を行うときは、とても緊張して伝えたいことも伝えきれずに、患者さんに迷惑をかけたかも知れません。指導薬剤師の先生をはじめ、たくさんの方々に教えてもらい、最終的には自分一人でも服薬指導が行えるようになりました。患者さんに服薬指導を行った後に「兄ちゃんの説明とても分かり易かったさあ。ありがとうね。」と言われた時は、本当に嬉しかったです。

現場で働き、少しでも医療に貢献できるように、大学に戻った後は薬の知識やコミュニケーション能力を鍛えて、成長した姿で沖縄に帰って来られたらと思います。

とても内容の濃い充実した実習を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

第一薬科大学 5年 崎浜 康豊

(たいせい堂薬局 首里店 実習)
指導薬剤師 大塚 成一郎

後期実習を通して感じた事として、患者さんとの距離が凄く近いと感じました。

この実習の中で、ある患者さんに出会いがありました。その方は子供のお薬を取りに来ていたのですが、お薬の飲み方について、子供が嫌がって薬が飲めない、飲みたくない、という場合はどうするの?という質問をされました。薬の説明以外の事を凄く考えさせられる服薬指導となりました。この事から、患者さんの背景を予測する事、お薬を服用する、させる方法を考える事、粉碎や飲み物に薬剤を溶かした時の薬物動態や飲み合わせ、薬の味など、それらを処方箋受け付けから、予測する事を学びました。

他に、服薬の説明を聞きたがらない人への服薬指導は要点だけをまとめた指導をしたり、薬を周りに知られたくない人への対処の仕方など、患者さん一人一人の指導の違いを体験しました。薬の配達、健康相談、OTC薬の選別や医療講演会への案内、症状から医療機関への案内など、実習を通して患者さんの事を考え、その人のためになるようにあらゆる事を考える事、それを行うための薬の知識をつける方法を体験させて頂きました。

最後になりましたが、実習を受け入れて下さった、たいせい堂薬局の大塚先生、他スタッフの皆様、二ヶ月半という長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。

第一薬科大学 5年 安谷屋 源 (豊見城薬局 実習 指導薬剤師 玉城 賢也)

私は、一期が病院で二期が薬局でした。病院で薬や病態、検査値について習ってきたとはいえ、不安があり、どのようなことを薬局でやるのだろうとワクワクしながら実習に臨みました。

薬局に来た当初は覚えることが多く、頭も体もキツかったのを覚えています。しかし、同じ日に入った社員さんと助け合い、忙しい中、薬剤師や事務の皆さんに薬や業務内容など色々と教えてもらい、2週間が経つ頃には毎日の実習が楽しくなっていました。

また、患者さんに対しての姿勢や接し方な

ど、薬学の知識以外にも教えられ、患者さんや他の医療関係者から必要とされる薬剤師になりたいと思うようになりました。

他の薬局や精神科病棟を見学に行ったり、初めて知る機械に見て触れる機会もあり、充実した実習にしてもらうことができました。忙しい中、実習を受け入れてくださった豊見城薬局には本当に感謝しています。

今回の実習で得た知識や姿勢を忘れず、大学卒業後も勉学に励み、立派な薬剤師になりたいと思います。

福岡大学5年 儀保 翔（クララ薬局 実習 指導薬剤師 宮城 敦子）

私は、クララ薬局さんで約二ヶ月半、実習生として受け入れて頂きました。既に1期で病院での実習を行ってきたのですが、病院とはまた違った薬局ならではの業務を体験することができ、大変貴重な経験ができました。一つ一つの薬剤の特徴について詳しく教えて頂き、薬剤そのものと向き合うことで改めて再認識させられる部分もありました。また、患者さんと長い時間触れ合う中で、服薬指導方法にもいろいろあることを学び、患者さんのニーズに合った受け答えを実践することができました。

薬局での調剤や投薬だけではなく、外部での実習も多数あり、卸売業者見学、薬剤師会のD I室、漢方薬局実習、薬局製剤、学校薬剤師、災害講演会など、六年制故の体験ができ、薬剤師としての役割をいくつも知ること

ができました。特に印象に残ったことは、ドラッグストアでの実習で、お客様に対し商品の特徴を説明し、それぞれの症状に合ったお薬を薬剤師が提供できるO T C薬こそ、薬剤師としての技量を発揮できる場所であると実感しました。

大学で分野ごとに学んで、まだ点と点であったことが、実際に現場に出て応用することで繋がっていき、線になっていくことを感じながら実習に励むことができました。同時に、実践してみないと分からないことや知識の乏しさ、コミュニケーション力の低さを改めて知り、まだまだ学ぶべきことがたくさんあると痛感させられました。

この二ヶ月半で学んだことが、社会に出た時の糧と自信に繋がるように、十分に活かしていけたらと思いました。

第一薬科大学5年 上原 美樹（こくら虹薬局 実習 指導薬剤師 平良 栄子）

11週間の薬局実習は、たくさんのことを学び、体験することができました。

薬局薬剤師は病院薬剤師と違って、学校薬剤師やスポーツファーマシスト、訪問医療などで地域保健、地域医療にとっても深く関わっていると思いました。

O T Cを使つてのセルフメディケーションも薬剤師のアドバイスがある事で、効果も安全性も上がる事もわかりました。O T Cの選び方も教えてもらったので、自分自身の健康管理にも活かそうです。D I業務は、情報を相手に合わせて加工する事が難しかったです。

漢方薬局では、医食同源・薬食同源を学び、生薬を計量して自分に合った漢方薬も調剤させてもらえました。他にも、卸見学、デイサービス・ケアマネジャーの見学・体験もでき、とても勉強になりました。服薬指導の時は、患者さんに優しい言葉もかけてもらい、とても嬉しかったです。

今回の実習は、調剤薬局の仕事や、服薬指導のコツ、ポイントも学べてとても勉強になりました。実習で学んだ事を活かして、立派な薬剤師になれるようにこれからも頑張ろうと思います。



学校薬剤師について学ぶ

研修会

一般用医薬品の薬局等における 対面販売・相談対応等に関する講習会報告

日時：平成25年 8 月 4 日(日) 13:00～14:40

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<式次第>

○ あいさつ

○ 講習 『セルフメディケーション支援と一般用医薬品販売における薬剤師の役割』

日本薬剤師会 一般用医薬品委員会

東京薬科大学 薬学部 一般用医薬品学教室(佐藤幸吉記念教室) 教授 渡辺 謹三 先生

開局委員会委員長 新垣 秀幸

沖縄県薬剤師会会長 神村 武之

去る8月4日に一般用医薬品の薬局等における対面販売・相談対応などに関する講習会が日本薬剤師会一般用医薬品委員会、東京薬科大学渡辺謹三教授を招いて開催されました。参加者も40名を超え好評を得た講習会となりました。

講習会は、次のように進みました。

- (1) セルフメディケーション支援における薬剤師業務の特徴
- (2) 平成23年度受診勧奨事例調査結果
- (3) 一般用医薬品に対する消費者の意識
- (4) 一般用医薬品のネット販売についての諸問題
- (5) 今後の取り組みについて

(1)の項目について、セルフメディケーションの意味に始まり、行うメリット、注意点、また、薬局へ来局する方の要注意の症状を中心に講習されました。

合わせて、薬剤師法第一条、薬剤師の任務について、現在、調剤へ偏っている状態であることや、早めに調剤＝医薬品の供給＝薬事衛生が等量に行われ、公衆衛生の向上及び・国民の健康に寄与するのが、これからの薬剤師の是正しなければならない任務と薬剤師教育の問題点として示されました。

課題として、薬剤師は地域においてファーストアクセスかつ唯一の医療人で、薬剤師の相談能力が相談者の転機に大きな影響を与えることがあることや、医薬品の在庫などを含む体制整備、広い知識と技術を備えたジェネラリスト薬剤師になるための自己研鑽が必要であること、薬剤師の一般医薬品の選択が相



開局委員会

委員長 新垣 秀幸



あいさつ

神村 武之 会長



司 会

新垣 秀幸 開局委員会委員長



講師 渡辺 謹三 先生

談者にとって「良く効いて安全であることは当然で、さらに自分に合った薬を求めている」(相談者の意向や好みの考慮)が必要。「解釈モデル」を理解した上での助言・情報提供が必要(助言、情報提供は相手に伝わらない限り無力)な課題と講習されました。

(2)の項目について、受診勧奨により疾患の治療に至った事例報告、適切な医薬品の販売に至った事例報告、医療機関からの協力がもたらした事例、等々の報告がありました。

セルフメディケーション支援をより有効に実践し、薬剤師職能として広く認知・評価される課題として、

- ① 一般医薬品のラインナップ充実。
- ② 顧客からの情報収集能力の向上。
- ③ フィジカルアセスメント能力の向上。
- ④ トリアージした結果を適切に顧客に説明する能力。
- ⑤ 一般医薬品に関する知識の向上。
- ⑥ セルフメディケーション支援に関する薬剤師職能の消費者に対する普及・啓発・宣伝。
- ⑦ セルフメディケーション支援において薬剤師に求められる知識、技能、態度の薬学教育・薬剤師教育への取り込み・応用。

等々の説明がありました。

(3)の項目では、アンケート・調査の結果を中心に報告がありました。

(4)の項目については、現在、厚生労働省においても検討中であり、詳しい情報は日薬でも得られていないとの報告がありました。

(5)の項目、今後の取り組みとして、

- ① すべての医薬品供給時に、もっときめ細やかな対応を！！
- ② セルフメディケーション支援をより有効に実践し薬剤師職能として広く認知・評価されるための実践が必要。
- ③ これからの薬剤師の任務の実行と薬剤師教育へ応用することにより、公衆衛生の向上及び増進・国民の健康な生活に寄与する。

以上、短時間にまとめられていましたが、充実した有意義な講習会でした。

(4)の項目についてですが、ほぼ全部のOTC医薬品のインターネット販売は始まります。OTC医薬品協会より、第1類医薬品の選考委員会に薬剤師会、医師会を外すよう要望が出ており、これからますます薬剤師としての対応、活動、自己研鑽が必要となってきます。

研修会

開局委員会主催 第8回スキルアップ研修会報告

日時：平成25年9月8日(日) 13:00～14:30

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<式次第>

○ あいさつ

○ 講習『骨粗鬆症診療におけるガイドライン活用のポイント』

～知っているようで知らない骨代謝マーカーと骨粗鬆症治療薬との関係～

講師：北陸大学 薬学部 部長 三浦 雅一 先生

司会：開局委員会 島 袋 さゆり

沖縄県薬剤師会 会長 神 村 武 之

「骨粗鬆症診療におけるガイドライン活用のポイント」と題し、北陸大学薬学部教授の三浦雅一先生を講師としてお招きし、第8回スキルアップ研修会が開催されました。

平成25年3月17日の第5回スキルアップ研修会では、骨粗鬆症の基礎知識として「骨の仕組みと役割」、「骨粗鬆症の病態」、「骨粗鬆症の診断と治療」を勉強しました。

今回は応用編として、「骨粗鬆症のガイドライン活用方法」、「骨代謝マーカー」、「治療薬」に関してご教授して頂きました。

骨粗鬆症の予防と治療のガイドラインが2011年に改訂され、その特徴として以下の5点があげられています。

- ① 骨質に関する研究成果を反映
- ② 骨折危険因子とFRAX®をとり入れた新しい薬物治療開始基準の揭示
- ③ 生活習慣病と骨折リスクに関する新情報の提供
- ④ 続発性骨粗鬆症の情報の充実
- ⑤ 新規に保険適用を受けた薬剤と骨代謝マーカーを記載

その中でも、骨代謝マーカーを測定することで、骨粗鬆症治療薬の効果的な選択ができることと、薬物療法における薬効評価ができるということがとても勉強になりました。例えば、マーカーのうち「I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTX)」は、骨吸収マ-

豊見城中央病院
喜久山 有沙



カーで、ビスホスホネート製剤やSERMなど骨吸収に關与する薬剤の効果を判定するマーカーとして活用できます。

骨粗鬆症の治療効果は患者自身には実感しづらく、服薬の脱落が非常に多いという現状があります。しかし、治療薬投与から効果が確認されるまでの期間は、一般的に「X線検査が6か月～1年」かかるのに対し、「骨代謝マーカーは2～3か月」と早期に現れます。そのため、患者に骨代謝マーカーの測定値を提示し、将来の骨折リスクをわかりやすく説明することで、治療のアドヒアランス向上に繋がるのが期待されています。

また、薬物治療で骨代謝マーカーが有意な変化を示さない時に考えられる原因の一つとして、正しく服用（服用時点が特徴的）あるいは自己注射できていないことがあります。



あいさつ 神村 武之 会長



司会 島袋 さゆり 氏



講師 三浦 雅一 先生



私達薬剤師は、このマーカーの変化から、食事とのタイミング（ビスホスホネート）や自己注射の手技の確認をし、修正することで、より効果的な治療効果をあげることができると考えられます。

今後、骨代謝マーカーを用い、検査値の可視化によるアドヒアランス向上、効果的な骨折リスク軽減に繋がるように有効に活用していきたいです。

最後に、FRAX®は、WHOが提案した骨折リスクの評価ツールで、日本版は日本人の寿命と骨折発生率をもとにして作成されており、ウェブ上〔<http://www.shef.ac.uk/FRAX/index.htm>〕で公開されていますので、薬物治療に役立ててください。

三浦雅一先生、2回にわたり、面白くてわかりやすく、興味の湧くご講義ありがとうございました。

お知らせ

＜県薬が会員に販売している印刷物等＞

○国保総括票	25枚	1冊	100円	○お薬手帳カバー	1枚	22円
○市町村別請求書（その1）	50枚	1冊	160円	○薬歴カード	各1枚	5円
○市町村別請求書（その2）	1枚		10円			
○調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円			
○管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円			
○処方せん	100枚	1冊	160円			

（国保（本人・家族）青色）
（社保（本人）白色）
（社保（家族）桃色）

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色（薄青色）14ページ 価格 税抜き12円

【現行リニューアル版】表紙色（薄黄色）34ページ 価格 税抜き22円

部会だより

青年部会主催 岩渕安史先生講演会報告

日時：平成25年10月12日（土） 19:00～21:00

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール



青年部会
部会長 石川 恵市

去る10月12日（土）、岩手県石巻市より、講師の岩渕安史先生を招いての講演会が開催された。先生の来沖スケジュール上、講演日時が定例理事会と重なってしまったが、神村会長をはじめ各理事の先生方のご協力のもと、講演会を優先して、定例理事会の開催時間を早めていただき、結果として講演会への参加者が74名と大盛況となった。

その後の懇親会では、約50名の出席者が夜遅くまで語り合う等、より親睦を深めていた。

また、薬学生実務実習期間とも重なり、実習学生11名へ参加を積極的に促して下さった実務実習担当理事の我喜屋美香理事にも一言お礼を申し上げたい。

最後に、講演会を開催するにあたり、以前より岩渕先生と交流のあった牧野唯右先生には、多大なご協力、ご指導をいただいた。心からありがとうございます！

引き続き、普段からユーモアたっぷりの牧野語録による寄稿文をどうぞお楽しみ下さい。



岩渕 安史 先生

演題：過去の私、そして今の私
～東日本大震災を経験して～

講師：フレンド薬局石巻

元日赤石巻病院 薬剤師

岩渕 安史 先生

座長：とくりん薬局 赤嶺駅前店

牧野 唯右 先生



座長 牧野 唯右 氏



多くの若手薬剤師の参加で
盛り上がった情報交換会（右）

日時：平成25年10月12日（土） 21:30～

場所：おもろ殿内（那覇市）



岩渕安史先生講演会うらかた日記



とくりん薬局 牧野 唯右

盛況のうちに無事、講演会を終えることができ、とにかく座長を任せられた身としては安堵の気持ちでいっぱいであった。いや、これホント。

裏話になるが、講演直前まで岩渕先生持参のPCが起動せず、2人で冷や汗タラタラ流していたからだ。しかもバックアップを取っていなかった不手際さ。「震災の経験を踏まえて、これから『リスクマネジメントは重要だ』ってな事を含めた話をするのに俺らできてないじゃーん。芦田愛菜ちゃんが将来の夢として『薬剤師』を挙げているのにこんな姿、俺らソッコー彼女の夢潰すよ？」なんてことを半ば諦めながら話し、“スライドを使用しないトークショー”への移行を2人涙目ながら覚悟をしていたのだ。とにもかくにも、PCは2人の心をもてあそんだ末に、無事立ち上がってくれた。おのずと「機動戦士ガンダム」のオープニング曲が頭をよぎったことに関して、同情しうなずく方も多いであろう。(ちなみに○を埋めたとしても正解は「カンダタ」でも「マンダム」でもないことを付け加えさせていただく)

まさかこの件^{くだり}を会報に載せるとは岩渕先生も思っていないだろうが、目を通すことはないだろうから・・・ま、いっか。

恐ろしく長く話が脱線しているので、そろそろ真面目な話をしよう。

震災前から震災後安定期に入るまでの“いち薬剤師”としての考えと行動を、失敗談を踏まえながら生々しく赤裸々に語っていただいたわけだが、講演を聴かれて衝撃を受けた方は多かったのではないだろうか？やはり人伝えに、あるいは書物を通して知識を得るよりも増してインパクトがあった内容かと思われる。他人の言葉を借りて話すことを良しとしない私の性格もあり、具体的な講演内容については伝達講習会でもないので割愛させていただく。が、今後もし同じような企画があるのであれば、是非とも皆様に参加していただきたい。直にその体験談を聴き、自分がその立場だったらどのように行動するか想像していただきたいからだ。心から思った次第である。

最後に、遠く東北の地から沖縄へ来ていただいた岩渕先生には誌面を借りてお礼を言いたい・・・目を通すことはないだろうが・・・ま、いっか。

大森眞樹先生との座談会

日時：平成25年8月2日(金) 20:00～21:30

会場：おもろ殿内(那覇市)

講師：大森 眞樹 先生

(熊本県山鹿地区薬剤師会理事)

演題：「私たちを取り巻く諸問題」について

若手薬剤師が盛り上がっている熊本から大森眞樹先生(41歳)をお招きして、座談会形式の講習会を標記内容にて青年部会が主催して開催されました。

大森先生は、全国で若手薬剤師に対して数多くの講演をされており、薬剤師の未来について熱く語るその姿から多くのファンがいます。また、Facebookでも北海道から沖縄まで全国各地に大勢の友達がおられることから、演題の「私たちを取り巻く諸問題」について多くの情報を持っておられました。先生は、毎年沖縄に来られて積極的な交流をされてきましたが、今回も大変有意義な交流となったことを報告します。

(報告：事務局 大城 喜仁)



居酒屋の壁にスクリーンで映し出し熱弁する
大森眞樹先生(左列左側)

部会だより

平成25年度学校薬剤師部会支部長会・研修会報告

日時：平成25年10月27日（日） 11:00～16:30

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

学校薬剤師部会
会計 村上 市子



10月6日に当初予定されていた学校薬剤師部会支部長会・研修会は、台風のため10月27日に変更し開催されました。

支部長会には、宮古支部長と八重山支部長も参加され、計12名で行われました。八重山、宮古、那覇浦添、南部、中部、北部の6支部から順次支部活動が報告され、離島の抱える問題・学校環境検査の改善点、環境衛生検査項目の実施状況、薬剤師の配置・新規事業、支部研修会のテーマ等について活発な意見交換が行われ、次年度へ向けた取り組みについてまとめました。

引き続き、午後1時より、副部会長の村田成夫氏の司会進行で、平成25年度学校薬剤師部会研修会が開催されました。参加者は44名。今回は、新規の研修会も加わり、7名の報告者が各自15分で時間をフル活用して伝達講習を行いました。

以下に、今年度実施された研修会・大会・協議会を列記します。

これら会議の出席者より報告を受け、参加者から活発な意見交換がなされましたが、時間の都合上、一部は次回に持ち越しとなりました。

研修会終了後は恒例の懇親会でした。和やかに話も弾み、研修会でのエピソードや会員の近況報告で盛り上がりしました。

最後は、次年度の九州山口薬学大会はみなで長崎へ行こう！とアピールして会を終了。最後まで残っていた皆様、お片付けを手伝っていただき御苦労さまでした。



写真提供：学校薬剤師部会

会 議 名	開催日	開催場所	報告者
第3回学校環境衛生研究協議会	7月21日	名古屋	前濱 朋子
第1回くすり教育研修会	8月 2日	東 京	大城 恭子
第23回アルコール健康教育大会	8月16日	東 京	笠原 大吾
第22回薬物乱用防止教育研究大会	8月17日	東 京	笠原 大吾
第72回九州山口薬学大会	9月16～17日	佐 賀	村田 成夫
平成25年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会	9月 5～ 6日	徳 島	大城 恭子
平成25年度学校薬剤師研修会	10月 6日	千 葉	村上 市子
日本薬剤師会学校薬剤師部会全国担当者会議	10月23日	東 京	前濱 朋子

部会だより

平成25年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会参加報告

平成25年10月28日、東京都の長井記念ホールにて開催されました卸薬剤師部会の研修会に参加させていただきました。

今回は2題の講演がありましたので報告致します。



(株)スズケン沖縄薬品 那覇支店
管理薬剤師 島袋 さゆり

講演1

薬局薬剤師が行う在宅医療の現状と

課題について

日本薬剤師会理事 日野 寛明 氏

<社会保障・税一体改革成案の3本柱>

①病院・病床機能の役割分担、連携の推進

どんなに虚弱になったとしても高齢者の60%は居宅に住み続けたいという意思を持っている。平成17年の調査において、すでに在宅医療を受けている患者の65%以上が、最後を迎える場所として居宅を希望している。死亡場所の推移は、1951年82.5%自宅であったが、2011年には76.2%が病院となっており、1978年を境に自宅と病院の割合が逆転した。

病気になっても職場や地域生活へ早期復帰できるよう、また医療や介護が必要になっても住み慣れた地域での暮らしを継続できるよう、将来像に向けての医療・介護機能再編の取り組みが必要である。

在宅医療1日あたり2011年は17万人であったが、2025年には29万人に推移し、約1.7倍になると考えられている。このため、施設から地域へ・医療から介護へサービスの拡充・地域特性に応じた一体化を推進していく必要がある。

②在宅医療の充実

「住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスを受けつつ、安心して自分らしい生活を実現できる社会」を目指し、2025年には

超高齢化となる人口変化までに体制整備を推進する。患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携強化を通じて、より効果的な・効率的な、医療・介護サービス提供体制を構築する。

平均寿命と平均健康寿命の差は10年あり、コストを含めた居宅での療養確保の体制整備・在宅医療・介護の連携を推進する。

③地域包括システムの構築

介護の将来像は「住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供できる地域包括ケアシステムの実現により、地域で自分らしい暮らしを人性最後まで続けること」を目標としている。

地域包括ケアの実現には、

- 政策形成（社会基礎整備・介護保険事業計画等の行政計画への位置づけなど）
- 地域の課題の発見・把握⇒知育づくり・資源開発の検討
- 市町村レベルの地域ケア会議の開催などの実施が実現へとつながる。

講演2

薬局薬剤師及び地域薬剤師会の在宅医療への関わり ～最後まで患者さんと寄り添うために～

日本薬剤師会 地域・在宅医療委員会委員長 長野県佐久市スター薬局 岩下 誠 氏

<薬剤師を取り巻く医療の現状>

①2025年問題の対策

日本は、高齢化のスピードが世界最速、高

齢人口が世界最多、世界有数の長寿でありどの国も経験したことのない超高齢化により派生する社会問題を抱えている。

高齢者人口の増加⇒特に認知症患者の増加
(2025年度:約450万人
→現在の約1.6倍増加の見込み)
⇒薬剤師が、今後、認知症患者にどのように対応していくか大きな課題となる。

②薬剤師職能の最終活用形

インターネットのOTC解禁など逆風が非常に厳しい。

在宅医療などで多職種と関わることによって薬剤師必要性の理解が深まり、より良い医療につながる。

⇒国民から必要とされる薬剤師へ

＜地域薬剤師会としての活動＞

①佐久薬剤師会（長野県）在宅推進委員会の働き

《活動理念・・・

薬剤師が最後まで寄り添えるように・・・》

薬剤師の訪問薬剤管理指導を促進し、地域医療レベルの向上と他職種連携強化。

佐久エリアの薬局すべてが患者の希望に添える在宅訪問を行える環境を整える。

《受け皿となる薬局の支援》

A：在宅医療基礎学習会の開催

(知識不足を解消)

○毎年1回 在宅医療の基礎研修会を開催する。

○初回手続きからレセプト請求までを勉強する。

○報告書の書き方や事例も織り交ぜながら行う。

○在宅患者がいない薬局がやり方を忘れないようにするため。

○勉強会でフォーマット等の変更があったら、伝達する。

B：地域医療連携学習会の開催

(やる気の向上)

○他職種を織り交ぜた交流研修の場
(訪問看護師)(薬剤師)(栄養士)
(ケアマネージャー)

○グループ討議⇒患者へよりよい情報提供

C：薬剤師のスキルアップ講習会の開催

(不安の解消)

○薬剤師が自信をもって在宅訪問ができるように企画。

○500点の価値を薬剤師も患者もより納得できるようにする。

②佐久薬剤師会(長野県) 医療用麻薬に関する取り組み

《佐久薬剤師会圏内の医療用麻薬調査

平成25年9月9日》

52薬局対象アンケート(回収率73%)

→ 処方せん受付枚数に対して医療用麻薬
処方せん割合:0.18%(全国的数値
とほとんど変わらない割合)

《解決への方略》

薬局間で医療用麻薬における情報を開示し、在庫を共有化することで、地域全体で応需体制を整える。

麻薬小売業者間譲渡申請をエリアで結ぶ。

→ 市町村を跨がない形でエリアを2つに分け、佐久市内で22薬局、南エリアで10薬局の譲渡許可申請を受ける。

《佐久薬剤師会・・・在宅支援薬局活用

マニュアルへの麻薬リンクの設置》

(特徴)

○オンラインではないため、定期更新が必要。

○その都度、費用が発生する。

○閲覧は誰でも可能(麻薬に関しては、パスワードあり)

○在宅患者支援ホームページのため、在宅支援薬局もわかる。

○各薬局の随時、ペーパーでの更新なので、パソコンの技量が不要。

○在庫状況等に関しては、用事確認。

【感想】

「住み慣れた自宅で必要な医療・介護を受けながら、最後まで自分らしい生活を送りたい。」

その願いを実現するためには、地域一体となった医療・介護の提供体制が不可欠です。

今回の在宅医療に関する研修会への参加は、各地域の在宅医療への取り組みや、薬局がどのような情報を求めているかを知る機会となり、医薬品卸の薬剤師としてスキルアップの必要性を痛感しました。

最後になりましたが、研修会参加の機会を与えていただき、ありがとうございました。今回学んだことを日常業務で生かしていきたいと考えております。

研修レポート

「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会(第1回)」 および「一般用医薬品担当者全国会議」報告

日時：平成25年10月6日(日) 12:00～16:00

会場：慶應義塾大学薬学部

去る10月6日に標記研修会がありました。研修会は、去年のプレ研修会を、今年度より一般医薬品の伝達研修会として開催されました。

研修会の内容は症候学を中心とした、現在4年生が履修している内容を行いました。LQQT SFAを使った問診に始まり、アルゴリズムを使った解析、考えられる病名、重軽傷のトリアージを中心に研修会がスモールグループディスカッションの形式で行われました。

平成25年度より4年生の学生のコアカリキュラにも採用されており、平成27年から静脈注射筋肉注射が、4年生の実習に採用されることになっています。

現在、一般販売の問題としては、症状にあった医薬品の数が少なく、患者に対して、最良な医薬品提供ができない状況にあることと、6年生を卒業してきた薬剤師が、現場とのギャップに困っていることが挙げられています。これらを是正するためには、第一類医薬品の113成分の迅速なスイッチと、新しい販売方法の確立が必要になってくると、インフル



開局委員会

委員長 新垣 秀幸

エンザの検査と薬の投与を例にして話されていました。

今年も伝達講習会を行いますので、症候学の自己研鑽、伝達講習会のご参加をよろしくお願い致します。

＜昨年度の一般医薬品販売制度

定着状況調査の報告＞

第一類医薬品の販売において、まだまだ無資格者の販売が見られ、薬剤師の100パーセントの販売が行われていません。情報提供もまだまだ100パーセントを満たしておりません。現在の販売方法も100パーセント行われていないことを考えると、新しい販売方法も確立できなく、6年生の薬剤師が履修してきた科目とのギャップが開くばかりになり、将来的に薬剤師の販売との関わりに問題が生じることとなると考えます。

寄稿

薬物乱用防止月間を終えて

期日：平成25年11月21日(木)

場所：那覇市立高良小学校

那覇市立高良小学校

養護教諭 祖慶 和美

社会の変化とともに、薬物乱用、喫煙の低年齢化が進行しているといわれています。小学校においても雑誌やテレビを通して、安易に薬物乱用の知識を得たり、十分な危険性や有害性を認識しないままに他の人から勧められる可能性も考えられます。

本校では、たばこや薬物の危険性、有害性を理解させ、誘惑を受けても断る事ができ、自分自身を守るための知識を身につけさせるため、毎年11月は薬物乱用防止月間を設けています。

今年度も、最も身近な薬物といわれる「たばこ」をとりあげ、全学年に外部講師をお招きし、講話や講演を実施いたしました。学校薬剤師の大城恭子先生が、低学年(1年生・2年生)に「みんなでやっつけよう! たばこ大魔王」というテーマでエプロンシアターを使いながらの禁煙教育をされました。子ども達は、学級担任がエプロンを着用し登場す

ると、すぐに目を輝かせながら顔をそこに向けました。たばこ大魔王が、「たばこの煙で地球の空気を汚して、ニコチンマンを使って人間の奴らに憑りついて、人間たちを病気にして、人間の世界をのっとるんじゃ〜」と言うと、子ども達は必死になって「ラブラブ・ビーム〜! ニコチンパッチこうせーん!」と言いながら、たばこ大魔王をやっつけます。みんなの力でたばこ大魔王を撃退し、エプロンの肺がピンク色になると、子ども達はたばこ大魔王をやっつけたと言って拍手喝采でした。

その後、大城恭子先生がエプロンシアターの内容を詳しく説明し、さらにプロジェクターを使いながら、たばこが体や環境に及ぼす影響やたばこを吸っている人の体の様子などを解説なさいました。子ども達は最後まで興味深く聞いていました。

子ども達のたくさんの感想の中から一部を紹介いたします。

<2年生>

- 今日、きょうこ先生がたばこのおはなしをしてくれました。わたしのお父さんは、たばこをすっているので、まえから「たばこやめて!!」っていつているのに、やめません。だから、今日のお話をします。
- ぼくは、今日、たばこのことをいっぱいおしえてもらいました。たばこはこわいなあと思いました。なぜかという、はいを黒くしたり、そしてがんというびょうきになってしまうからです。ぼくはたばこがいつうまれたのかききたかったです。
- たばこはこわいです。ぼくのお父さんはたばこを吸っているのでやめさせたいです。ぼくが大きくなったら吸わないようにしたいです。

<1年生>

- わたしは、たばこはずっとまえからからだにわるいとしていたけど、今日のべんきょうでもっとくわしくわるいことがわかりました。わたしがおとなになったとき、たばこはぜったいにすわないようにしたいです。

- 今日、大しろ先生のはなしをきいて思ったことは、たばこをすうとはいや口がきたなくなるといっていたので、おとなになったら大しろ先生のことばをおもいだしてすわないようにしたいです。それから、お父さんやお母さんに「これからもたばこをすわないでね」といいたいです。
- 今日、たばこの勉強をしていろいろわかりました。たばこはからだをよごしてしまうことがわかってお父さんにたばこをやめてほしくなりました。たばこはかぞくの体までよごしてしまいます。かぞくの体をよごしたくないです。

＜エプロンシアター「みんなでやっつけよう！たばこ大魔王」＞



エプロンシアター開始前に
ラブラブ・ビームを皆で練習



出番まで廊下で待機するひょうきんな宇根良太先生
(高良小学校のヒーロー“タカレンジャー”としてこのあと登場)



「ラブラブ・ビーム！ ニコチンパッチこうせ〜ん！」



たばこが体や環境におよぼす影響やたばこを吸っている人の体の様子を解説する大城恭子先生

月例相談会

第110回健康とおくすり相談会報告

日時：平成25年10月17日(木) 16:30～18:30

場所：那覇市パレット市民劇場 ロビー

担当：南部地区薬剤師会



おもろ薬局 照屋 秀子

台風26号で伊豆大島に大きな被害がテレビで報じられる中、平成25年10月17日パレット市民劇場ロビーにて、くすりと健康フェアにおける「健康とおくすり相談会」が行われました。

当日は、開始前から大勢の方が待っていたので、開始時間より少し早めに相談を始めました。いつものように機器（体成分分析器、血圧計、動脈硬化度測定）による健康チェックの後、相談となりました。

最近、この相談も県民の皆様にも知られるようになり、お薬手帳を持って相談に来る方も増えて、お薬手帳の情報を活用し、他に使っている薬、健康食品、サプリメント等の飲み合わせや内容を確認してアドバイスできるので、より薬剤師を身近に感じていただけたのではないのでしょうか。

相談会にいらした方は、健康寿命が気になりだした中高年の方が多いように感じられました。

その中で、血圧降下剤を飲んでいる方の相談が多く、1日3回の食事をバランス良く取ることの大切さや、運動は毎日無理せず継続できる事から始めてほしい事を、また便秘のセンナを長年使用している方には時間をかけて便秘を良くする方法をアドバイスしたり、難病の相談もあつたりと、8人の相談員は2時間の間に60人以上の相談を受け、休む間もありませんでしたが相談会は終了しました。

今回の相談会は、実務実習生の参加もあり、いつもより賑やかな相談会となりました。

相談員の先生方お疲れ様でした。



健康とおくすり相談員

- | | | | |
|---------|--------|--------|---------|
| ○金城 栄一 | ○照屋 秀子 | ○新垣 秀幸 | ○山里 美恵子 |
| ○川上 雄一郎 | ○玉寄 睦子 | ○上原 陽子 | ○玉城 有子 |

月例相談会

第111回健康とおくすり相談会報告

日時：平成25年11月16日(土) 9:00～17:00
場所：うるま市健康福祉センター うるみん
担当：中部地区薬剤師会

なでしこ薬局 渋谷 貴子

平成25年11月16日、うるま市の健康福祉センター「うるみん」にて、健康祭りが開催されました。

「うるみん」にはプールや運動施設などもあり、日頃から当薬局の患者様もかなり利用されている施設です。そのためか、健康に興味の有る方々が多く健康相談にいらしてくださいました。

今回私は、お薬相談のような行事に初めて参加させていただくこともあり、いつも通りの知識で十分に対応できるかどうか少し心配な部分もありました。

薬局で患者様に接する時、大体は薬についての説明、飲み方、検査データなどが主な話題になります。特に門前薬局などの場合はさらに話す内容なども限定されて来る事が多いので、今回の健康祭りでのいろいろなお客さまからの相談はとても新鮮でした。

身長がわからない、血圧なんて測ったこともないと言う方もいれば、通常病院に定期的に通われていて、かなり、薬や病気についての知識の高い方もいらっしゃいました。

全く薬剤師と話したことの無いお客さまから健康に生活するにはどうしたら良いのか？という大まかな質問を受けた時は、普段あまり投薬する時に聞かれた事がないので何から説明しよう・・・と考えたり、そこから派生したいろんな趣味の話などを時間を気にすることなく聞いてあげられるのもなかなか楽しい時間でした。

一方、普段薬剤師と接する機会の多い慢性疾患の患者さまも多くいらっしゃいました。病院に通っていれば薬剤師と話す機会も多いはずですが、薬局とは違う場所と言うのもあってなのか、かなりフランクに話をされていられる方も多かったようです。中にはおそらく薬や病気に関する同じ質問を何度も何度も心配だから尋ねられているのであろうという感じの方もいらっしゃいました。(多分、何回も同じ説明聞いているんだろうな・・・)と思いつつも再度説明していると、「それは知らなかった、ありがとうございます。」と思いがけず言われることもありました。たまたまいつもかかっている薬局で聞く話と違っていただけだろうとは思いましたが自分自身もハッとさせられました。

かかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師がいることはとても患者様にとっては安心感のあることだと思いますが、薬剤師自体もいろんな話題を提供できるような知識を身につけておかなければ、ただ同じ話を繰り返していると患者様に思われても仕方ありません。

いろいろな質問を受けながらも新しい話題をどんどん提供できるような薬剤師でありたいと思いました。



□健康とおくすり相談員

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ○福地 健治 | ○江夏 京子 | ○蒔 初子 |
| ○照屋 洋子 | ○桃原 早香 | ○玉城 武範 |
| ○普久原 隆 | ○伊佐 常隆 | ○久場 弘 |
| ○照屋 林現 | ○渋谷 貴子 | ○石井 秀典 |
| | ○安田 泰行 | ○安里 純子 |

地区だより

第22回糸満市健康福祉まつり参加報告

日時：平成25年11月10日（日）9:30～16:30

場所：糸満市西崎総合体育館



新垣薬局 新垣 秀幸

去る11月10日に糸満市西崎総合体育館において、糸満市健康福祉まつりが開催されました。

まつりは、がんじゅうタイムと共催で開催され、会場の舞台では、健康福祉に関する催し物が終日演じられました。

南部地区薬剤師会のお薬と健康相談のブースも初めての参加でしたが、約80名のお客さんが利用してくれました。

お年寄りの中からは、「毎年参加しているのですが、薬剤師さんも来年来てくれるの？」と、うれしい言葉をかけてもらいました。

相談の先生方も、糸満市を中心とする先生方が相談委員、機器測定と参加されました。

また、実習中の学生も4名参加され、にぎやかなブースとなりました。糸満市側からは、時間通り終了できるか心配で回ってくるほど盛況のうちに終了しました。



❑健康とおくすり相談員

- | | |
|----------|----------|
| ○金城 栄 一 | ○高 良 武 和 |
| ○伊 敷 松太郎 | ○中 村 悟 |
| ○玉 寄 睦 子 | ○上 原 陽 子 |
| ○新 垣 秀 幸 | |

お知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！

年々、地区（支部）、部会の活動が活発化しております。

是非“おきなわ薬剤師会報”へ活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します！

告示

平成25年12月16日

一般社団法人 沖縄県薬剤師会
選挙管理委員会 委員長 野崎 真敏

一般社団法人沖縄県薬剤師会 補欠の代議員選挙の実施について

去る5月26日開催の全会第68回通常総会後に、3名の代議員が「全会を退会したこと」「全会の役員となったこと」の事由により、欠員となりました。（南雲翔太氏・那覇東支部、石川恵市氏・那覇中央支部、川上善久氏・南風原支部）

そのため、一般社団法人沖縄県薬剤師会定款第5条及び一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員選挙規程（以下、「選挙規程」という）に基づき、補欠の代議員選挙を、那覇東支部選挙区、那覇中央支部選挙区、南風原支部選挙区の3選挙区において、告示、立候補受付、投票、開票など統一した基準で行います。

今回の補欠の代議員選挙は、当該3選挙区における、平成25年12月8日現在の全会正会員に選挙権、被選挙権があり、立候補、届出、投票とも沖縄県薬剤師会選挙管理委員会となります。

補欠の代議員の定数は各選挙区1名で、その任期は正代議員の任期の残任期間となります。

立候補届出書類は沖縄県薬剤師会ホームページからダウンロード、または沖縄県薬剤師会事務局に請求して下さい。

なお、立候補が1名を超えない場合は選挙規程第17条第3項の規定により無投票当選となり、当該選挙区は投票がなくなります。

立候補届出及び投票は沖縄県薬剤師会に郵送あるいは持参で可能です。詳しくは代議員選挙告示日（平成25年12月16日）以降に全会ホームページをご覧下さい。

＜補欠の代議員選挙日程＞

告 示：平成25年12月16日（月）
立 候 補 受 付：平成25年12月16日（月）～ 平成26年2月14日（金）
立 候 補 締 切：平成26年 2月14日（金）
立 候 補 者 告 示：平成26年 2月15日（土）～ 平成26年3月 7日（金）
立 候 補 辞 退 締 切：平成26年 2月28日（金）
投 票：平成26年 2月15日（土）～ 平成26年3月 7日（金）正午必着
開 票：平成26年 3月 7日（金） 選挙期日
当 選 者 告 示：平成26年 3月 8日（土）

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電 話 098-963-8930

おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電 話 098-963-8935

試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電 話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（沖縄県薬剤師会ホームページからも閲覧できます。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>＞

薬事情報おきなわ No.225

2013年11・12月号 : Vol.28 No.6

薬事情報センター TEL : 098-963-8931

FAX : 098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 平成25年11月19日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	ビンダケルカプセル20mg (FX 6A)	20mg1カプセル	58,064.90	ファイザー	タファミジスメグルミン: TTR型アミロイドーシス 治療薬《トランスサイレチン型家族性アミロイド ポリニューロパチーの末梢神経障害の進行抑 制》(新有効成分)
	ソブリアードカプセル100mg (TMC435 100)	100mg1カプセル	13,134.60	ヤンセンファーマ	シメプレビルナトリウム: 抗ウイルス剤《セログ グループ1(ジェノタイプ I (1a) 又は II (1b)) のC 型慢性肝炎における次のいずれかのウイルス 血症の改善 1) 血中HCV RNA量が高値の未 治療患者 2) インターフェロンを含む治療法で 無効又は再燃となった患者》(新有効成分)
	アブストラル舌下錠100 μg (KH11)	100 μg1錠(フェ ンタニルとして)	573.60	協和発酵キリン	フェンタニルケエン塩: 癌疼痛治療剤《強オ ピオイド鎮痛剤を定時投与中の癌患者におけ る突出痛の鎮痛》(新効能・新用量)
	アブストラル舌下錠200 μg (KH12)	200 μg1錠(フェ ンタニルとして)	800.40		
	アブストラル舌下錠400 μg (KH13)	400 μg1錠(フェ ンタニルとして)	1,116.80		
注 射 薬	ゼブリオン水懸筋注25mgシリンジ	25mg1キット	18,712	ヤンセンファーマ	バリペリドンパルミチン酸エステル: 持効性抗 精神病剤《統合失調症》(新有効成分)
	ゼブリオン水懸筋注50mgシリンジ	50mg1キット	29,996		
	ゼブリオン水懸筋注75mgシリンジ	75mg1キット	39,531		
	ゼブリオン水懸筋注100mgシリンジ	100mg1キット	48,083		
	ゼブリオン水懸筋注150mgシリンジ	150mg1キット	63,368		
	ネスブ注射液5 μg プラシリンジ	5 μg, 0.5mL 1筒	1,548	協和発酵キリン	ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え): 持 続型赤血球造血刺激因子製剤《腎性貧血》 (新有効成分)
	ユニタルク胸膜腔内注入用懸濁剤4g	4g, 1瓶	7,112	ノーベルファーマ	滅菌調整タルク: 悪性胸水治療剤《悪性胸水 の再貯留抑制》(新効能・新用量・新剤形)
	ダットスキヤン静注	167MBq, 1筒	56,162	日本メジファイ ジックス	イオフルパン(123I): 放射性医薬品・脳疾患 診断薬《以下の疾患の診断におけるドパミン トランスポーターシンチグラフィ(パーキンソン症 候群・レビー小体型認知症)》(新有効成分)
	ハイゼントラ20%皮下注1g/5mL	1g5mL1瓶	9,488	CSLペーリング	pH4処理酸性人免疫グロブリン(皮下注射): 血漿分画製剤(皮下注用)人免疫グロブリン製 剤《無又は低ガンマグロブリン血症》(新有効 成分)
	ハイゼントラ20%皮下注2g/10mL	2g10mL1瓶	17,907		
	ハイゼントラ20%皮下注4g/20mL 1g5mL1瓶	4g20mL1瓶	33,796		
外 用 薬	アレジオン点眼液0.05%	0.05%1mL	385.80	参天製薬	エビナスチン塩酸塩: 抗アレルギー点眼剤《ア レルギー性結膜炎》(新投与経路)
	アゾルガ配合懸濁性点眼液	1mL	438.20	日本アルコン	プリンゾラミド/チモロールマレイン酸塩: V ₂ -受 容体拮抗剤《他の緑内障治療薬が効果不十 分な場合における緑内障又は高眼圧症》(新 医療用配合剤)
	ウルティプロ吸入用カプセル (@IGP110.50)	1カプセル	271.00	ノバルティス ファーマ	グリコピロニウム臭化物/インダカテロールマ レイン酸塩: 長時間作用性吸入気管支拡張配 合剤《慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎、肺 気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩 解(長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間 作用性吸入β ₂ 刺激剤の併用が必要な場合)》 (新医療用配合剤)

*識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
外用薬	フルティフォーム50エアゾール56吸入	56吸入1瓶	2,735.20	杏林製薬	フルチカゾンプロピオン酸エステル/ホルモテロールフマル酸塩水和物:喘息治療配合剤 《気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β ₂ 刺激剤の併用が必要な場合)》 (新医療用配合剤)
	フルティフォーム125エアゾール56吸入用	56吸入1瓶	3,193.10		
	レルベア100エリブタ14吸入用	14吸入1キット	2,816.80	グラクソ・スミスクライン	ビランテロールトリフェニル酢酸塩/フルチカゾンフランカルボン酸エステル:喘息治療配合剤 《気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β ₂ 刺激剤の併用が必要な場合)》 (新有効成分含有医薬品、新医療用配合剤)
	レルベア200エリブタ14吸入用	14吸入1キット	3,143.90		

●報告品目 平成25年11月29日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	グラクティブ錠12.5mg (ono 663)	12.5mg1錠	73.20	小野薬品	シタグリブチンリン酸塩水和物:選択的DPP-4阻害剤。糖尿病用剤《2型糖尿病》(新規格)
	ジャヌビア錠12.5mg (MSD 211)	12.5mg1錠	73.20	MSD	
	コンプラビン配合錠 (saCA)	1錠	275.00	サノフィ	クロビドグレル硫酸塩(クロビドグレル75mg) 日局アスピリン100mg/アスピリン(日局アスピリン100mg):抗血小板剤《経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される下記の虚血性心疾患:急性冠症候群(不安定狭心症、非ST上昇心筋梗塞、ST上昇心筋梗塞) 安定狭心症、陳旧性心筋梗塞》(新医療用配合剤)
	ストラテラ内用液0.4%	0.4%1mL	203.40	日本イーライリリー	アトモキセチン塩酸塩:注意欠陥/多動性障害治療剤(選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤)《注意欠陥/多動性障害(AD/HD)》(新剤型)
	ビオプテン顆粒10%	10%1g1包	35,875.00	第一三共	サブプロブテリン塩酸塩:天然型テトラヒドロビオプテリン製剤《1.ジヒドロビオプテリン合成酵素欠損、ジヒドロブテリジン還元酵素欠損に基づく高フェニルアラニン血症(異型高フェニルアラニン血症)における血清フェニルアラニン値の低下 2.テトラヒドロビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損に基づく高フェニルアラニン血症(テトラヒドロビオプテリン反応性高フェニルアラニン血症)における血清フェニルアラニン値の低下》(新規格)
	ブリジスタナイーブ錠800mg (TMC/800M)	800mg1錠	1,843.80	ヤンセンファーマ	ダルナビルエタノール付加物:抗ウイルス化学療法剤《HIV感染症》(新規格)
	プレミント配合錠HD (745)	1錠	218.40	MSD	ロサルタンカリウム/ヒドロクロチアジド:持続性ARB/利尿薬配合剤《高血圧症》(新規格)
外用薬	オーキシス9μgタービュヘイラー60吸入	540μg1キット(9μg)	3,496.60	アストラゼネカ	ホルモテロールフマル酸塩水和物:ドライパウダー吸入式気管支拡張剤《慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎、肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解》(新規格)
注 用 薬	テリボン皮下注用56.5μg	56.5μg1瓶(溶解液付)	12,971	旭化成ファーマ	テリパラチド酢酸塩:骨粗鬆症治療剤《骨折の危険性の高い骨粗鬆症》(新規格)
	ベガシス皮下注45μg	45μg0.5mL1瓶	7,197	中外(ロシュ)	ベグインターフェロン アルファ-2a(遺伝子組換え)ベグインターフェロン-α-2a製剤(新規格)
	ベネフィクス静注用3000	3,000国際単位1瓶(溶解液付)	307,305	ファイザー	ノナコグアルファ(遺伝子組換え):遺伝子組換え血液凝固第IX因子製剤《血友病B(先天性血液凝固第IX因子欠乏症)患者における出血傾向の抑制》(新規格)

*識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名:適応症・効能効果
注 用 薬	レギュニールHCa1.5腹膜透析液	1.5L1袋(排液用 バッグ付)	1,586	バクスター	ブドウ糖、乳酸ナトリウム液、塩化カルシウム水和物、塩化マグネシウム、塩化ナトリウム、塩酸、炭酸水素ナトリウム、水酸化ナトリウム:腹膜透析液《慢性腎不全患者における腹膜透析(HCa:高マグネシウム血症の改善が不十分な場合に用いる。LCa:高マグネシウム血症の改善が不十分な場合で、かつカルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤の投与により高カルシウム血症をきたすおそれのある場合に用いる。》)(類似処方医療用配合剤)
		1L1袋(排液用 バッグ付)	1,347		
		2.5L1袋	1,198		
		2L1袋(排液用 バッグ付)	1,825		
		5L1袋	2,396		
	レギュニールHCa2.5腹膜透析液	1.5L1袋(排液用 バッグ付)	1,618		
		1L1袋(排液用 バッグ付)	1,383		
		2.5L1袋	1,206		
		2L1袋(排液用 バッグ付)	1,847		
		5L1袋	2,296		
	レギュニールHCa4.25腹膜透析液	2L1袋	1,073		
	レギュニールLCa1.5腹膜透析液	1.5L1袋(排液用 バッグ付)	1,601		
		1L1袋(排液用 バッグ付)	1,357		
		2.5L1袋	1,223		
		2L1袋(排液用 バッグ付)	1,845		
		5L1袋	2,446		
	レギュニールLCa2.5腹膜透析液	1.5L1袋(排液用 バッグ付)	2,446		
		1L1袋(排液用 バッグ付)	1,640		
		2.5L1袋	1,383		
		2L1袋(排液用 バッグ付)	1,897		
		5L1袋	2,575		
	レギュニールLCa4.25腹膜透析液	2L1袋	1,187		

平成 25 年度 日薬 DEM 事業にご参加ください！

(平成 26 年 2 月実施)

日薬では、平成 25 年度も DEM (薬剤イベントモニタリング: Drug Event Monitoring) の事業を実施します。DEM 事業は、薬局が医薬品の適正使用に一層貢献することを目的としていますが、合わせて薬局薬剤師の有用性を社会に示すものでもあります。本年度も大きな成果を上げたいと考えておりますので、ご協力の程宜しくお願い致します。本年度は頻尿・過活動膀胱治療薬 (8 成分) によるイベント発現等の調査です。前回同様、原則としてインターネットでの報告となります。

1.テーマ

頻尿・過活動膀胱治療薬 (8 成分) によるイベント発現等の調査

2.調査対象医薬品

・イミダフェナシン ・オキシブチニン塩酸塩 ・コハク酸ソリフェナシン ・酒石酸トルテロジン
・フェソテロジンフマル酸塩 ・フラボキサート塩酸塩 ・プロピベリン塩酸塩 ・ミラベグロン

3.調査期間

平成 26 年 2 月 17 日 (月) ~ 2 月 23 日 (日)

※12 月 20 日より県薬ホームページの「会員の頁」にて報告画面を公開致します。

1.練習期間 (H25.12.24~H26.02.13) 《ログイン ID》test 《パスワード》test

2.正式な「DEM 報告期間」(H26.02.17~H26.03.31) 《ログイン ID》dem 《パスワード》nichiyaku

(注)「練習期間」と「DEM 報告期間」とでは、ID とパスワードを変えておりますので、ご注意ください。



Medical News

●自殺発生率20%以上減 男性と高齢者、対策導入で (共同通信 10月10日)

国立精神・神経医療研究センターなどの研究チームが2006年7月から3年半にわたり、自殺対策プログラムを実施した。研究は青森、秋田、岩手、宮崎、鹿児島5県のうち、自殺による年間死亡率が高い計8自治体で実施。自殺による死亡と自殺未遂による入院を合わせた自殺発生率が、近接自治体と比べ変化したか調べた。実施した自殺対策プログラムは▽イベントでの普及啓発▽健診などを活用した自殺リスクが高い人の把握とフォロー▽自殺者遺族の支援▽精神疾患がある人への訪問、相談一などを組み合わせたもので、計約80項目。その結果、近接自治体の自殺発生率に対し、プログラム実施自治体では男性で約23%、65歳以上の高齢者で約24%減少していた。

●米ダイエット薬、29人が肝炎発症 厚生省「注意を」 (毎日新聞 10月10日)

厚生労働省は9日、米国の疾病対策センター(CDC)と食品医薬品局(FDA)がダイエット効果をうたうカプセル状の健康食品「OxyElite Pro」(オキシエリートプロ)の使用を控えるよう注意喚起した、と発表した。米国で摂取した29人が急性肝炎を起こし、うち1人が死亡したという。日本国内では薬としての輸入実績はないが、インターネットを通じて個人輸入しているケースも考えられることから、注意を呼びかけている。

●後発品調剤処方箋が6%増「薬剤師の説明が変更契機に」 (薬事日報 11月18日)

厚生労働省は13日、後発品の使用状況に関する2013年度調査の結果速報を、中央社会保険医療協議会総会に示した。薬局で取り扱う全処方箋で「後発品への変更不可」となっており、1品目でも後発品を調剤した処方箋は43.8%と前回に比べて6.0%上昇。そのうち、1品目でも先発品から後発品に変更した処方箋も25.6%と4.6%増えた。一方、全て変更不可となっている処方箋は18.5%と4.8%減少し、後発品調剤が着実に進んでいることが分かった。

●【JACDS】備蓄への意識、地域等で格差 - 約4万人対象に調査 (薬事日報 11月21日)

日本チェーンドラッグストア協会(JACDS)は15日、有事の際の備蓄に関する意識調査を全国約4万人を対象に実施した。これによると、備蓄に関する意識や実施の程度については、東日本大震災の影響が大きかった東北・関東や、南海トラフ地震のリスクが懸念される東海・四国で意識が高いなど、地域間で差が大きいことが明らかとなった。JACDSでは、家庭内備蓄、事業所内備蓄の啓発に、より一層努めていく考え。調査は、今夏、全国各地の会員企業の店舗で実施。有効回収数は3万5486件。

●OTC薬のネット解禁、約7割は購入に消極的 (読売新聞 11月22日)

ファイザー、バイエル薬品、日本新薬、日本イーライリリーの4社は、ネット上で薬を入手することに対する2種類の意識・実態調査を実施した。

「薬のネット販売に関する生活者の意識調査」は、全国の20代以上の一般男女が対象で、サンプル数は3000人。主な結果を見ると、一般生活者の

60.2%がネット上に偽造薬が出回っていることを認知していなかった。また、86.3%はネット薬局と個人輸入代行サイトの区別がついておらず、91.1%は薬の個人輸入の仕組みを理解していなかった。OTC医薬品のネット販売解禁に伴う購入意向では、購入に消極的な回答は合計で約7割に達した。また、「ED治療薬使用者の購入ルートによる偽造品への意識・実態調査」では、ネット購入経験者が276人、医療機関受診者288人が対象となっている。ED治療薬の偽造品がネットに出回っていることを使用者全体の9割以上が認識しており、偽造品の存在はネットでの購入経験の有無に関係なく、共通の認識となっていた。薬のネット販売が解禁された場合の購入意向では、ED治療薬使用者の約6割が「購入意向あり」と、一般生活者に対し、ほぼ逆の結果になった。

●大阪e-お薬手帳事業、新たに7府県が参加 (薬事日報 11月26日)

大阪府薬剤師会が日本薬剤師会を通して参画を呼びかけている「大阪e-お薬手帳事業」に、京都府や福島県など新たに7府県から参加申し込みがあった。同事業への参画は、既に取り組んでいる高知県を含めて8府県となる。また、現在、8県の薬剤師会から問い合わせがあるという。

文書で参加を申し込んでいるのは、福島県、京都府、和歌山県、島根県、岡山県、広島県、山口県の7薬剤師会。

●半数が薬不足・余り経験 - “24時間対応” 7割知らず (薬事日報 11月26日)

患者の半数近くが薬を服用しているうちに不足したり、余るという経験を持っているほか、7割以上の患者が、休日・夜間などに対応する“24時間体制薬局”の存在を知らないことなどが、日本保険薬局協会が行った来局者の調査から明らかになった。全国1,324の会員薬局が協力し、10月1日から14日まで、各店舗への来局者に保険薬局業務の認知度や利用状況についてヒアリングし、6337人の回答を得た結果をまとめた。

●お薬手帳活用で事故防止 - 薬局ヒヤリ・ハット12年年報 (薬事日報 12月2日)

日本医療機能評価機構は11月28日、2012年の薬局ヒヤリ・ハット事例をまとめた集計結果を公表した。昨年の薬局におけるヒヤリ・ハット事例の報告件数は7166件で、疑義照会関連が前年に比べて増加し、全体の10.2%と1割を突破した。初めて一般名処方とお薬手帳に関する事例も取り上げ、特にお薬手帳の確認から疑義照会を行い、重複して処方された薬剤削除につながった事例が多数判明。ヒヤリ・ハット事例の再発防止に、お薬手帳を活用していく重要性が明らかになった。

●病院内の携帯利用で新指針 総務省など来年6月にも (共同通信 12月5日)

総務省と厚生労働省は、病院内での携帯電話の利用に関する新たな指針を来年6月にも策定する。現行の指針は携帯電話を使えるエリアは待合室をはじめ「医療機関が特に認めた区域」に限定している。現在は技術が進んで、携帯電話から出る電波の影響も小さくなっていることから、実態に即した指針にする。

医療事故情報収集等事業

医療事故情報収集等事業

医療
安全情報

No.83 2013年10月

「脳脊髄液ドレナージ回路を開放する際の誤り」

事例 1

看護師Aは患者の体位変換前に脳脊髄液ドレナージ回路のクランプ4箇所を閉鎖した。その後、看護師Aと看護師Bは、患者の体位変換を行った。その後、看護師Bは脳脊髄液ドレナージ回路のクランプ2箇所(患者側およびドレーン側)のみを開放し、大気開放するためのクランプ2箇所は確認しなかった。1時間後、血圧が200mmHg台となり、血性の排液が200mL流出した。

事例 2

脳脊髄液ドレナージ中の患者の転棟の際、看護師Aは脳脊髄液ドレナージ回路のクランプ4箇所を閉鎖し、消化器外科主治医と転出した。転入先の看護師Bは看護師Aとドレナージ回路を確認しないまま圧を設定し、ドレナージ回路のクランプ2箇所(患者側およびドレーン側)のみを開放した。その後、患者の顔面にけいれんが出現し、血圧が200mmHg台となり、排液が150mL流出した。脳外科医師の診察時、大気開放するためのクランプが開放されていないのを発見した。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・脳脊髄液ドレナージ回路の原理や管理方法の教育を行う。
- ・脳脊髄液ドレナージ回路のクランプの閉鎖時や開放時は、チェックリスト等を用いて確認する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<http://www.jcqh.or.jp/>

医療事故情報収集等事業

医療事故情報収集等事業

医療
安全情報

No.84 2013年11月

「誤った処方の不十分な確認」

事例 1

医師は患者にプレドニゾンとして1日27mgを処方する際、プレドニゾン散1% 1日27g（有効成分として270mg）1日2回 7日間と誤って処方した。調剤薬局の薬剤師は疑義照会の際、「プレドニゾンの量の確認をお願いします」と聞いた。病院のスタッフは、FAXの処方せんが読みづらいという意味だと思い、電子カルテの処方内容を読み上げた。薬剤師は疑問が解決しなかったが、そのままの量で調剤し、患者に交付した。患者から薬剤の量が多いと問い合わせがあり、医師は過量投与に気付いた。

事例 2

循環器内科医師は、抗凝固療法のため、「ヘパリン2千単位1日1回静脈注射」と口頭で指示した。リウマチ・膠原病内科主治医は2千単位を2万単位と思い込み、ノボ・ヘパリン注5千単位/5mL 4Vを1日1回静脈注射と処方した。院内の薬剤師は疑義照会の際、「ノボ・ヘパリン2万単位の処方量でよろしいですか」と聞いた。薬剤師の照会の意図が伝わらず、主治医は処方を修正しなかった。静脈注射を実施後、APTT値が延長し、過量投与に気付いた。

総合評価部会の意見

- ・薬剤師は処方について疑義照会する際、疑問点を明確にするため、疑問内容を具体的に明示して確認する。
- ・医師は処方の疑義照会を受けた際、薬剤師の照会したい内容を理解した上で処方を確認し、回答する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<http://www.jcqhc.or.jp/>

薬事情報センターに寄せられた質問から

はい、薬事情報センターです。

薬事情報センターでは、会員の方々を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。



Q：D-ソルビトールが9g/3日の処方がある。今までこのような処方は出た事がない。（薬局）
A：透析患者に処方される事がある。透析患者は、腎機能が正常な方に比べ便秘になりやすく、また不溶性の薬剤（リン吸着薬、カリウム吸着薬）を服用しているため、硬結便も多い。カマグ等（酸化マグネシウム）を使用すると、血清マグネシウム濃度が上昇するおそれがあるため、長期間、安全に使える下剤としては、腸管内に水分を保持することによって便を軟らかくする糖類下剤のラクツロース、ソルビトールが使用される。

Q：リン酸コデイン錠5mgはなぜ麻薬ではないのか。（薬局）

A：第16改正日本薬局方において下記のように示されている。「劇薬：1個中コデイン酸塩15mg以下を含有する物は除かれる。麻薬：1000分中、10分以下を含有するものは除かれる。」

リン酸コデイン錠5mgは質量500mgに対し成分5mgが含有されている。よって、劇薬・麻薬からは除かれる。

参考：「第16改正日本薬局方条文と注釈」：コデインリン酸塩錠注釈

Q：ロタウイルスワクチンは任意の接種だが、生後3ヶ月のお子さんに接種した方がよいのかと、親御さんから相談があった。（学校薬剤師）

A：小児への投与については、初回接種が生後6週齢以上とされている。小児へのワクチン接種について推奨する意見と、「予防接種をする程の病気ではない」といった反対意見もあり、医師の間でも意見が分かれているのが現状である。最終的には親御さんの判断となる。沖縄県では、接種率が15%を少し超える程度と全国の40%と比較してまだまだ低い状況である。費用については医療機関にもよりますが、自費負担で3万円前後かかると言われている。最近、沖縄では金武町が助成をはじめている。

Q：ガバペンシロップ5%の用法用量の記載で3日目以後の維持量として3～4才児より5～12才児の方が用量が少ない理由は？（薬局）

A：メーカー資料より1.健康小児（1ヵ月齢～12歳）にガバペン約10mg/kgを単回経口投与し、年齢とAUC_{0-∞}の関係について検討している。それによると、5歳未満および5歳以上の小児の薬物動態パラメータを比較したところ、5歳未満の小児では5歳以上の小児と比較してAUC_{0-∞}が約30%低いことが示されている。そのため、ガバペンの投与量は、3～4歳の小児では1日量40mg/kgと、5～12歳の小児の1日量25～35mg/kgに比べ、体重あたりの投与量が30%増量となっています。

参考：インタビューフォーム

Q：ミケランLA、チモプトールXE等、複数の点眼液を使う場合の点眼順序を教えてください。（薬局）

A：ミケランLAの添付文書の注意の項に、十分な間隔をあけることと記載されているが、時間等の詳しい説明はない。メーカー資料によると、兎の眼に点眼し、カルテオロールの濃度を測定している。それによると、20分間で濃度が急激に下降、その後0ではないが、平坦になる。この結果から、20分以上あけると他の薬剤の影響も少なくなると思われる。また、「チモプトールXE」点眼液については、点眼後ゲル化した状態が18分続き、その状態が消失するのに4倍の時間かかるため、併用薬の点眼までに1時間程度空けた方が良いと記載されている。このような薬剤については、通常最後に使用するよう指導するが、それができない場合には点眼後一定時間をおけるよう指導する。

参考：日経DIクイズ服薬指導・実践編3

Q：酵素系消毒薬とは（病院）

A：医療機関において再使用されている器具類は、血液、浸出液、組織片等の蛋白質の付着により、病原微生物混入の可能性もある。確実な消毒・滅菌を行うには、事前の洗浄により確実に蛋白質を除去しなければならない。医療機関では、各種の物理的洗浄方法や科学的洗浄方法が行われているが、酵素を利用すれば、消毒薬の量、作用時間、作業量や被消毒物に対する影響が少なくなるという理由により、蛋白分解酵素と非イオン系界面活性剤、除菌剤等を添加した商品も開発、販売されている。

参考：酵素系洗浄剤「ウルトラ・クレンジイム」の臨床－消毒・滅菌処理前洗浄の重要性－デンタルマガジンNo.132,2010

Q：アマージ（一般名：ナラトリプタン塩酸塩）と他の頭痛薬を併用してもよいのか。（薬局）

A：アマージは、他のトリプタン系薬剤とエルゴタミン製剤との併用は禁忌となっているが、それ以外のNSAIDs等の鎮痛薬であれば問題ない。

Q：ボナロン35mgを服用している患者が歯科に行った所、医師が抗生剤が効かないのはボナロンの影響かもしれないと言ったらしい。ボナロンと抗生物質は何か影響があるのか。（薬局）

A：ボナロンは直接骨に作用するもので、抗生物質による影響はない。

Q：未開封のキサラン点眼の保管について。冷所保存の理由は？（薬局）

A：開封前は、使用期限の3年間安定性を保たせるため2～8℃での遮光保存（冷蔵庫など）する。ただし、ラタノプロスト点眼液のジェネリック医薬品については常温保存の製品もあるため、添付文書で確認する必要がある。



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

「おくすり相談室」の受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

【質問】全身の痒みで、皮膚科よりセレスタミン、アレロック、アンテベート軟膏、白色ワセリンをもらっている。なかなか治らないので友人に勧められたアロエを付けてみたら、気持ちよかった。ずっと使ってもよいか。（女性）

【回答】アロエは、昔から痛みや火傷の回復に効果があるとして沖縄でも多くの家庭で栽培されています。通常、布につけて湿布をしたり、塗布する方法で使います。しかしながら、最近出回っているアロエの含む化粧品やクリームなどの製品による接触皮膚炎も多く報告されています。現在は、皮膚炎に対するお薬も使用しているため、アロエ等の安易な使用は控えた方がよいでしょう。

【質問】

血液検査の結果、WBCが13900と高かった。ピオフェルミン、ムコスタ、メバロチン、セニラン、ジプレキサ、チスポンを服用しているが、副作用なのか。自分は白血病なのか。（男性）

【回答】白血球数は、通常4,000～9,000個/mm³が標準値ですが、個人差や体調によってもかなり変わります。傷ができてばい菌が入ったり、風邪や、中耳炎等の炎症により白血球が増加することがあります。このような理由から、白血球の数が増えたというだけでは、白血病と診断することはできません。病院でもう少し詳しい検査や診察も必要となります。薬の影響によっても検査値の変動がみられる事があり、服用されているジプレキサにもまれに白血球増加の報告があります。また、心配されている白血病の症状としては、出血しやすくなる（歯茎からの出血、ちょっとした事で打ち身の様な痣が出来る等）、発熱、倦怠感、だるさ、吐き気などがあります。何か気になる事があれば、医師または薬剤師にご相談ください。

【質問】

スピリーバ吸入液の説明書に、「目に入らないように注意してください。」とあるが、目に入るとどうなるのか。

【回答】今の所、健康な人が誤って目に入れてしまい被害があったとする報告はありません。しかし、例えば緑内障の患者さんに点眼してしまうと、眼圧が上昇し、充血とともに眼痛や目のかすみ等の症状が強く現れたりする事も考えられます。もともと、吸入用に作られた薬ですので、誤って眼に入れる事のないよう注意喚起する意味で記載されています。

●ドーピング●

【質問】

DHCの『ヘム鉄』という健康食品はドーピングで問題になりますか。（JOC強化選手）

【回答】DHCの「ヘム鉄」には、主要原材料として、ヘム鉄、葉酸、ビタミンB12、調整剤としてグリセリン脂肪酸エステル、セルロース、二酸化ケイ素、被包剤のゼラチン、着色料のカaramel、酸化チタンが含まれています。これらの成分では、ドーピング違反になることはありませんが、中に入っている未記載の成分が影響を与える補償はありません。認められていないサプリメント等の服用によって違反となってしまう場合には自己責任となります。貧血等の理由で鉄剤が必要でしたら、医師に相談の上、医薬品としての鉄剤を勧めます。

●その他の質問●

○ミカルデスを服用している。口が渇くがそのような副作用があるのか。

○鼻づまりで鼻血がでたので、漢方薬を出された。1回飲んだだけで薬を止めてしまったが、また鼻血が出てきた。高血圧の薬も飲んでいたので一緒に飲んではいけなと思って、1回でやめてしまった。○5、6年前にインフルエンザワクチンを受けた日の晩に副作用が出た。殺虫剤をかけた虫のように、足が動かないで、かくかくしていた。トイレにもはって行っただ。医師に言ったら、「カルテに書いておきましょう」で終わりだった。インフルエンザワクチンはもう受けられないのか。

●苦情・相談●

○抗がん剤（ティーエスワン配合カプセルT25：大鵬薬品）が処方されているが、薬代が高いのでジェネリック品を希望している。かかりつけの薬局では、ジェネリック品を置いていないという。その他の薬局にもあたったが、断られた。ジェネリック品はどこで調剤してもらえるのか。

▶先発品：ティーエスワン配合カプセルT25：大鵬製薬：812.8円/カプセル

▶ジェネリック医薬品（H25.6.21薬価収載）

1. エヌケーエスワン配合カプセルT25：517.3円/カプセル（日本化薬）

2. エスエーワン配合カプセルT25：517.3円/カプセル（沢井製薬）

○家族の白血病の薬（タシグナ錠）が高額なので、国で認可されているのか教えて。その他に心臓の薬も飲んでいて、3ヶ月に1度の通院で薬代を合わせてると50万位かかっている。消費税も上がるし生活が苦しい。

○いつも行く薬局では、名札なしの人（薬剤師ではないような人）が調剤している。友人に聞いたら、薬剤師以外が調剤するのはいけないという。子供の薬を一度間違えられたので、心配。薬剤師会から注意してもらわないといけないと思った。
＊調剤行為は、薬剤師のみに認められている専門的業務である。

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

○医薬ジャーナル 49巻 11号

*特集1：日本版RMP（医薬品リスク管理計画）の展望
・連載・リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動：内服薬に関するインシデント減少を目指した薬袋デザインの変更（p.175）

*特集2：骨粗鬆症治療における疼痛対策の意義～QOL向上を目指して～

- ・連載：副作用・薬物相互作用トレンドチェック
注目論文を読み解く（20）（p.186）
- 1.リスベリドンによる膿疱様黄斑浮腫
- 2. グレープフルーツジュース摂取でモンテルカストの血漿中濃度が上昇
- 3. メサドン服用患者でトラマドールの活性代謝物が減少
- 4. イトラコナゾール併用でボルテソミブによる末梢性ニューロパシーの早期発症リスクが上昇
- 5. シルデナフィルによる色素性紫斑性皮膚病
- 6. ワルファリンとレボチロキシンの相互作用は臨床的に重要でない可能性

○エキスパートナース 29巻 13号

*特集：いちばん新しい術前・術後ケアQ&A
*特集：知ると役立つ！持参薬のチェック・管理
”行いたいこと”ポイント

○エキスパートナース 29巻 14号

*特集：誤嚥性肺炎を防ぐ摂食ケアと口腔ケア

○エキスパートナース 29巻 15号

*特集：輸液・薬剤指示変更の「なぜ」を見抜こう！
*特集：人工呼吸ケアよくあるギモンQ&A

○きょうの健康 10月号

*特集：目の病気最新情報～白内障と緑内障
*特集2：肺炎、COPD、気胸～息苦しさは危険信号

○きょうの健康 11月号

*特集：糖尿病！あなたに合った目標値
*特集2：大腸の病気 最新情報

○きょうの健康 12月号

*特集：早めに気づこう！股関節の異変
*特集2：統合失調症 最新情報

○月刊薬事 55巻 10号

*特集：がん緩和ケアのフィジカルアセスメント

○月刊薬事 55巻 11号

*特集：ジェネリックの疑問がわかる！サイエンスからの選択のポイントまで
・適応外使用の処方せんの読み方（41）HTLV-1関連脊髄症（HAM）（p.119）

○月刊薬事 55巻 12号

*特集：がん患者の精神症状へのアプローチ
・適応外使用の処方せんの読み方（42）乳汁分泌不全（p.141）

○産科と婦人科 80巻 9号

*特集：胎児評価の新展開

○産科と婦人科 80巻 10号

*特集：子宮頸癌治療の変遷と今後の展開

○産科と婦人科 80巻 11号

*特集：生殖医療におけるカウンセリング

○新薬と臨床 62巻 11号

・豚プラセンタエキス打錠品の肌状態改善効果（p.2017）

○正しい治療と薬の情報 28巻 5号

- ・プロトンポンプ阻害剤とクロストリジウム・ディフィシル感染（p.99）
- ・トリメブチン（セレキノン）：乱用、嗜癖および過量摂取（p.101）

○調剤と情報 19巻 11号

*特集：薬剤師が知っておくべき予防接種の知識
・予防接種のガイドラインと情報集～患者からの質問に備える（p.28）
・新薬くろーずあっぷ：アコファイド錠100mg（p.837）

・処方せんから考える がん患者 服薬指導スタートアップ講座（10）：プレガバリンカプセルを含む処方せん（p.66）

○調剤と情報 19巻 12号

*特集：食物アレルギー最前線
・食物アレルギーの対症療法（p.30）
・FAXされた処方せんで調剤契約は成立する？（p.73）
・処方せんから考えるがん患者 服薬指導スタートアップ講座（11）：エルロチニブ錠を含む処方せん（p.98）

今月の特集・論文

・新薬くろーずあつぷ：スチパーガ錠40mg (p.107)

○治療 95巻 10号

＊特集：日常診療能力を高めるための漢方活用術

・漢方・東洋医学の教育とエビデンス～小柴胡湯の副作用事例の遺したもの (p.1678)

○治療 95巻 11号

＊特集：外科で遭遇する女性医療～ライフステージ別にみた女性の健康問題

・過眠で来院しADHDの存在が明らかになった2例 (p.1962)

○治療 95巻 12号

＊特集：脳から疾患をみる

○日経ドラッグインフォメーション 192号

＊特集：7人の臨床医が明かす処方箋の裏側 かぜ編

・DIクイズ：乳児へのマグミット錠への飲ませ方 (p.037)

・エピペンが新規に処方された親への説明法 (p.PE001)

・片頭痛歴があるめまい患者にデパケンR とリボトリール (p.PE001)

○日経ドラッグインフォメーション 193号

＊特集：待ち時間改善大作戦

・DIクイズ：高カルシウム血症の原因疾患は (p.PE003)

・副作用症状のメカニズム 口が渇く、喉が渇く (p.PE007)

・医師が語る 処方箋の裏側～甲状腺機能低下剤にチロナミンを投与する理由 (p.PE016)

・適応外処方のエビデンス～ラフチジンで舌痛症や乳癌術後の疼痛を軽減 (p.PE017)

○日経メディカル 551号

＊特集：検証！臨床研究不正

・海外渡航者への処方のコツ (p.65)

○日経メディカル 552号

＊特集：開業で医療を変える

・抗体製剤でクローン病が劇的に改善 (p.57)

○日本医事新報 4667号

・質疑応答Q&A～内科：高齢者への風疹ワクチン接種 (P.74)

・質疑応答Q&A～内科：高齢者のピロリ菌除菌適応年齢 (P.78)

○日本医事新報 4669号

・卵アレルギーはインフルエンザワクチン禁忌ですか？ (P.50)

・質疑応答Q&A～医事法制：エピペンの処方 (P.70)

○日本医事新報 4671号

・質疑応答Q&A～内科：リウマチ治療薬服用中の男性が配偶者の妊娠に注意する理由 (P.80)

○日本医事新報 4672号

・带状疱疹関連痛の薬物療法と留意点 (P.32)

○日本医事新報 4673号

・80歳過ぎの軽症高血圧でも薬を飲んだほうがいいですか？ (P.50)

・質疑応答Q&A～内科：抗凝固薬内服中患者へのH.pylori除菌 (P.58)

○薬局 64巻 11号

＊特集：薬剤学から学ぶ漢方薬入門

・向精神薬服用患者に対する嗜好品チェックの重要性 (p.132)

・妊娠初期の抗うつ薬使用と先天異常のリスク (p.152)

○薬局 64巻 12号

＊特集：小外傷・熱傷・褥瘡

・薬剤師による創傷治療への介入 (p.138)

○薬局 64巻 13号

＊特集：進化する経皮吸収型製剤

・経皮吸収型製剤の誤使用による全身副作用のリスク (p.47)

・添付文書だけでは分からない経皮吸収型製剤のメリット・デメリット (p.61)

○JIM 23巻 9号

＊特集：「息苦しい」が主訴の時

○JIM 23巻10号

＊特集：高齢者「主治医」事典

○JIM 23巻11号

＊特集：見逃してはいけない！アルコール関連問題

○The Medical Letter (日本語版) 29巻 12号

・妊娠中の片頭痛予防薬としてのバルプロ酸塩の使用に関する警告 (p.45)

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

看護師と薬剤師が協同で作成した 内服薬自己管理基準の作成と運用

医薬ジャーナル 9月号

国立病院機構宇多野病院急性期病棟では、手術や治療による内服薬の「自己管理による配薬」への移行は、従来看護師個々の判断に委ねられており、薬の管理能力を客観的に適正に判断する統一した基準はなかった。だが、患者による服用間違いがあり、退院後の服薬継続についても十分なフォローができていなかった。このような背景から、患者の内服薬の自己管理能力を評価する「内服薬自己管理能力判定基準」を看護師と薬剤師が協同で作成、それに基づいて「自己管理能力評価表」を作成、運用を開始した。まず、薬剤師は初回面談時に持参薬鑑定で入院前の薬剤情報を確認、処方後は患者の薬識を確認する。看護師は配薬時に服薬確認、患者のADLを把握、1日配薬への移行を評価する。移行後は看護師が服薬を確認、薬剤師は処方変更があれば服薬指導を行い、誤薬、服薬忘れは看護師と情報を共有する。評価表の結果やその他の患者情報を電子カルテに記載し、医療従事者間で情報を共有することで、退院後の服薬継続につなげる事ができた。効率的に患者情報を共有し、医療従事者間で連携できるようなチーム医療が実現できたと思われる。

国立病院機構 宇多野病院
広瀬 真実

HPV ワクチン接種後疼痛・神経症状： 抗リン脂質抗体症候群では？

正しい治療と薬の情報 10月号

HPVワクチンの積極勧奨中止の主な理由は「原因不明の持続する痛み」である。全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会が厚生労働省に提供した20症例を検討した。痛みは突発性で、あらゆる部位に時間を異にして一過性の疼痛が出現・消褪を繰り返し、移動する。また緊張や運動、寒冷など血管収縮により症状が悪化、加温やフェントラミン使用等血管拡張により軽快していた。4例は自己免疫疾患と診断されたが、残り16例で、多発性微小血栓症の可能性が考えられた。抗リン脂質抗体症候群は多発性血栓症を伴う自己免疫疾患で、経過のみから強く示唆される血清学陰性抗リン脂質抗体症候群が提唱されていること、血栓形成が可逆的であることなどを考慮すると、16例は臨床経過から抗リン脂質抗体症候群として矛盾なく説明が可能あるいは否定できない。HPV ワクチンによる抗リン脂質抗体症候群は報告がないが、HPV ワクチンは強力なアジュバントを含むため、抗リン脂質抗体の上昇、あるいは抗リン脂質抗体症候群を発症させている可能性が十分にありうる。臨床医は、患者の訴えを適切にとらえ、本疾患を念頭において診療する必要がある。

浜 六郎

漢方エキス製剤の乳糖賦形剤と乳糖不耐症

薬局 10月号

臨床現場では、漢方エキス製剤投与患者において、賦形剤の乳糖が影響していると思われる症状にまれに遭遇することがある。医薬品に多用されている乳糖であるが、漢方エキス製剤に使用されていることは見落とされることが多い。漢方エキス製剤中の乳糖の含量は少ないため、乳糖不耐症患者に与える影響はかなり小さいと考えられるが、乳糖に対する感受性は個人でバラツキが大きく、個人レベルでは注意が必要である。乳糖不耐症はラクターゼ活性が低下している病態で、乳糖の摂取により下痢や腹部膨満を引き起こす。乳糖不耐症患者に対する漢方エキス製剤の処方においては、瀉下作用のある生薬、副作用として下痢を来す可能性のある生薬が含まれていないか確認し、問診で乳糖不耐症の可能性を見極め、乳糖不使用製剤への変更や整腸薬の追加などを考慮することが必要である。乳糖不耐症やその漢方製剤との関係についてはまだ明確なことはわかっておらず、現在もさまざまな対処法が想定されているが、今後エビデンスの確立が課題となると考えられる。

辻中病院柏の葉 漢方未病治療センター
木多 敏明

ゲートキーパーとしての薬剤師～薬剤師から見た「処方薬を適切に使えない患者たち」

調剤と情報 9月臨時増刊号

近年、自殺の背景として過量服薬の存在が目立っている。このような問題は、それだけにとどまらず処方薬の乱用の繰り返し、薬物依存となる患者も増加傾向にある。2010年に「過量服薬のリスクの高い患者のゲートキーパー」と位置づけられた薬剤師は、服薬指導を通して処方薬を正しく服用できない様子に気づけるチャンスがあるが、患者の気持ちや接し方がわからないと、過量服用患者を苦手とする薬剤師は多い。ゲートキーパーという波を乗り越えるには、過量服用者の「こころ」を理解する必要があるだろう。過量服薬の動悸を探る事で「こころ」が見えてくる。問題を薬剤師一人で解決しようとせず、薬局から処方医にフィードバックしていくこと、つまり「つなぎ」の役割が期待される。地域の薬局で働く薬剤師であれば、視野を広げ、改めて地域を眺めてほしい。つなぎ先は医療機関だけではない。精神保健福祉センター、保健所、福祉事務所、児童相談所、ダルク、自助グループ等の支援資源につないでいく事も検討すべきであろう。

国立精神・神経医療研究センター
嶋根 卓也

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬幹旋図書】役立つ 実践 OTC 薬学

【著者】戸田 紘子 【発行】薬事日報社 【発行日】2013 年 9 月

【版型/頁】B5 判/198 頁 【定価】3,780 円(税込) 【会員価格】3,400 円(税込)

OTC 医薬品の基本的知識、特徴、注意点等について具体的に述べるとともに、販売ノウハウについても記載してあるので、薬学的知識はもちろん、実際の販売業務においても参考となる 1 冊。

【日薬幹旋図書】治療薬ハンドブック 2014

【監修】高久 史麿 【発行】じほう 【発行日】2014 年 1 月

【版型/頁】B6 変形判/約 1,500 頁 【定価】4,620 円(税込) 【会員価格】4,160 円(税込)

■国内の事例を多数収録

■最新のトレンドをチェックできる総説

■安全・適正な薬物治療に

◇NEW! ◇ 書籍購入者限定、スマホ版アプリがついてくる!!

わかりやすい臨床検査 第2版

【著者】高木 康 【発行】じほう 【発行日】2013 年 11 月

【版型/頁】B5 判/約 250 頁 【定価】3,990 円(税込)

症例検査の目的や数値の意味、検査とをどう臨床像と結びつけるかを解説した「わかりやすい臨床検査」が待望のリニューアル! ポイントを押さえやすい問答形式はそのままに、内容を最新の情報にアップデートし、検査値から考える症例検討も追加しました。検査の主流となってきた画像診断についても解説を加えた。

方剤別 はじめての漢方 100

— 個別医療を実現するためのさじ加減の極意 —

【編集】後山 尚久 【発行】診断と治療社 【発行日】2013 年 12 月

【版型/頁】B6 判/328 頁 【定価】3,675 円(税込)

専門家が日常診療で用いるさじ加減や使いわけの極意を箇条書きにまとめ、方剤別にわかりやすく解説。多種多様な症状を訴える患者に応じた漢方治療の手助けとなる一冊。好評同姉妹書『疾患・症状別 はじめての漢方治療』への参照項目リンクも充実の『“治せる”医師をめざす』シリーズ第 3 弾!

スリースター 行列のできる薬剤師 3 ★ ファーマシストを目指せ!

【著者】岡田 浩 【発行】じほう 【発行日】2013 年 9 月

【版型/頁】B5 判/160 頁 【定価】4,200 円(税込)

長く糖尿病患者の療養指導に携わり、薬剤師による介入が薬物治療効果を上げることを実証してきた著者が、そのノウハウを惜しみなくつぎ込んでまとめた渾身の 1 冊です。糖尿病に限らず、薬物治療の継続に苦勞する慢性疾患患者への関わりにも役立つ実践書。

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

乳幼児・小児服薬介助ハンドブック

【編著】五十嵐 隆 【発行】じほう 【発行日】2013年11月

【版型/頁】B6変形判/272頁 【定価】3,780円(税込)

くすりの味やにおいが原因で、乳幼児や小児への服薬説明で困ったことはありませんか？
小児科領域で使用される薬剤145成分について、全国30こども病院の看護部・薬剤部の与薬工夫事例を集積した初の情報集。ジェネリック医薬品を含む各製剤の味やにおいの情報を網羅したほか、小児科領域の重要な疾患とその薬物療法についても解説を加えた。

はじめの一步は絵で学ぶ 生化学

【著者】生田 哲 【発行】じほう 【発行日】2013年9月

【版型/頁】B5判/191頁 【定価】1,890円(税込)

「生化学」をイラストやマンガを使ってわかりやすく解説。左ページに解説、右ページに対応するイラストを配置し、難しい内容でもイメージを思い描きながらやさしく学ぶことができる。医療従事者の基礎力UPはもちろん、これからの医師・薬剤師・看護師・栄養士などを目指す学生の方にもおすすめ。

先月沖縄県薬剤師会学術大会にて特別講演された 菅野 彊先生の書籍(2冊)です！

① まず「疑え」から始めよ

薬剤師は何をする職種なのか。全員が、考える必要があります。

【著者】菅野 彊 【発行】日経DI 【発行日】2013年9月

【版型/頁】単行本/263頁 【定価】2,100円(税込)

【目次】

第1部(副作用機序別分類ができるまで;デカルト先生の教え;アウフヘーベンする日まで)

第2部(薬理作用と薬物動態で解く薬局副作用学(臓器別分類から機序別分類への転換;添付文書の読み解き方;薬物過敏症の特徴を知る;薬理作用による副作用の特徴を知る;薬物毒性による副作用の特徴を知る ほか))

② 薬物動態を推理する 55 Question

一步踏み込んだ疑義紹介と服薬指導のために

【執筆】菅野 彊 【発行】南江堂 【発行日】2011年11月

【版型/頁】A4版/202頁 【定価】2,940円(税込)

いつ効きはじめるの? “肝排泄型か腎排泄型かどうやって見分けるの?” 薬物動態を理解するのに必要な知識やコツを順序立ててわかりやすく解説。高齢者など特に注意すべき患者の投与量の推定や、服薬指導に役立つ。添付文書やインタビューフォームを使うため薬局薬剤師にも有用。薬物動態に苦手意識がある方に必携の書。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1) 医薬品情報の提供 (2) 「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3) 医薬品に関するお問い合わせ (4) 県薬ホームページの制作・管理 (5) 消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6) 医薬品 PL センター窓口業務 (7) ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は098-963-8935になります。
お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937
(社) 沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * 海外文献から (JAPIC 医薬情報より) * *

● 静脈血栓塞栓症の二次予防における経口抗凝固剤と抗血小板剤の有効性と安全性の転帰: システマティックレビューとネットワークメタアナリシス (BMJ (7924)11-(2013.9.14))

Medline(1950年-)、Embase(1980年-)、Cochrane Register of Controlled Trials および関連雑誌の文献検索を行った。静脈血栓塞栓症の二次予防のため、患者に経口抗凝固剤(vitamin K拮抗剤,rivaroxaban,apixaban,dabigatran,ximelagatran)、抗血小板剤(acetylsalicylic acid)、またはプラセボを投与している、もしくは経過観察している無作為化比較試験12文献を選択した。静脈血栓塞栓症の再発率と大出血の発生率を転帰として検討した。(有効性について11999例、安全性について12167例) その結果、検討した全ての経口抗凝固剤、抗血小板剤がプラセボ/経過観察と比較して静脈血栓塞栓症の再発率低下と関連していたが、acetylsalicylic acidのリスク低下率は小さかった。標準用量の vitamin K 拮抗剤は静脈血栓塞栓症の再発リスクを最も大きく低下させたが、大出血リスクも最も大きかった。

● グレープフルーツジュース-フェキソフェナジン相互作用における主要なメディエーターからの2種類の化合物群の除外: In Vitro と In Vivo の「関連性」 (J. Clin. Pharmacol. 53(9)982- (2013.9))

グレープフルーツジュース(GFJ)の成分である2種類の化合物群(furanocoumarins, polymethoxyflavones)が、有機アニオン輸送ポリペプチド(OATP)阻害を介して fexofenadine との相互作用に関与するか否かを、2成分を除去した成分調整 GFJ(mGFJ)と通常の GFJ とで比較した。in vitro では、OATP1A2 または OATP2B1 をトランスフェクトした COS-1 細胞および HEK293T/17 細胞を用いて、各 GFJ 抽出物による OATP 阻害を比較した。in vivo では、健康人 18 例における無作為化クロスオーバー試験を実施し、fexofenadine(60mg 錠×2)を水、GFJ、mGFJ と共に服用させた。その結果、in vitro における OATP 阻害は、いずれの GFJ 抽出物でも同程度であった。in vivo における fexofenadine の曝露低下も、両 GFJ で同程度であった。これら2種類の化合物は、GFJ と fexofenadine の相互作用における主要なメディエーターではないことが示された。

● 妊娠中の経口 Fluconazole の使用と先天異常のリスク: デンマークのレジストリベースのコホートにおける研究 (N. Engl. J. Med. 369(9)830- (2013.8.29))

デンマークの生産児登録をベースとしたコホートにおいて、妊娠第1トリメスターにおける経口 fluconazole 曝露と、先天異常全般のリスクと、これまでにアゾール系抗真菌薬と関連する先天異常のリスクについて検討した。その結果、fluconazole に曝露した妊娠の大半は、一般的な治療用量 150mg(妊娠の 56%)または 300mg(31%)の投与を受けた女性で認められた。経口 fluconazole 曝露に、先天異常全般のリスク上昇との関連は認められなかった(fluconazole 曝露妊娠 7352 例中先天異常 210 例 [有病率 2.86%]、非曝露妊娠 968236 例中先天異常 25159 例 [有病率 2.60%])。また、経口 fluconazole 曝露と、アゾール系抗真菌薬との関連が示されている先天異常 15 種類中 14 種類、すなわち頭蓋縫合早期癒合症、その他の頭蓋顔面奇形、中耳奇形、口蓋裂、口唇裂、四肢奇形、四肢減形成、多指症、合指症、横隔膜ヘルニア、心奇形全般、肺動脈形成不全、心室中隔欠損症、左心低形成の有意なリスク上昇との関連は認められなかった。残りの 1 種類、ファロー四徴症には有意なリスク上昇が認められた(fluconazole 曝露妊娠では 7 例 [有病率 0.10%] であったのに対し、非曝露妊娠では 287 例 [有病率 0.03%])。

宮古地区特集

<特集ページ>

- 宮古島移動理事会の後の懇親会
- はいさい！はいた～い！！ 病院前薬局
- Spot Light
盛島 明隆 先生 ～強面で頼りになる班長！～
- 三郎&いさ吉の弥次喜多道中！ 沖縄県立宮古病院
- 燃えろ！青年団 山崎 今日太 先生
- リレー随筆 「ストロング・メディスン」を読んで
- 月例相談会 第112回健康とおくすり相談会報告
- 学薬だより 学校薬剤師って、知っていますか？
～離島から都会の学校へ～
- 健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告



本号267号（平成25年11・12月号）は、宮古地区特集を組みました。

広報委員会では、沖縄県立宮古病院が新開院される情報を得てから当会青年部会とともに、同病院の訪問・取材ならびに同地区会員との交流を企画してまいりました。そんな中、平成25年度第9回定例理事会（11月理事会）が宮古地区で開催することになり、青年部会と当委員会の企画が実現したのです。

ご協力いただきました川満正啓宮古地区会長をはじめ、同地区会員の皆様ならびに関係各位に感謝申し上げます。

次ページからの宮古地区特集をお楽しみください。

広報委員会委員長 宮城 敦子

※「巻頭言」「誌上ギャラリー」「編集後記」にて宮古色を取り入れておりますので、あわせてお楽しみください。

理事会

宮古島移動理事会の後の懇親会

日時：平成25年11月16日(土) 20:00～22:00

会場：ばいながまホール（宮古島市）



平成25年度第9回定例理事会は宮古地区にて開催された

宮古島をほぼ半周する国道390号線を飛行場の方から平良港に向かって進むと、海岸近くで大きく右にカーブする。そのカーブの手前の右側に今回の移動理事会と懇親会の舞台となった「ばいながまホール」がある。「ばいながま」とは耳慣れない言葉なので調べてみると、「ばい」は宮古島の方言で南の意味で、「ながま」は長い浜が訛ったものと考えられているようだ。南にある長い砂浜の意味で、実際すぐ近くにパイナガマビーチがある。

平成25年度第9回定例理事会は午後6時からここで開催され、地元会員に公開されて議事は進行した。午後8時からは理事の方々に地元会員、県薬青年薬剤師部会有志、県薬会報の宮古島特集号の取材のため同行した広報委員会委員の面々が加わり、来賓として宮古病院院長安谷屋正明先生をお招きして懇親会が開催された。

コジャ薬局の前里由紀子先生（広報委員会宮古地区通信員）の司会で始まり、宮古地区代表理事の下地仁先生による歓迎の挨拶、沖縄県立宮古病院の安谷屋正明院長の来賓挨拶があった。そして、沖縄県立宮古病院薬局長の渡真利国浩先生の乾杯の音頭のあと会員相互の懇談となった。

宴もたけなわとなり、酔いも程よく回ったところで余興が始まった。最初に、広報委員4名と事務局から田場専務理事と広報担当事

広報委員会
亀谷 浩昌



務の大城君の計6名がオカリナを吹き、宮城広報委員長がキーボードを演奏し、石川青年薬剤師部会長が三線を弾いて、唯一のレパートリーである名曲「ふるさと」を合奏した。この数分の演奏のために、皆、業務の傍ら担当する楽器を練習し、キーボードを本島から空輸し、三線を持参したものである。きっと聴衆の胸に響いたことであろう。次にオカリナの名手、田場専務理事と石川青年薬剤師部会長の三線で、宮古民謡「なりやまあやぐ」の演奏となった。この曲は宮古民謡の最も有名な曲の一つで、教訓に満ちた歌詞である。皆期待に満ちて聞いたが、なんということか、名手田場専務理事は懇親会の開始とともに飲み始めた酒がちょうど廻ってきたのか、実にへろへろな演奏で大いにびっくりさせられた。

懇親会の終盤にはカラオケ大会となり、トップバッターは田場専務理事でいつもの西郷輝彦メロディから「星のフラメンコ」、渡真利宮古病院薬局長は宮古島開催なのに「ヤイマ」を歌い、筆者もせがまれて持ち歌の中から「プサン港に帰れ」をうなり、江夏常任理事は十八番のひばりの曲「みだれ髪」を歌った。こうなると会長も黙っていない。得意の低音を響かせてフランク永井の「おまえに」を歌っ



宮古島移動理事会懇親会



司会を務めた
前里 由紀子
広報委員会宮古地区通信員



歓迎のあいさつ
下地 仁
宮古地区代表理事



あいさつ
神村 武之
会長



来賓あいさつ
安谷屋 正明
県立宮古病院院長



乾杯の音頭
渡真利 国浩
県立宮古病院薬局長



宮古地区代表あいさつ
川満 正啓
宮古地区薬会長



閉会のあいさつ
松山 朝雄
副会長

た。会長の後は誰も歌えず、カラオケは終了となった。

その後は再び騒々しい時間が続き、美味しい料理とふんだなお酒の大半を消費した頃に懇親会はお開きとなった。中締め挨拶は、宮古地区薬剤師会会長の川満正啓先生が務めた。先生とお話して分かったことであるが、先生は見かけとは大違い。仕事熱心で実にはまっとうな考え方をする方とわかった。人は・・・で判断してはいけない。また、会の始めから終わりまで、来賓の安谷屋院長は我々の下手な

余興を辛抱強くお聞きになり、若い会員たちともフランクに懇談していただいたことは、川満先生を中心によくまとまった宮古地区薬会員と医師会との良好な関係が築き上げられていることをうかがわせた。

宮古島での移動理事会とその後の懇親会は、薬剤師会会員相互の理解を深めるのに大いに役に立ったと思われた。宮古という土地柄にしては午後10時には早々にお開きとなった。きっとこの後にもまた大事な会合が控えていたであろう。



田場英治専務理事（オカリナ）と石川恵市青年部会長（三線）が宮古民謡「なりやまあやぐ」を合奏（写真左） チーム広報はオカリナの名手である田場専務理事を中心に、宮城敦子広報委員長のピアノ伴奏と石川委員の三線で「ふるさと」を披露



はいさい! はい

薬局訪問

VOL. 39

宮古地区特集



(プロローグ)

11月だというのに、その日は乾いた土地を太陽がじりじりと照りつけていた。宮古空港に降り立った私は深く息を吸い込む。秋の気配はしないが、空港の喧騒の中から聞こえる宮古島の方言が、なんだか心地よくてすっかり癒されてしまった。「非日常」の空間に身を置いている気分だ。(広報委員としてのミッションを置き去りにして。。。)

さて今回は、宮古島市での理事会開催に便乗して、宮古島特集を組むことになった。
(聞き手：宮城 敦子)

病院前薬局 (宮古島市)

向かった先は、「有限会社かわみつ」が経営する『病院前薬局』。600坪を誇る広大な敷地に、見事なまでに新沖縄県立宮古病院を背景にし、孤高に構えていた。黄色の看板もひときわ目を引いている。建坪は36坪、駐車スペースは60台分もある。もちろん、その広さを利用してドライブスルーが完備されていた。

平成25年6月1日、満を持して開局。

今後の在宅医療への参画を見据え、無菌調剤室のスペースも確保している。水剤自動分注機も自動軟膏混合機も揃えた。カウンターはオリジナル要素が詰まっていて、使い勝手がよさそうだ。ソフト面も充実している。二次元バーコード処方箋システムを導入し、患者さんの待ち時間短縮の切り札になっているという。常勤薬剤師2名、パート薬剤師2名、事務スタッフ7名を抱え(シフト制)、曜日によってバラつきはあるものの、1日平均130枚の処方箋を応需している。(薬剤師募集中!)

特筆すべきは、投薬カウンターの真上(天井)にカメラが設置されていること。患者さんにきちんと薬を渡したか等、目的はトラブ



病院前薬局外観
ドライブスルーは道路側(左)、周囲は広大な敷地を利用してゆとりの駐車スペースとなっていた

ル回避のため。また、カメラのアングルを遠隔操作できるため、薬局内の様子が把握できる。そのNetworkビデオレコーダーは、トラブル回避だけでなく安全管理もできるのだ。いずれは全店舗に導入して、情報収集と薬局管理を徹底したいと鼻息は荒い。

有限会社かわみつは、取締役の川満正啓氏を中心に平成10年4月に設立、15周年を迎えた。病院前薬局の他に、ミント薬局を7店舗経営している。(宮古3店舗、那覇4店舗)職員は約40名。地域に根ざした薬局を10店舗つくることが目標だという。



受話器を上げるだけでつながる通話無料のTAXI呼出電話が設置されていた

た〜い！！

おきなわ薬剤師会報 平成25年11・12月号



カウンター（投薬カウンター真上にはカメラが設置されていた）



Net Work ビデオレコーダーの説明を受ける

川満氏は、宮古地区薬剤師会会長を務めており、薬薬連携のみならず、三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）の連携にも力を入れ繋がりを大切にしている。そこから信頼関係を築いていった。また、「島ならではのコミュニケーション」と言い切った「ゆいまーる」は、医療人に必要不可欠なホスピタリティ精神の根源なのかもしれない。

川満氏に理想の薬局づくりを聞いてみた。

「特別なことはしない。当たり前のことをきちんとやること」

確かに当たり前のこと（基本的なやるべきこと）ができずに、特別なことをすると本末転倒だ。いつも初心を忘れずに日々研鑽しろということらしい。

驚くなかれ、実は川満氏、整体療術師という別の顔を持つ。その資格を取得したのは患者さんの身体に触ることができるから。いやいや、変な意味ではなくて。医師法に抵触しないための手段だったのだ。今では薬剤師のフィジカルアセスメントが求められ、患者さんに触れることを見直されたが、当時は医療行為とみなされ医師法に抵触する可能性があるといわれていた。整体療術師であれば何の問題もなく身体に触れて、副作用のチェックなどができるとふんだのだった。

そのほかにも色々な業界に顔がきく人脈の広さにも驚かされる。「先生」というより「大将！」と呼びたくなる風貌が人気の秘密なのかもしれない。

川満氏の異色な「人間力」が、今後の薬局に反映され、繁栄することを期待したい。



広報委員のインタビューに応える川満氏 整体療術師の顔を持つ

病院前薬局

インフォメーション

宮古島市平良字下里437-9

【営業】月～金

8:30～19:00

【休日】土・日・祝祭日

Spot Light

盛島 明隆 先生

～強面で頼りになる班長！～



もりしま あきたか

昭和28年生まれ 宮古島市出身 昭和薬科大卒

平成15年11月第18回沖縄県薬剤師会学術大会 in 宮古島、平成22年1月宮古地区医薬分業10周年記念、そして今年10月は移動理事会と沖縄県立宮古病院の新築移転で、3度目の訪問になった。今回取材したのは、保健所勤務が長く、保健衛生分野のスペシャリストである盛島明隆氏。来年3月には定年を迎えるが、一見強面なので、か弱き女性職員からは頼りにされている？班長である。しかし、頭の中はものすごい量の情報が詰まっていて、ポンポンポンポン固有名詞が飛び出してくるのでタジタジであった。

盛島氏は昭和28年平良市に生まれ、那覇高校を経て昭和薬科大学（以下昭薬）に進学。その当時、昭薬は沖縄で現地試験を行っていたので受験しやすかったから昭薬を選んだとのこと。実家は薬局で父親が薬剤師であったが、父親の盛島明秀氏は若い頃から市議、立法院議員、県会議員、最後は平良市長として政治活動に忙しく、薬局経営は母親に任せきりだった。

昭薬に進んだもう一つの理由は、

「とにかく東京に行きたくて、行きたくて！ジャズが大好きでコンサートを聴きに行きたかった！」



大麻取締りに西表島へ（左が盛島氏）

一言加えて、

「僕は当時のフォークソングは好きになれなかった」

学生時代は、好きなことばかりしてはお小遣いも足りなくなるので、タダでジャズが聴けるコンサートの警備員という一石二鳥のアルバイトに励んでいた。趣味が高じ、卒業後故郷宮古島に帰ってから、どうしても宮古でジャズの生演奏が聴きたくて、同じ趣味を持つ宮古の友人2人と、県外からジャズバンドを呼び寄せてコンサートを開催。那覇、石垣の友人とも共催し、那覇・宮古・八重山の3か所を巡演させたが、幸いジャズバンドのギャラは安かったので、あまり赤字を出さずに、しばらくは定期的に開催することが出来た。

大学卒業後は父親の勧めもあって、すぐに公務員になった。「君の性格では、薬局の店番は我慢が出来ないだろう。公務員が向いていると思う」至極もっとも適切なアドバイスである。

「その当時は公務員薬剤師が不足していたので、選考試験だけで公務員になれたのです」



沖縄県環境保健部薬務課時代：麻薬係の引き継ぎ
(右は現薬務疾病対策課長の上里林氏)

「今は試験に合格するのは、男子より成績が優秀な女子ばかりで、窓口や電話口での『やんちゃ』なお客さん対応に『班長!』と呼ばれることが多い。」(特に那覇では)

昭和53年4月、最初は宮古保健所に配属され、その後環境保健部薬務課麻薬係に転勤になったが、この部署にいたときの長い公務員生活の中で、最も印象に残っている。毎日夜遅くまで仕事をし、その後同僚達と酒を飲んで帰るので、いつも寝るのは夜中の2時～3時頃、それでも翌朝にはきちんと起きて出勤していた。学生時代は柔道部でならしたので、まだまだ体力には自信があった。その頃取り扱った事件で忘れられないものがある。「某夜間救急診療所で向精神薬が数十本不明になっている」とマスコミにセンセーショナルに取り上げられた事件である。担当であった盛島氏達は、必要書類の持ち出しも出来ないなか、毎夜診療所に出向いて、1本、1本向精神薬の使途を書類・供述上からたどり、不正使用はなかったことを明らかにした。

平成9年再び宮古保健所生活環境課に転勤となったが、ちょうど宮古地区が県内最後の医薬分業定着事業実施地区となったので、積極的に医薬分業推進事業に関わることになった。まず医療機関・薬剤師会・住民代表・行政からなる医薬分業定着促進協議会(協議会)を立ち上げ、協議会の開催、分業先進地への視察、地域住民への医薬分業普及啓発活動等々、全面的に医薬分業をバックアップする体制をとった。宮古地区は、県内では最後の医薬分



阪神淡路大震災の沖縄県医療救護班として派遣された
(左が盛島氏)

業地区となったので、他地区の良い点・悪い点を学習して、分業開始からわずか9か月で宮古病院からの院外処方箋発行率90%を成し遂げたのである。

「あれから約15年もたつけど、薬剤師を取り巻く環境は変わったね～」

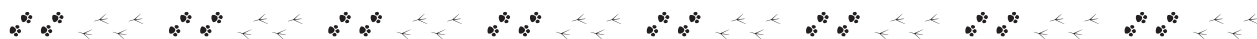
と、感慨深げに語り、続けて、10月に県薬からFAX一斉同報された『薬事法・薬剤師法を遵守して業務遂行を(注意喚起)』について触れた。

「現行法に基づき薬事監視する立場から、ぜひ皆さんには法を遵守してほしい。『調剤報酬』というのは、ほとんど税金に近いお金なので、医療人としての責任は重い。『テクニシャン』という言葉が一人歩きしているが、現在の日本の法律の中ではまだ認められていないという事を是非わかって欲しい」

平成23年、沖縄県中央保健所に転勤となり、最後の生活衛生班長として、沖縄県で初めて中核市となる那覇市への保健所移管事務に2年間携わったことも、公務員生活の中で、思い出深い事であった。



沖縄県中央保健所時代(前中央が盛島氏)



三郎🐶 & いさ吉🐣 の弥次喜多道中！(医療機関・施設訪問)



宮古地区特集

沖縄県立宮古病院 (宮古島市)

広報委員会
伊差川 サヤカ



<プロローグ>

今号は、宮古地区特集ということで、新しくなった沖縄県立宮古病院（以下、宮古病院）取材して参りました。朝夕が涼しく感じ始め、衣替えも始まったかなと思えば、取材日は十月夏小でかなりの日照量。青い空に青い海が映える島で、ピカピカの新宮古病院がそびえ立っています。三郎先輩は学会発表のため、今回の記事はいさ吉のワンマン記事となります。

去る11月9日、旧暦ではまだ10月。戻り夏で太陽カンカンの一日に、新宮古病院の取材に行っていました。旧病院は築30年以上を越え、老朽化が激しかったことから、旧宮古農林高校グラウンドに新築移転されました。新病院は宮古市内の中心部に位置しており、宮古島市休日・夜間救急診療所を併設整備しています。まさに、島内の医療の中核を担っている病院です。青空の下にそびえる新病院は、白色が映えています。周りに大きな建物がないので、約7,000坪の敷地面積よりも大きく見えます。

新病院の診療科は20科目で、合計病床数は277床。駐車スペースは、以前の240台から100台以上増やした350台分を確保されており、かなり広くなりました。低層部が外来・中央診療ブロックで、高層部が病棟部門と2つの部分から構成されています。

病院の正面玄関から入ると、目の前には総合案内所が設けられており、茶色い木でできたカウンターは、通常冷たく感じる病院内部の雰囲気のを和らげて見せていました。入って左側には受付・会計窓口が並んでいます。ちょっとしたスペースに清楚な生花が活けられており、緊張感がほぐれます。

各診療科の外来や検査室は、数字と色を用いて分けられており、患者さんや来院した方が移動するのに分かりやすい仕組み作りがなされていました。20診療科もあれば院内で迷いそうだと思っておりましたが、これなら大丈夫です。

さて、お待ちかねの薬局内の見学です。病院中央のエスカレーターを上がり、調剤室は2階にあります。ドアは入り口横の電子キーをネームプレートで解除することで、中に入ることができました。全ての部署が高いセキュ

リティ下に管理されており、休日に至ってはエレベーターもプレート無しでは動いてくれません。このため、ネームプレートを忘れると悲惨なことに…。



沖縄県立宮古病院外観



視察に訪れた理事らがエントランス前に集結



伊差川サヤカ広報委員の
インタビューに応える渡真利国浩薬局長

薬局の薬剤師数は8人で、助手は2人です。移転後のひと月あたりの院内処方箋枚数は約3,150枚。平日であれば1日あたり120枚弱の処方箋を捌かなければなりません。宮古圏域の医療を担う中核病院であることから、8人という薬剤師数は少ないのでは、と感じられましたが、助手さんが主に発注などの事務業務を担当し、薬局内業務が円滑に進むように協力されているようでした。

過去の集計における院外処方せん発行率は89%です（移転前集計結果。移転後はデータ収集中）。宮古病院では夜間救急診療を行っていますが、院外の薬局は遅いところで22時まで開いているので、22時までは院外へ処方されます。時間外になると、夜間に処方される薬剤は救急室での対応になります。このため若干院外処方せん発行率が下がってしまうようです。救急に備えていない薬剤に関しては、夜間はオンコールで薬剤師対応になります。



モダンで美しいエントランスホール



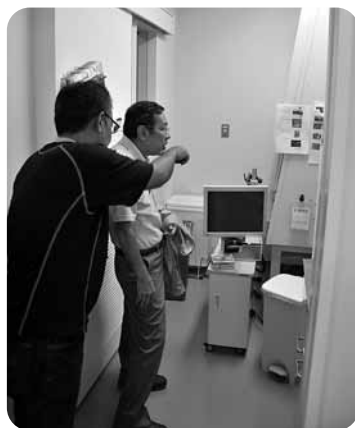
院内を視察（診療科毎に数字と色で分けされていた）

薬剤師8人の主な配置は、病棟担当が4人、調剤室が3人配置され、この3人が抗ガン剤やTPN製剤の混注を行っているとのこと。また注射薬管理室は1人で調剤を行い、各病棟担当薬剤師（4名）で注射薬の鑑査を行います。抗ガン剤の混注業務は1日に5～6件あることから、多忙さが窺えます。病棟担当薬剤師は、病棟における服薬指導や持参薬鑑別などを行います。

薬局内には、注射薬自動払出システムがどっしりと構えていました。抗生剤をはじめ、よく処方される薬剤がピッ



投薬口は投薬専用のため手狭であったが、直ぐ裏の専用エレベーターで2階の調剤室へ通ずる



抗がん剤調製室を見る松山副会長



高度で高価な新しい設備に見入った

カーに補充されており、調剤業務の効率を高めています。注射薬だけではなく、錠剤分包機や水剤分注機など最新の機器が揃っています。また、一包化錠剤鑑査支援装置も整っていました。精神科外来は平日月曜日から金曜日まで受け付けており、一包化処方も多いので、少ない人数で業務を迅速かつ正確に行う上で一包化鑑査の機械は非常に有用な様子でした。機械だけではなく、調剤棚もミスを少なくできるよう、劇薬は赤で目立たせ、規格の異なる薬剤は黄色と青色で区別し、一目でわかるように工夫されていました。薬剤のうち、後発品が占める割合が約26%で、今後増えていく見通しとのことです。

台風を含めた自然災害などが起こった時、離島地域の医療はその地域で完結させねばならないため、地域での連携が大切です。よって、病院も地域の薬局との連携は必至であり、ここ、宮古病院でも薬薬連携に対して積極的な姿勢で取り組んでいます。旧病院の時より、近隣の院外薬局と話し合う場を設けており、テーマは多岐に渡りますが、院外薬局における疑義照会内容や、その時困っていることなどについて談議されるようです。地域における医療が、より円滑になるよう皆さんで尽力されているようでした。



当直で忙しい中、質問に応じてくれた伊波寛史氏

最後に、渡真利国浩薬局長へどのような薬局にしていきたいかを尋ねると、「常に患者さんのためにあり、薬剤師がチーム医療の一員として貢献できる薬局。また職員にとって働きやすい職場」とお答えいただきました。この言葉を聞いた時、ふと、私は宮古病院のロゴマークを思い出しました。ロゴでは、MIYAKOの「M」をモチーフに、人と人が手を携えている姿をデザインし、宮古病院と地域の皆様とのつながりを表現されています。そこには、「いつでも側にいる」、「常に寄り添っている」というメッセージが込められているそうです。Mの文字の片側は患者であると同時に、職員かもしれません。渡真利薬局長をはじめとし、地域の方を常に思い、周りにいる職員を想い合っている姿はまさにロゴマークそのままだとストンと心に落ちたのでした。

移転後で非常に忙しかったかと思いますが、温かい心でもって取材に応じてくださった渡真利薬局長、ありがとうございました。紙面を以て感謝申し上げます。



宮古病院ロゴマークが目を引く敷地入口の標示看板



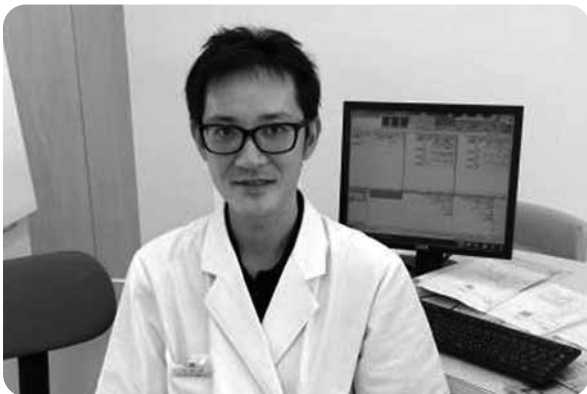
燃えろ！青年団

もっと若い薬剤師の声を・交流の場をもっと増やそう！と「燃えろ青年団」のページが復活、第3回目の連載です！

今回の団員は、山崎今日太さんを紹介します♪



団員紹介 23



やまざき きょうた
山崎 今日太 プロフィール

出身大学：北海道医療大学

誕生日：昭和52年9月

勤務地：ミント薬局 腰原店（宮古）

これまでの経歴

出身は北海道で大学も北海道でしたが、暖かい土地にあこがれて大学卒業と同時に沖縄へ来ました。5年前から今の薬局に勤務しています。

山崎さんへの一問一答

- ・好きな飲み物・食べ物
コーヒー、カツカレー
- ・紹介したい店（宮古）とお勧めメニュー
すむばり食堂のタコ丼
古謝食堂のそば
- ・朝起きて最初に思うことは？
猫のアンコちゃん（雑種）はどこ？



アンコちゃんとの2ショット！

現在行っているお仕事や目下の関心事など

在宅医療の充実（現在は玄関先で薬を渡すぐらいのことしかできていない…。）

求められたときにいつでも対応できるよう日々勉強、準備を進めています。

仕事の流儀

細かいことを気にするように心がけています。

あと、一人薬剤師なので、いいかげんにならないように気を付けています。

みんなへのメッセージをお願いします

違う職場の薬剤師との交流は刺激となり楽しみです。多くの方と交流を持ちたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

（文：広報委員会 鈴木 一徳）



「ストロング・メディスン」を読んで



宮古島リハビリ温泉病院 方 智子

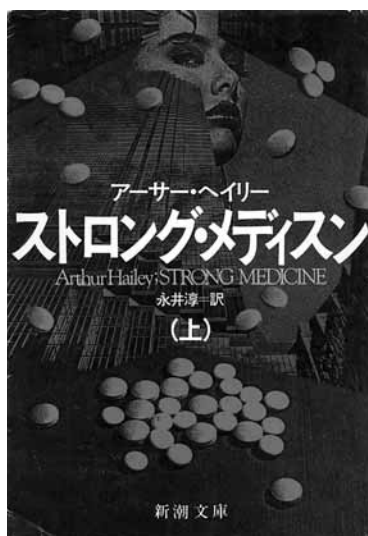
何年前になるだろうか？10年以上も前です。私がある先生から薦められた本のタイトルです。

医療に携わる仕事をしている私達は、薬の良し悪しを理解している！？にもかかわらず、患者さんの目線ではなく自分の服薬指導やアドヒアランスに重点を置いて処方箋を単にこなす事に専念している毎日です。一薬剤師としての立場からの意見と家庭に帰り母親の立場からの意見には誤差（ズレ）が生じてくる事を日々感じています。例えば、家族の中に一般的な風邪症状、又はアレルギー症状がある場合「こんなに薬をたくさん与えるの？」「子供が嫌がっても無理にでも飲ませないといけない？」「私も子供も喘息と思ってなかったのに吸入薬！？えーっ！？」なんて、素人同様一喜一憂しています。

さて、以前に読んだアーサー・ヘイリー著書「ストロング・メディスン」は、アメリカの大手製薬会社の女性プロパー（現MR）が主人公です。女性が社会進出をし、最高経営責任者まで上り詰めるサクセスストーリーですが、薬の持つ光と影について描かれています。現代の過剰な？と思われる医療提供にあてはまる部分を予測していたようです。物語は、私達をコントロールしている薬物に警鐘を促す本でした。主人公のシーリアが、新薬販売部長として社運を掛けた新薬（モンテイン）は吉なのか凶なのか？妊娠中のつわり軽減薬を服用した妊婦が、障害児を出産する事例が何件

も起きたのです。あろうことか、社長の娘さんもこの薬の服用により障害児を出産し、娘の不幸に苦悩した社長は・・・？自殺してしまうのです。結末から学んだことは失敗した薬よりも成功した薬、有用な薬が遙かに多いという事を受け止め、新薬の開発から販売まで前向きに取り組み続ける女性を描いていました。

最近、気になる話題にワクチン接種があります。国は数年前から子宮頸がん予防のワクチンを積極的に薦めました。しかし、このワクチンを接種した女性、それも学生の若い子供達の副作用の症状をTVや新聞、その他のメディアでも大きく取り上げられました。その後、国は接種を任意へと変更しました。日本では、赤ちゃんが生まれてくると何種類のワクチンを投与しているのでしょうか？確か8～10種類は幼少期に済ませるのが常識とされています。ワクチンの発明、研究が18世紀から始まり、天然痘、コレラ、炭疽、破



アーサー・ヘイリー著書「ストロング・メディスン」表紙
(上) (下)



傷風、ペストなどのワクチン開発で多くの命が救われました。おかげでウイルスや伝染病にも抵抗できる体でいられる事に感謝しています。ワクチンは確かに救世主です。でも「本当に必要なもの?」「ワクチンを信用しすぎてない?」「製薬会社の株上昇に便乗させられてない?」・・・・・・?薬剤師として、母親として、予防接種の前には副作用情報をきちんと理解し説明できるのが理想と思います。それから、情報提供の際は慎重な言葉を選ぶべきだと改めて感じました。

先輩からの教訓に、「クスリはリスク」と

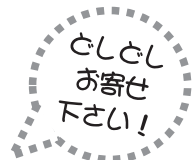
いう言葉を教えて頂きました。いつもの業務でも処方箋から要点を見つけ、リスクを出さない様に、又は減らせる様に、安心・安全を伝えていくことを目指したいと思います。

「ストロング・メディスン」を読んだことで、会社の利益追求、病院の経営実績重視の風潮から脱出し、患者さんやお客様から「薬に対する意識が変わったよ」とか「前から気になっていたことが納得できたよ」なんて言われるような薬剤師でありたい、と思わせられました。読み終えた後にはスーッと楽になった気分のする、今でも心に残る一冊です。

次号には、棚田雅貴 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

会 報 原 稿 募 集 の ご 案 内

広 報 委 員 会



おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します(薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です)。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております(手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します)。

☆原稿送付先(会報に関する問い合わせ)

〒901-1105 島尻郡南風原町字新川218-10 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932
e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp



月例相談会

第112回健康とおくすり相談会報告

日時：平成25年12月1日(日) 10:00～17:00

場所：ダイワドライビングスクール跡地

担当：宮古地区薬剤師会



広報委員会 宮古地区通信
前里 由紀子

「第36回宮古の産業まつり」会場の一角を借り、今年も「健康とおくすり相談会」を実施しました。午前10時から午後5時までと長丁場でしたが、計10名の地区薬剤師が交代で相談に当たりました。

会場は各企業の宣伝（自慢商品のアピール）は勿論、宮古島警察署の宮古島まもる君、マルコちゃんが居たり、パトカー・白バイに試乗できるコーナー、屋台コーナーなどで熱気にあふれていました。

体成分分析器、動脈硬化度測定器、血圧計を用いての健康相談に計91名、薬の相談は12名が訪れました。「靴下を脱いで測定します」の声かけに対し、ズボンも脱ぐか？と言ってみたり、血圧計に腕が入らないほど太っていたりと、ちょっと苦笑いが出る場面もありました。特に、体成分分析器に人気がありました。老若男女、プリントアウトされた表を見ながら説明に聞き入っていました。

担当した薬剤師の感想は、「肥満の方が多いことはわかっていたが、これほどかと驚いた。普段は実際に病気の患者さんにしか接してないが、今回参加して健康な方と話せる機会を持てて楽しかった」と話していました。動脈硬化度測定器を担当した相談員は、「危険度が高かった方のハイリスク要因を問診し、認識させてあげることができ良かった」。血圧測定

を担当した相談員は、「若いのでまだ（薬を飲まなくても）大丈夫と過信している方に受診を勧めたり、高齢だが血圧コントロールがとても良い方を褒めてあげたりと有意義だった」と話していました。

肥満・高血圧と言われた方の多くが「痩せろとは言われるけど、どうやって痩せるかね～。運動しなさいとか言われるけどなかなかね～。酒もやめられんしね～」と話していました。我々もウォーキング、水泳などアドバイスはするが、実行に移す人はごくわずかで。宮古島市は肥満、糖尿病罹患率ともに沖縄県トップであり、沖縄県は全国で見てもトップクラス、つまり、宮古島市は日本一肥満、糖尿病の方が多いといえます。肥満→各種病気・ロコモティブシンドローム→介護は全ての島民の問題になってきます。このままでは宮古島の未来は暗い。我々薬剤師も視野を広く持ち、目の前の患者さんだけでなく、今回のような相談会や・学校教育等にも力を入れ、運動のアドバイスをする方たちとも連携して地域のために役立っていかなくてはと強く感じました。



写真提供：宮古地区薬剤師会

健康とおくすり相談員

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| ○下地 仁 | ○平良由紀子 | ○砂川由美子 | ○下地 睦夫 | ○方 智子 |
| ○古謝 真己 | ○上里 雅江 | ○山崎今日太 | ○上川畑 剛 | ○前里由紀子 |



学校薬剤師って、知っていますか？

～離島から都会の学校へ～



学校薬剤師部会
副部会長 村田 成夫

学校薬剤師の活動といえば？

今さらではないが、学校環境衛生検査である飲料水やプールの水質検査を始め教室の照度検査、ダニ・ダニアレルゲン検査、騒音測定等、それぞれ測定器具を用いて行い、結果により学校環境衛生面に関し学校に対し指導助言を行うことを主体としている。

更にもう一つ、児童、生徒らを対象に薬剤師職能を活かした教育活動の一つとして薬物乱用防止教育、薬の適正使用教育及びドーピング防止活動等が挙げられる。

沖縄本島の西約300キロに宮古島があって、さらに宮古島から西約100キロ先の洋上に浮かぶ多良間島がある。島のほとんどが耕作地で、サトウキビ栽培や肉用牛の飼育が行われており、特に黒糖では単位面積あたりの収穫量が沖縄県内で最多となっている。

宮古郡多良間村立多良間中学校は薬物乱用防止講話を行う受け持ち校のひとつである。多良間中学校は今年創立63年を迎え「至誠」を校訓とし、文武両道を目指す在籍数凡そ60名の学校でそのうち三年生は約20名である。

多良間島へ行くと校内に限らず生徒と出会う。先々で生徒達から積極的に挨拶されるので、学校目標でもある心豊かで思いやりのある行動を実行されている活気ある学校である。

「旅立ちの島唄～十五の春

～」という映画を御覧になっただろうか。島の少女と家族、地域の人々との絆。実話をもとに生まれた絶海の孤島、南大東島を舞台に高校進学を機に子どもたちはみな十五の春に島を旅立つ。

高校がない離島で暮らす子どもたちは、中学校卒業と同時に島を離れ、親元から「巣立つ」15歳という若い独り立ちには、生活の不安、経済的な負担など多くの壁や困難が立ちふさがる。中学三年生にとっては島で過ごす最後の一年である。全員が進学を希望し沖縄本島や宮古島にある高校に進学する。そして、進学先での住居環境については寮生活、親類・兄弟で生活、独り住まい、家族で移住等の選択を迫られる。15歳で親元を離れて暮らす子供の、親の一番の心配は、日常生活の安全や健康管理である。親元から離れて飲酒、喫煙や薬物等に誘われ非行に走らないかどうか、親はもとより送り出す中学校の先生方の一番の心配ごとであるに違いない。

映画を観ながら自分が受け持つ多良間中学の生徒たちを思い浮かべ、そう多良間島の生徒たちも全くと言って同じ環境だと、そして思ったこと“薬物乱用防止”の講話が如何に大事な活動の一つであるか改めて思い重ねながら見入って席を後にしながら今度講話するときは又違った思いの講話になりそうだと・・・。





寄稿

健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告

(財) 沖縄県老人クラブ連合会事務局

去る平成25年11月7日(木)～8日(金)の2日間の日程で、宮古島市にあります宮古青少年の家にて、健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」を沖縄県老人クラブ連合会主催にて開催し、老人クラブ会員60名が受講しました。

2日目の8日(金)に、沖縄県薬剤師会より砂川裕美子先生(宮古島リハビリ温泉病院)を講師に迎え、「くすりの正しい使い方」と題して講義をして頂きました。

健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」は、各地区(市町村)老連において健康と生きがいがづくり活動を推進するため、その担い手となるリーダー(講習会終了後、老人クラブ等の実施する生きがいと健康づくりに指導的実践者となる者)を養成することで、高齢者の健康づくりと生きがいがづくりの支援・推進を図る目的で開催しております。

高齢者は、加齢とともに薬を使用する機会が増え、また複数の薬を使用することも少なくありません。薬についての知識と理解を深め、その正しい使い方や保管の仕方等について学べる学習の場が必要だと思い、本講習会において「くすりの正しい使い方」と題して講義を実施しようと企画し、沖縄県薬剤師会に本講習会の趣旨、内容等を相談・依頼したところ、本事業の講習会に賛同して頂き開催できることとなりました。

今回の講習会では、プリントの活字だけではなく、パワーポイントを使って分かりやす

く丁寧に講義して頂きました。また講義の中で、設けた質問タイムでは、1つ1つ時間が許す限り丁寧に答えて下さいました。

沖縄県老人クラブ連合会では、講習会終了後にアンケートを実施しております。下記のとおり「くすりの正しい使い方」についてもアンケートを実施し、まとめてあります。

○講義を受講して「薬」に対する考え方が変わりましたか?

大きく変わった	20%
変わった	60%
あまり変わらない	20%

「大きく変わった」が20%、「変わった」が60%と受講者の8割を占めていて、講義を受講して「薬」に対する認識が変わったという回答が得られました。具体的な意見は、次のとおりです。

- 飲み続けなければならない薬の大切さがわかりました。
- 薬は治すことではなく、良い状態を維持することを知りました。
- 薬は時間を決めて、服用することを知りました。
- 正しい飲み方、使い方を守っていききたいと思います。
- 薬の飲み方がよくわかりました。
- 血圧の薬を毎日1錠づつ飲んでいますが続けるつもりです。



写真提供：(財) 沖縄県老人クラブ連合会事務局



講師：砂川 裕美子 先生

卒煙物語 その43

まごはやさしい

文：卒煙へようこそ担当
えんこ

時代はどんどん進んでいます。
どうしてこんな時代になったのか、
それなりの理由があります。
「卒煙」を知らないではすみません。
さあ、一緒に取り組みましょう！



今回、小学生、高校生と防煙教室をする機会がありました。どちらの教室においても「みなさんのお母さん、お父さん、お爺さん、お婆さんは、これからお話しすることを知らない人がほとんどだと思います。知らずにタバコを吸い始めてやめきれない人がいます。知らないのだから責められません」と始めています。

振り返れば、私がそう話してきたのは7年程前からで、初めに話した中学生はもう二十歳になろうとしています。もうそろそろ、その言葉が使えない時期が来ます。その効果も試される時期にきています。長い年月ですが効果的であってほしいと思います。私の子供たちの話を抜きにしても、私たち世代の幼少時代に比べ禁煙の動きはかなりの勢いで進んでいます。世の大人男性がほとんど喫煙者だった時代から、半分以上に減ってきている時代が来ています。今回私が講演した小学生は、まだまだ先ですが、高校生となるともうすぐ子を持つ親になる時期を迎えます。そんな成長期の子供たちには、悪さを知ったのだから手を出さないことを強調します。入煙しない。そして、悪さを知り、入煙してい

ない人が、根気よく悪さを伝えることで、タバコを止める気を起こさせていくというのが究極の防煙の教育と考えています。

卒煙は孫の力、子の力。「まごわやさしい(豆・ごま・わかめ・野菜・魚・しいたけ・芋)」と生活習慣病予防という1日のバランスいい食事を取るという言葉に似て、禁煙でも、お爺さんが孫に言われて、やめた話をよく聞きます。世の子・孫と世代間のいい流れ。孫は優しい。優しさは教育で育つ。孫の言葉は効く。孫が教育的に成長していくことは大きな力になると考えます。

幼少の子供たちには、ラブラブビームでおなじみのエプロンシアターで、タバコの悪さ、タバコから抜けでる愛の方法を伝えます。高校生のような大人に近い子供たちには、タバコは国が売っていた時代があった、悪さが知られない時代があったそのうえで悪さを知った今の世の中で、悪さが広まらないように悪さを断ち切るために行動することを自ら考える方向が育つよう伝えます。

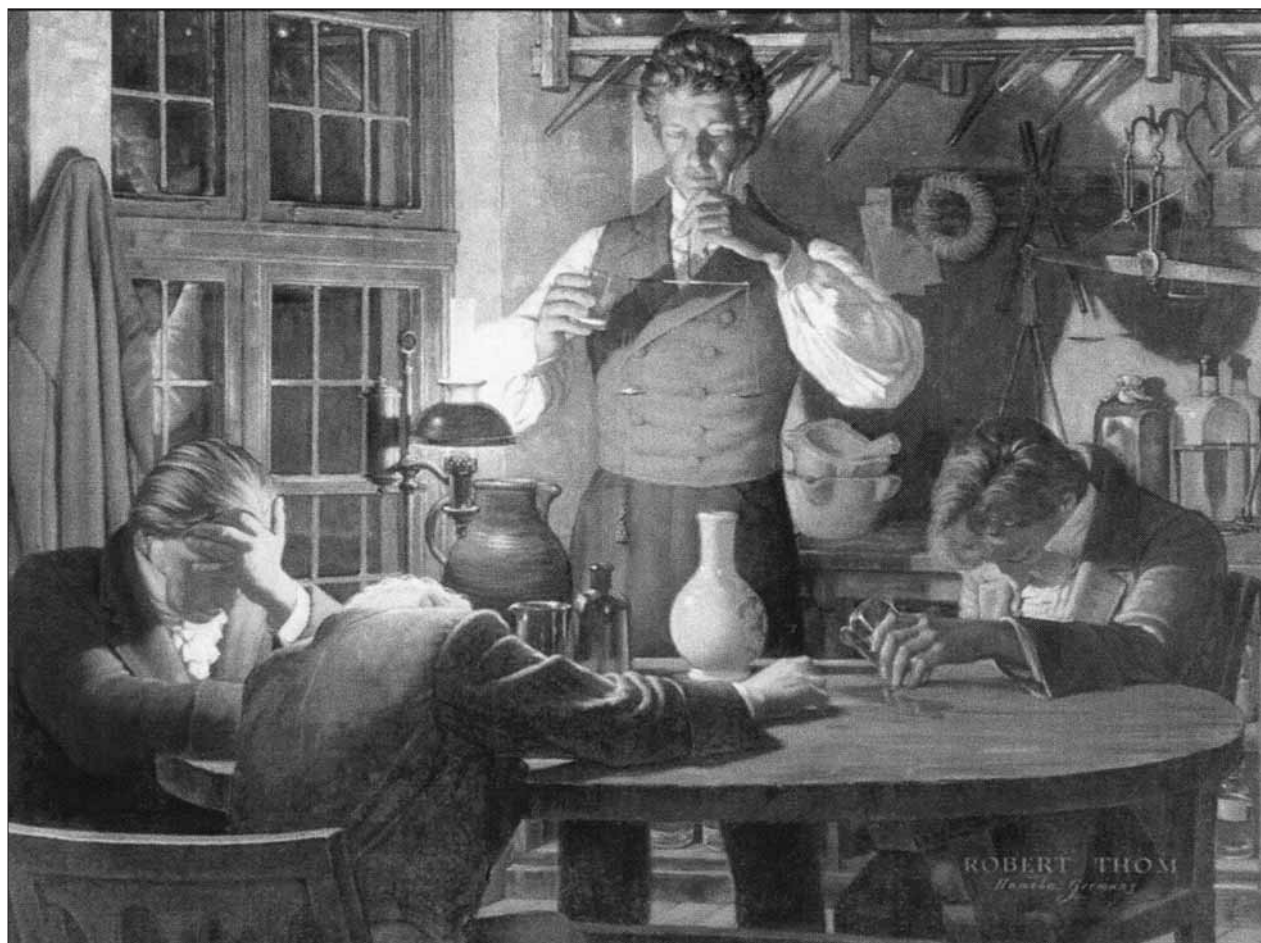
卒煙者の経験談を募集しています。皆様の声が大きな励みとなることでしょう。
下記までお寄せ下さい。

e-mail kouhou@okiyaku.or.jp

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10

TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932

薬事情報センター内 卒煙へようこそ担当 えんこ 行き



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

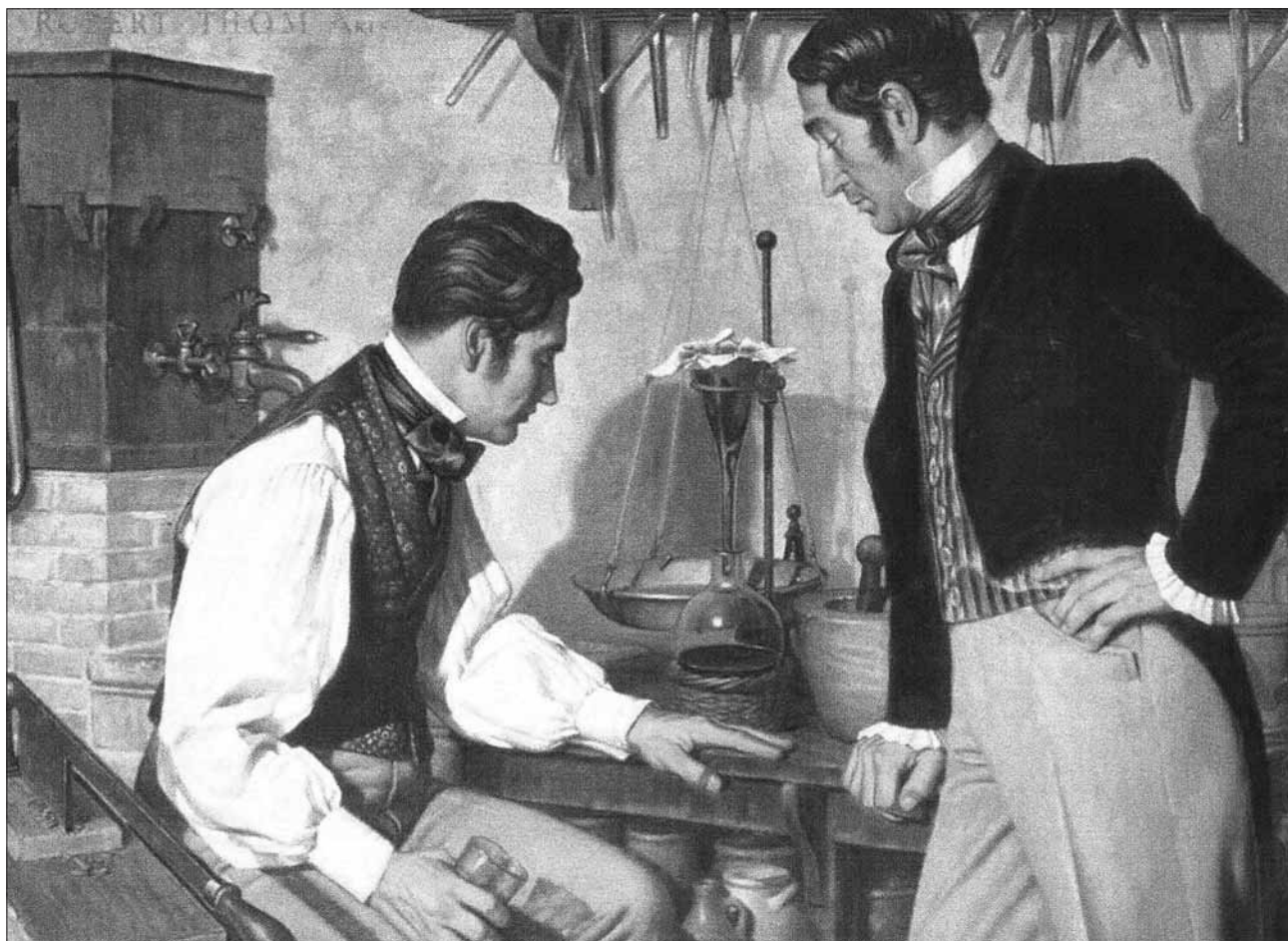
薬学の歴史

23. 最初のアлкаロイド化学者、ゼルチュナー

植物性有機酸の分離の道を開いたのはスウェーデン出身の薬剤師シェーレでしたが、アヘンの主要な麻薬成分がモルヒネであることを世界に広め、アルカロイドという新しい有機物質の重要性を認識し証明したのは、若いドイツ人薬剤師、フリードリッヒ・ヴィルヘルム・アダム・ゼルチュナーです。彼は挑戦的な発表を行い、1816年にアインベックの自らの薬店で彼自身と3人の若い友人を対象とした生理学実験を含む新しい一連の大胆で驚くべき実験を行い、後に評判と名声を得ました。その後ゼルチュナーはハメルンの薬店に移り、有機化学の実験と発見に生涯を捧げました。

23. SERTÜNER - FIRST OF THE ALKALOID CHEMISTS

Swedish pharmacist Scheele paved the way for isolating organic plant acids; but it remained for a young German apothecary, Friedrich Wilhelm Adam Sertürner, to give the world opium's chief narcotic principle, morphine; and to recognize and prove the importance of a new class of organic substances: alkaloids. His first announcements challenged, Sertürner in 1816 conducted a new series of bold, startling experiments in his apothecary shop in Einbeck, including a series of physiologic tests on himself and three young friends. Recognition and fame followed. Relocating in an apothecary shop in Hameln, Sertürner continued organic chemical experimentation and discovery throughout his life.



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

薬学の歴史

24. カヴァントゥー、ペルティエ、そしてキニーネ

2人のフランス人薬剤師、ピエール・ジョセフ・ペルティエとジョセフ・ベイネミ・カヴァントゥーは、ゼルチュナーが行ったアルカロイドの実験を手掛かりに、1817年にトコンからエメチンを、1818年にはマチンからストリキニーネとブルシンを分離しました。その後2人は、パリの薬店の奥にある自分たちの実験室で、何十年も科学者たちを悩ませていたキナの樹皮がもつマラリアへの優れた効果の解明に取り組みました。1820年、カヴァントゥーとペルティエは、キナ皮からキニーネとシンコニンを分離する方法を公表しました。純粋な塩を使い、臨床研究を経て、製造工程に持ち込んだのです。薬店のこの実験室からは他にも多くの発見がなされ、彼らは高い名声を得ることになりました。

24. CAVENTOU, PELLETIER AND QUININE

Taking their cue from Sertürner's alkaloidal experiments, two French pharmacists, Messrs. Pierre-Joseph Pelletier and Joseph-Bienaimé Caventou, isolated emetine from ipecacuanha in 1817; strychnine and brucine from nux vomica in 1818; then, in their laboratory in the back of a Parisian apothecary shop, they tackled the problem that had baffled scientists for decades-wresting the secrets of the Peruvian barks that were so useful against malaria. In 1820 Caventou and Pelletier announced the methods for separation of quinine and cinchonine from the cinchona barks; prepared pure salts, had them tested clinically, and set up manufacturing facilities. Many other discoveries came from their pharmacy-laboratory; high honors were accorded them.

第11回 暮らしの中の薬草学

身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

ウコン

- 学 名 *Curcuma longa* L.
科 名 ショウガ科
属 名 ウコン属 *Curcuma*
使用部位 塊根、根茎
有効成分 ターメリック・クルクミン
鉄・カリウム・VC・カロテン



ウコンの特徴

熱帯アジア原産のショウガ科ウコン属の多年草で、日本では九州、沖縄で栽培される。葉は大形の楕円形で、先がとがり表面も裏面も無毛で、夏に葉の間から花茎を出して淡い黄色の花をつける。橙黄色の根茎は外観が生姜に似ている。香辛料、着色料、生薬として用いられる。秋ウコン、黄染草とも。英名ターメリック *turmeric*。沖縄方言ウッチン。鬱金ウコンの原義は「鮮やかな黄色」。呉音ウッコンが転訛しウコンとなった。日本のカレー粉に使われるのは、苦みが無くオレンジ色のいわゆる秋ウコンのほうである。苦く黄色の春ウコン：キョウオウ (*C.aromatica*) や、紫ウコン：ガジュツ (*C.zedoaria*) とは同属別種である。

中国では、日本でのウコンをキョウオウ、日本でのキョウオウをウコンといい、日本と逆になっている。中医学漢方の生薬分類上、春ウコンと秋ウコンの根茎を姜黄、塊根を鬱金キョウオウとしているが、日本に漢方が書物により伝来し普及する過程で、情報が混乱し正しく伝わらなかったようである。中国から輸入のウコン類生薬は、中国の定義に基づいた名称のものもある。

ウコンの歴史

南方との交易でウコンを入手した琉球王国であるが、薩摩藩が侵入したとき以降（1609年慶長の役）はウコンの栽培が琉球王国の専売制度になり一般の人たちの使用が禁じられたことがある。西日本ではウコンの薬効が評価され、沖縄の約30倍の値段で取引されていたという。

ウコン（秋ウコン）の成分組成

ウコンには約5%前後の精油成分エッセンシャルオイルと、約5%前後のポリフェノール類クルクミンが含まれている。主な有効成分の他に、ミネラル（鉄分）などの微量元素や、食物繊維、デンプン、カリウム、ビタミンC、および、カロテンなどが含まれている。黄色の着色料としても使われ、キジメグサの異名がある。カレーの黄色はウコンの色クルクミンであるほか、からし、たくあん、黄袋などにも用いられる。また湿潤効果や発毛抑制作用があるとされ外用剤として使用される。

参考 沖縄食の大百科 薬膳・薬草と薬草料理
健康と長寿の島々、Wikipedia

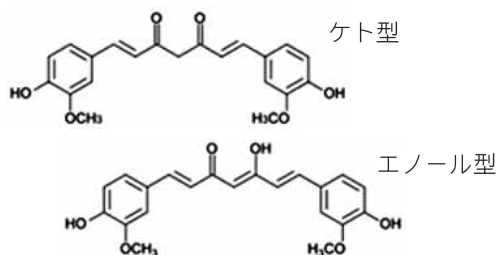
栄養成分（根100g当たり）

日本食品分析センターによる分析結果

エネルギー	蛋白質	炭水化物	脂 質	食物繊維	マグネシウム	リ ン	カリウム
38 kcal	1.7 g	4.9 g	1.3 g	4.9 g	40.9 mg	61.9 mg	439 mg
鉄	クルクミン	カルシウム	ナトリウム	メタノール	精 油	水 分	灰 分
1.12 mg	13 mg	15.0 mg	3.7 mg	81 ppm	0.4 ml	86.3 g	1.0 g

ウコンのクルクミン

クルクミンは貴重な栄養素で、100gの秋ウコンから1～2g程度しか採ることができない。クルクミンは、現在世界各国で注目されていて、様々な研究が行なわれている。クルクミンの、胆汁酸を分泌させ、消化を助けるという効能は、昔から知られている。さらにクルクミンは、肝臓の問題（肝機能強化、脂肪肝、肝炎、肝硬変）、便秘、痔疾、炎症、コレステロール・糖などの改善にも効果がある。クルクミンの安全性については、人間が1日8gのクルクミンを継続して摂取しても毒性を示すことがなかった、という研究結果が報告されている。WHO（世界保健機構）やFAO（国連食糧農業機構）でも、クルクミンは安全な食品として承認されている。また、処方箋がなくても購入できる薬として、ドイツでも承認されている。



クルクミンはポリフェノールの一種であるクルクミノイドに分類される。ケト型とエノール型の互変異性体が存在し、固体および溶液中においては後者がエネルギー的に安定である。

肝機能の強化と解毒作用

クルクミンは、胆汁の分泌を促進することによって、肝細胞を刺激する。また、体内の毒素を解毒する作用を強化する。ただし秋ウコンの根茎は、クルクミンの他にもミネラル分（鉄分）が豊富に含まれているものがある。例えばC型慢性肝炎患者（あるいはその他の肝炎患者）は、罹患した時点ですでに鉄過剰を起こしやすいことから、鉄制限食療法が推奨されている。そのような場合には、ウコン含有の鉄分（栽培地や栽培方法によってミネラルの含有量が高くなる場合がある）が肝臓に過剰な影響を及ぼす可能性があり、注意が必要である。Wikipedia

がんを抑制する作用

クルクミンは、様々な臓器のがんを抑制する効果があることが報告されている。クルク

ミンの抗酸化作用、抗炎症作用は、転写因子NF- κ Bによって制御されている。iNOS（誘導型一酸化窒素合成酵素）、COX2（シクロオキシナーゼ2）及び炎症性サイトカインの発現を抑制することにより発揮されるものと考えられている。COX-2酵素は、最近急増している肺線がんで著明に発現していることが知られているが、一方正常の肺上皮細胞には発現していない酵素である。COX-2酵素は、がん細胞に高発現し、がん細胞自身の増殖を促進すると同時に、血管新生を促進し、がん細胞への栄養補給を増加し、更に生体の免疫能も低下させることが報告されている。COX-2酵素の持つこれら一連の作用を阻害することにより、がん治療を向上させる試みが検討されている。

参考：富山医科薬科大学と漢薬研究所 東田千尋
愛知がんセンター呼吸器内科部長、樋田豊明

アルツハイマー病等にたいする予防の可能性

アミロイド β タンパクが脳に凝集していく過程を試験管の中に再現し、クルクミンがそれを阻止するか否かを調べた結果、クルクミンを加えたことで、アミロイド β タンパクの凝集・線維化が、大幅に抑制された。またその抑制効果は、クルクミンの濃度が濃いほど顕著に認められた。すでに線維化したアミロイド β タンパクに対するこの場合もクルクミンを加えることで線維が分解（不安定化）され、またその効力はクルクミンの濃度に依存していた。また、アミロイド β タンパクの凝集を抑制し、すでに凝集・線維化してしまったものに対しては不安定化して分解することが確認された。

パーキンソン病（高齢者に多い脳の病気）やレビー小体型認知症（認知症の原因疾患として3番目の多い）では、 α -シヌクレインという異常なタンパク質が脳内に凝集することが知られている。クルクミンがこの α -シヌクレインに対して、アミロイド β と同様の効果（凝集抑制作用及びすでに凝集・線維化してしまったものを不安定化し分解する作用）を示すことが確認されており、クルクミンはこれらの病気の予防、治療薬開発においても期待が持てる。

参考：山田正仁：金沢大学大学院医学系研究科教授
厚生労働省・アミロイドーシス調査研究班・班長

薬連だより

国会レポート

～第185回臨時国会が始まる～



参議院議員・薬学博士 藤井 もとゆき

10月15日、第185回臨時国会が召集され、同日開会式が行われました。開会式の前に開催された「原子力問題特別委員会」において、再び委員長に選任されたので、開会式への天皇陛下のお迎えに他の委員長らとともに参加しました。

開会式後の本会議において、会期は12月6日までの53日間と決定され、その後、安倍総理の所信表明演説を聴取し、次に2020年に開催される東京オリンピックの成功に向けての決議等が行われました。本臨時国会においては、原子力問題特別委員会のほか、環境委員会にも所属することとなりました。

さて、本臨時国会では、医療や医薬品関係における重要な法案が審議され、成立を目指すこととなっています。そのいくつかについて解説したいと思います。

一つ目は、衆議院において通常国会で継続審議扱いとなっていました、「薬事法等の一部を改正する法律案」と「再生医療等の安全性の確保等に関する法律案」です。これらの法律案の共通事項は「再生医療」の実用化に向けての適切な仕組みを構築し（再生医療法案）、その結果得られた「再生医療等製品」の有効性、安全性及び品質を確保し、特別な承認制度のもとで条件付承認を与え（薬事法改正法案）、早期に医療保険制度の中で使用できるようにしようという目的で提案されています。10月1日の衆議院厚生労働委員会において2法案についての集中審議が行われ、可決しました。今後、参議院において審議さ

れることとなります。今国会中の成立が見込まれ、iPS細胞等の実用化に向けて、新たな医療の展開のための環境が整うこととなります。

二つ目は、「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律案」です。本法案は、社会保障制度改革国民会議の審議結果を踏まえ、8月21日に閣議決定された「社会保障制度改革推進法第4条の規定に基づく「法制上の措置」の骨子について」に基づき、社会保障制度改革の全体像と進め方を明示することを目的とした法律案で、通称「プログラム法案」と言われているものです。衆議院において審議が始まっています。

三つ目は、「薬事法及び薬剤師法の一部を改正する法律案」です。これは、一般用医薬品のインターネット販売に関する最高裁判決を踏まえ、医薬品及び薬剤の使用に際しての安全性の確保を図るため、医薬品の区分として新たに「要指導医薬品」を新設し、販売に際して「薬剤師の対面による」情報提供及び指導を明確に義務づけるものです。この法案は、これから自民党内の手続きを踏んでいく必要があり、今国会会期内での成立が可能なかが気になるところです。法律改正がなされると、一般用医薬品以外の医薬品（要指導医薬品を含む）については、「対面販売」が義務づけられ、法律上インターネット販売が禁止されることとなります。また、この法律改正では、指定薬物について、その所持、使用等を禁止することも含まれています。

お知らせ

「日本薬剤師会生涯学習支援システム JPALS」について（沖縄県）

平成24年度4月から「日本薬剤師会生涯学習支援システム (JPALS:ジェイパルス)」がスタートしています。基本的な考え方は、

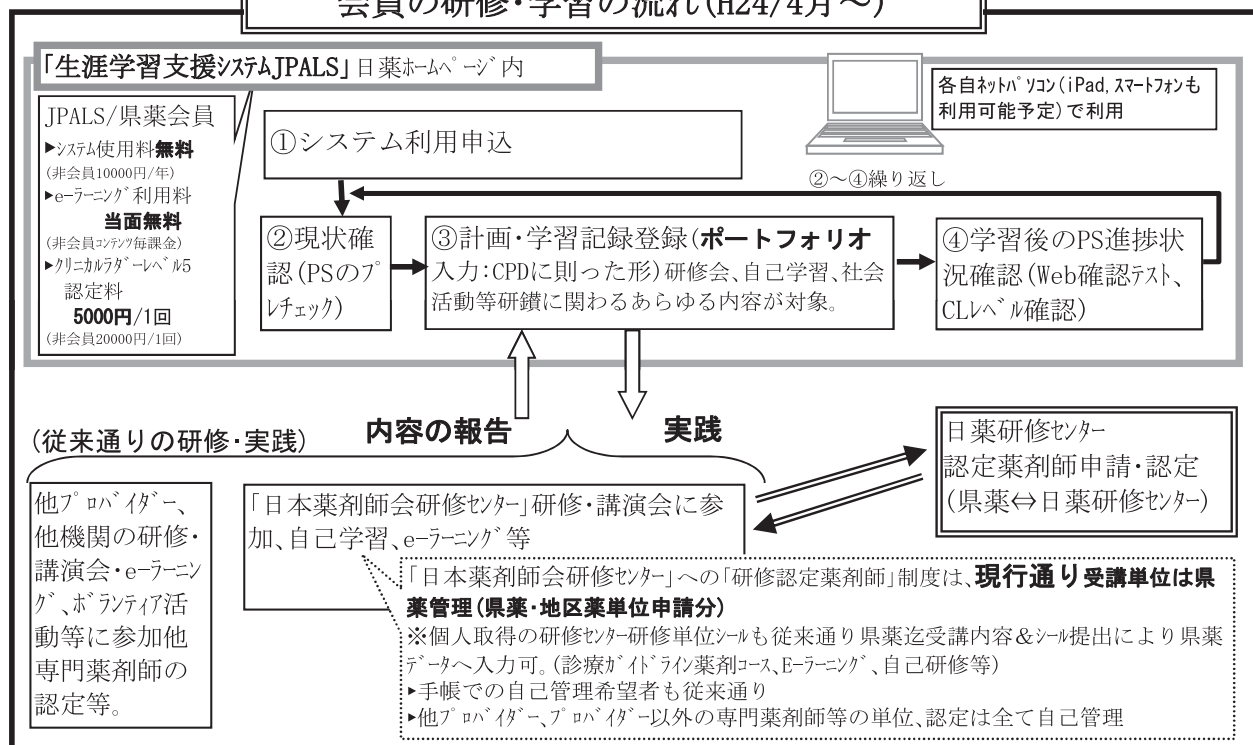
- ①まずはジェネラリストを目指す/「プロフェッショナルスタンダード (PS)」※「クリニカルラダー (CL)」に基づいて計画
- ②自己学習を支援する/「e-ラーニングシステム」
- ③記録し報告する習慣を身につける/「ポートフォリオシステム (学習記録自己管理システム)」

の3つです。このシステム (Web上) に記録する内容は研修会だけにとどまらず、職場の勉強会から個人の自己学習、社会活動など研鑽に関わるあらゆる内容が対象となります。(詳しくはH24/3月発行の「日薬雑誌3月号」同封冊子「JPALS」参照)



平成24年4からはとにかく「**研修したらポートフォリオを作成!**」記録を残すことが『**薬剤師の常識**』となります。薬剤師人生一生分の学習履歴を財産として残せます。受講者本人が受講内容等を入力、計画、評価することに意義があります。

会員の研修・学習の流れ (H24/4月～)



注意!!

一度認定されても基準を満たさなければレベルが下がるシステムとなっています!

CL取得後2年間で12本以上ポートフォリオの提出 (学習履歴の入力) が無ければ自動的にCLレベルは後退する仕組み (レベルダウン) なので、年間6本以上の学習履歴の入力が必須となります。CL5からは取得後3年間で18本以上ポートフォリオ提出。

※ クリニカルラダー (CL) : CLレベルは1～10段階有り (CL1～CL10)

生涯学習での自身の到達度を確認する為の段階制の制度で、CL1～CL4迄は1段上がる為、1年間にポートフォリオ6本以上報告 (学習履歴の入力) と年度末に行われる「Web確認テスト」に合格することが条件となる。CL4→CL5への認定のみ日薬による審査も行われる。

CLレベル1→国家試験合格者
CLレベル5→管理薬剤師に相当

日薬認定のCLレベル5 (CL5) がベースとなる。CL5では他職種との連携や情報共有、疼痛緩和やターミナルケア、無菌製剤、禁煙指導、学校薬剤師活動や訪問薬剤管理指導業務など、ジェネラリストとして幅広い到達目標が盛り込まれている。まずはCL5を目指し、CL6以降はジェネラリストを土台に、専門領域を目指す学習とする方針。(関係団体と検討中)

告知ポスター

「薬と健康の週間」広報ポスター

薬と健康の週間 **10/17(木)・23(水)**

くすりと健康フェア《心身ともに健康》

県民公開講演会

平成25年 **10月17日(木)**
パレット市民劇場
午後6時30分～8時 那覇市久茂地1-1-1 (パレットくもじ9F)

入場無料
手話通訳
あります。

※ご来場の際は、バス、タクシー、モノレール等をご利用下さい。
※会場の都合により、定員を超えた場合はご入場をお断りすることがありますので、あらかじめご了承ください。



演題

作家の飲んだ薬

夏目漱石と司馬遼太郎を中心として

国民作家と称せられる文学者は、夏目漱石、吉川英治、司馬遼太郎の3氏である。その中の漱石と司馬をとりあげ、薬を切り口としてその実像に迫る。即ち、作品の中に登場する薬及び作者の実生活における薬の使用は、どうだったのかについての考察である。漱石は作品の中で薬をどういう風に登場させているか、司馬はどんな薬を飲んでいたら、のお話である。

講師

後藤 直良 (ごとう なおよし)

一橋大学卒。山之内製薬(現アステラス製薬)38年間勤務。定年退職後東京薬科大学・東京医薬専門学校にて、「薬業経済論」の非常勤講師を10年間務める。現在、永井記念薬学国際交流財団評議員。「作家と薬」についての研究小論を「薬事日報」に半期に一度寄稿中。著書「薬の経済学」「作家と薬」など4冊。いずれも、薬事日報社刊。

お薬と健康相談会

日時 平成25年10月17日(木) 午後4時30分～6時30分

場所 パレット市民劇場ロビー

講演会前に薬剤師がお薬と健康の相談を致します。

病院薬、ジェネリック医薬品、大衆薬、漢方薬、健康食品、禁煙、メタボリックシンドローム、薬物乱用など

主催：薬剤師会

相談無料

お気軽に
ご相談ください

お薬手帳

お薬手帳は
どの薬局でも
もらえます。



5つのいいこと

- ① 医療機関にかかる時は必ず持っていきましょう
- ② 言いたい事や伝えたい事を書いておきましょう
- ③ 一般用医薬品(OTC医薬品・大衆薬)・健康食品も記録して
- ④ いつも携帯・いつも同じ場所に保管して
- ⑤ 一冊にまとめましょう

主催：沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会

お問い合わせ：沖縄県福祉保健部薬務疾病対策課 ☎098-866-2215 / 那覇市健康部生活衛生課 ☎098-853-7963 / 沖縄県薬剤師会事務局 ☎098-963-8930

薬と健康の週間 **10/17～23**
くすりと健康フェア
《心身ともに健康》

平成25年 **10月17日** (木) 午後6時30分～8時
パレット市民劇場
那覇市久茂地1-1-1
(パレットくもじ9F)

※本券は入場券ではなく、広告用チラシです。当日は、自由席になります。
※会場の際は、バス、タクシー、モノレール等をご利用下さい。
※会場の都合により、定員を超えた場合はご入場をお断りすることがあります。

県民公開講演会

入場 無料
手話通訳
あります。

作家の飲んだ薬 夏目漱石と司馬遼太郎を中心として
国民作家と称せられる文学者夏目漱石、司馬遼太郎をとりあげ、薬を切り口としてその実像に迫る。作品の中に登場する薬及び作者の美生活における薬の使用は、どうだったのか、漱石は作品の中で薬をどういう風に登場させているか、司馬はどんな薬を飲んでいたか、のお話である。

後藤 直良 (ごとう なおよし)
一橋大学卒。山之内製薬(現アステラス製薬) 38年間勤務。定年退職後東京薬科大学・東京医薬専門学校にて、「薬業経済論」の非常勤講師を10年間務める。現在、永井記念薬学国際交流財団評議員。

お薬と健康相談会

日時 平成25年10月17日(木) 午後4時30分～6時30分
場所 **パレット市民劇場ロビー**

講演会前に薬剤師がお薬と健康の相談を致します。
病院薬、ジェネリック医薬品、大衆薬、漢方薬、健康食品、禁煙、メタボリックシンドローム、薬物乱用など

相談無料
お気軽に
ご相談ください

主催：薬剤師会

主催：沖縄県・那覇市・沖縄県薬剤師会

お問い合わせ：沖縄県福祉保健部薬務疾病対策課 ☎098-866-2215
那覇市健康部生活衛生課 ☎098-853-7963
沖縄県薬剤師会事務局 ☎098-963-8930

平成25年10月13日(日) 琉球新報・沖縄タイムス

PR

知ってほしい、薬と薬剤師の仕事

第4回：薬局は地域の健康づくり拠点

お年寄りや子ども、病弱者など、薬を服用したことがない方はおそれるかもしれませんが、薬局は、病院や薬局で処方された薬の手に届き、薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができる場所です。

薬局は、医師の処方箋に基づいて薬を調剤し、患者に提供します。また、薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができる場所です。

薬局は、医師の処方箋に基づいて薬を調剤し、患者に提供します。また、薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができる場所です。

薬局は、医師の処方箋に基づいて薬を調剤し、患者に提供します。また、薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができる場所です。

薬局は、医師の処方箋に基づいて薬を調剤し、患者に提供します。また、薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができる場所です。

薬局は、医師の処方箋に基づいて薬を調剤し、患者に提供します。また、薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができる場所です。

薬局は、医師の処方箋に基づいて薬を調剤し、患者に提供します。また、薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができる場所です。

薬局は、医師の処方箋に基づいて薬を調剤し、患者に提供します。また、薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができる場所です。

PR

知ってほしい、薬と薬剤師の仕事

第3回：安価な医療費で良質な医療を

最近新聞などで、医療費の増大が問題になっていることがよくあります。医療費が増大しているのは、医療技術の進歩や医療費の増大が問題になっていることがよくあります。

医療費が増大しているのは、医療技術の進歩や医療費の増大が問題になっていることがよくあります。

医療費が増大しているのは、医療技術の進歩や医療費の増大が問題になっていることがよくあります。

医療費が増大しているのは、医療技術の進歩や医療費の増大が問題になっていることがよくあります。

医療費が増大しているのは、医療技術の進歩や医療費の増大が問題になっていることがよくあります。

医療費が増大しているのは、医療技術の進歩や医療費の増大が問題になっていることがよくあります。

医療費が増大しているのは、医療技術の進歩や医療費の増大が問題になっていることがよくあります。

医療費が増大しているのは、医療技術の進歩や医療費の増大が問題になっていることがよくあります。

PR

知ってほしい、薬と薬剤師の仕事

第2回：「お薬手帳」をもっと活用しよう

お薬手帳は、お医者さんにかかった薬の履歴を記録する大切なツールです。お薬手帳を活用することで、お医者さんや薬剤師が、お薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

お薬手帳は、お医者さんにかかった薬の履歴を記録する大切なツールです。お薬手帳を活用することで、お医者さんや薬剤師が、お薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

お薬手帳は、お医者さんにかかった薬の履歴を記録する大切なツールです。お薬手帳を活用することで、お医者さんや薬剤師が、お薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

お薬手帳は、お医者さんにかかった薬の履歴を記録する大切なツールです。お薬手帳を活用することで、お医者さんや薬剤師が、お薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

お薬手帳は、お医者さんにかかった薬の履歴を記録する大切なツールです。お薬手帳を活用することで、お医者さんや薬剤師が、お薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

お薬手帳は、お医者さんにかかった薬の履歴を記録する大切なツールです。お薬手帳を活用することで、お医者さんや薬剤師が、お薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

お薬手帳は、お医者さんにかかった薬の履歴を記録する大切なツールです。お薬手帳を活用することで、お医者さんや薬剤師が、お薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

お薬手帳は、お医者さんにかかった薬の履歴を記録する大切なツールです。お薬手帳を活用することで、お医者さんや薬剤師が、お薬の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

PR

知ってほしい、薬と薬剤師の仕事

第1回：薬剤師の「疑義照会」

毎年10月1日は「薬と薬剤師の日」です。この日は、私たちが生活するために欠かせない「薬」の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

毎年10月1日は「薬と薬剤師の日」です。この日は、私たちが生活するために欠かせない「薬」の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

毎年10月1日は「薬と薬剤師の日」です。この日は、私たちが生活するために欠かせない「薬」の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

毎年10月1日は「薬と薬剤師の日」です。この日は、私たちが生活するために欠かせない「薬」の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

毎年10月1日は「薬と薬剤師の日」です。この日は、私たちが生活するために欠かせない「薬」の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

毎年10月1日は「薬と薬剤師の日」です。この日は、私たちが生活するために欠かせない「薬」の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

毎年10月1日は「薬と薬剤師の日」です。この日は、私たちが生活するために欠かせない「薬」の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。

毎年10月1日は「薬と薬剤師の日」です。この日は、私たちが生活するために欠かせない「薬」の正しい使い方や薬の安全な使用法を学ぶことができます。



平成25年11月7日(木)

平成25年10月31日(木)

平成25年10月24日(木)

平成25年10月17日(木)

転載記事

平成25年10月11日(金) 琉球新報

2013年10月11日

団塊の世代が70代後半となる2025年には、国民医療費は56兆円(12年度は38兆4千億円)にもなるといわれ、国は年々増大し続ける巨額の負担に耐えられなくなっている。

そこで、できるだけ病気になるように、国民自身が自分の健康保持に気を配ること、そして、

病院でなくてもできる医療は家庭や地域で行うことによって、医療費を節約することが求められている。

この状況の中、来年度の薬局・薬剤師関係予算を見てみると、新規項目として「薬局・薬剤師を活用した健康情報



亀谷 浩昌

論壇

拠点推進事業」がある。

薬局を「地域に密着した総合的な健康情報拠点」と位置付け、市民がここに来れば関連知識を持った薬剤師から①DOTS(ドツツ)事業がある。また、自殺を考えている人、禁煙、心の健康、介護ケア、サプリメント、健康人が睡眠薬などの精神作用薬

健康保持に寄与してきた。最近では保健所と協力して、結核患者の服薬を確実にするた

ちぐはぐな国の薬事政策

薬局を地域の健康拠点に

食品についての情報②一般用医薬品の適正使用に関する情報③在宅医療に関する情報―を入手でき、健康支援に役立てることができるという取り組みである。

薬局は最も国民に近い医療関連施設として、地域住民の

食品についての情報②一般用医薬品の適正使用に関する情報③在宅医療に関する情報―を入手でき、健康支援に役立てることができるという取り組みである。

薬局は最も国民に近い医療関連施設として、地域住民の

たす役割を薬局に求めながら、片方で一般薬のインターネット販売を進めて、地域の薬局を経営難に追い込み、小さな薬局が次々と廃業する事態となっている。地域に密着した総合的な健康情報拠点と期待されても、一定の利益があつてこそ、その役割も担える。

アベノミクスでは経済活性化策の規制緩和の一つとして薬のネット販売を進めているが、これは中小薬局・薬店の利益がネット業者に移るだけで、経済活性化でも何でもない。まさか、国民に薬をどん

中小の薬局を維持する政策なくして、地域に密着した総合的な健康情報拠点などできないことは当然予想される。チェーン展開している郊外型大規模薬局に、この役割が務まるだろうか。

ましてや、薬の使用は自己責任でと言っているインターネット販売業者に務まるとは思いえない。

(那覇市、薬剤師、64歳)

私たちは何かにつけ薬を使用している。葉が、割と自由に手に入る現代、薬を使用する機会が多ければ多いほど「薬の安全性と有効性」が気になるものである。

薬の特殊性がそうさせるのであるが、使用法によつては思わぬ落とし穴がある。必要であらう時に、例えば薬と食品との関係、薬と薬の飲み合わせの関係等について、薬の専門家の説明を聞かなかつたり、薬の使用上の注意を書いたり、「添付文書」を読まなかつたりして、自分勝手の解釈や思い違いでの方法で使つた場



金城 栄一

論壇

薬の安全性と有効性

正しく使って健康を維持

受けるのか一般的である。一方、現在の健康状態を維持し、病気になるない取り組みをしたり、あるいは病院に行くほどではない状態の、いわゆる半健康状態の時に自己治療を選択したりする考えもある。自分で手当てる」と。それはすなわち自分の体は自分で守る、自己の責任において健康の維持、回復、病気の予防、そして病気やけがの初期治療を行うということである。そういう人たちのために、

合、副作用が発生しやすく健康を害することがあるので、気を付けていただきたい。

食事、運動、睡眠は健康な体づくりに大切な要素である。健康状態が崩れ病気になることから、病院で医師の診察を持った後、軽度な身体の不調は

それを私たちはセルフメディケーションといっているが、世界保健機関（WHO）では次のように定義している。セルフメディケーションとは「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は

私たち薬局では一般用医薬品（OTC薬）を置いている。OTCとは、英語の「Over The Counter」の略語で、ちょうどカウンターを挟んで買い手（購入者）と売り手（薬の専門家である薬剤師や登録販売者）が対面販売しているイメージである。

このOTC薬は第1類医薬品（要薬剤師薬）、第2類、第3類医薬品（薬剤師、登録販売者薬）に分けられている。これは薬の「安全性と有効性」を確保し、OTC薬を使ってセルフメディケーションを支援する体制である。

私たち薬剤師は、望診、問診の中で次の点に注意をしている。①OTC薬の使用が適切なか、この症状は医師による診断・治療が必要ではないか（受診勧告）を判断する②使用者の体質、アレルギーの有無、生活習慣上の問題等をチェックし、乱用を含め問題がある場合は薬を販売しない③通院治療中の人は病院・診療所から処方された薬とOTC薬との飲み合わせをチェックする。

OTC薬は処方薬に比べてより身近な存在だが、安全性と有効性の確保は正しい使用法があつてこそのものである。

（糸満市、薬剤師、68歳）

転載記事

平成25年10月20日(日) 沖縄タイムス

論壇



玉城 武範

健康維持の場
薬局活用して

環境は、私たちが日頃から継続的に健康に向かい合う場所として、はとも都合が良いものではないでしょうか。

私は個人の健康に関する知識とそれを実践する能力を向上できるよう、継続的に学んでいく場の必要性を強く感じています。誰しも人は健康であり続けたいと願うものですが、私たちは大なり小なり健康と不健康な

私たちの生活地域に散在する薬局は、実はコンビニエンスストアの店舗数より多いことを皆さんはご存じでしょうか。その薬局には健康にかかわる専門家として薬剤師が必ずいて、健康に関する情報と品物も取り扱っています。

この、アクセスが良く、健康にかかわる専門家がいて、健康に関する情報および物品がある

な健康維持につながり、世代間で相乗的に威力を発揮するからです。つまり世代を超えて親子、孫、友人などへと、湧き出るように元気が波及するので

今後の社会保障制度では、高齢者一人をほぼ一人の現役世代が支える「肩車」型の社会になるといわれています。しかしながら、高齢者でも現役世代でも

状態を繰り返して毎日を通しています。だからこそ健康な状態を維持する行動の基準が必要であり、日頃からの継続的な健康志向を学ぶ環境が大事だと思います。

個人が継続して健康を維持する知識を学び、実践を積み重ねることは、きつと周りの人々に対しても良い影響を与え続けるでしょう。個人の努力が集団的

健康・不健康の波は程度の違いこそあれやって来ます。このような時代だからこそ、皆がドミノ倒しのように疲弊してはいけな

アクセスが良く、健康にかかわる専門家がいて、健康に関する情報および物品がある環境は、もう既に私たちの地域にあります。毎日の食事や運動、疾病の治療や予防のための正しい知識、お薬との関わり、出産・子育てから介護・みとりまで、とても身近な事で幅広く対応していると思いま

日頃から健康に向かい合える絶好の場所である「かかりつけ薬局」を持って、「かかりつけ薬剤師」にご相談ください。直接お会いしてお話を伺います。「かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師」を一層活用し、そして、元気が湧き出る世代を積み上げていきましょう。

(薬剤師、沖縄市、36歳)

季節風

○…「薬と健康の週間」が17日、始まった。那覇市のパレット市民劇場では薬剤師による相談会があり、健康状態を測定した上で自分に合う処方などを多くの人が尋ねていた＝写真。

○…県内では23日までの期間中、宮古・八重山を含む県内各地でジェネリック医薬品（後発薬）の紹介や麻薬・覚せい剤の防止の街頭キャンペーンのほか、講演会



などが行われる。

○…相談会で、胃の炎症とストレスを抑える薬を替えたほうがいいのかを尋ねた那覇市の女性(71)は「副作用があるか心配だったが、大丈夫だと分かって安心した」と話していた。

平成25年10月18日(金) 沖縄タイムス

転載記事

平成25年10月17日(木) 琉球新報

くすりと健康フェア
きょう公開講演会
那覇で、後藤さん講師

「薬と健康の週間(17~23日)」にちなんで「くすりと健康フェア県民公開講演会」(県、那覇市、県薬剤師会主催)が17日午後6時半、那覇市のパレット市民劇場で開かれる。永井記念薬学国際交流財団評議員の後藤直良さんが「作家が飲んだ薬」



と題して、夏目漱石や司馬遼太郎ら作家が服用した薬や小説に登場する薬について講演する。入場無料。

講演前の午後4時半から午後6時半まで、劇場ロビーで薬剤師による無料の「お薬と健康相談会」も開かれる。県薬剤師会の田場英治専務理事＝写真右＝と前濱朋子常務理事が9日、琉球新報社を訪れ「漢方薬、ジェネリック医薬品に詳しい薬剤師もいるので、気軽に相談してほしい」と来場を呼び掛けた。問い合わせは県薬剤師会 ☎098(963)8930。

平成25年10月10日(木)

沖縄タイムス

話題

「大作家の薬裏話」語る

県薬剤師会 17日講演会

17~23日の「薬と健康の週間」に合わせ、県薬剤師会などは17日午後6時半から、「県民公開講演会」を那覇市久茂地のパレット市民劇場で開く。元山之内製薬勤務の後藤直良さん(81)が「作家の飲んだ薬 夏目漱石と司馬遼太郎を中心として」と題し講演する。入場無料。手話通訳あり。2人が実際にどんな薬を飲み、小説にどう薬を登場させたかを考察し、著名作家の実像に迫る。



開演前の午後4時半から、同劇場で薬剤師による無料の健康相談会もある。体成分測定器と動脈硬化度測定器を設け、結果を踏まえて服薬の相談に応じる。県薬剤師会の田場英治専務理事＝写真中央＝は「病気や健康について、病院に行く前に気軽に相談できる窓口としての薬局を目指したい」と話した。

問い合わせは県薬剤師会事務局、電話098(963)8930。

去る11月18日(日)
開催の第24回中部トリムマラソンに参加した当会会員の福地健治先生が紹介されていました。(右)

他分野でも活躍中！
当会会員の高江洲はつよ先生

お知らせ

▽起業家支援でイベント 県内の起業家を応援するイベント「第8回薬しんじやってくる祭」が10日、浦添市産業振興センター・結の街で開かれる。午前10~午後5時、入場無料。

薬剤師でリンパセラピストの高江洲はつよさん＝写真＝が企画・運営。リンパやネイル、ハンドメイドなど多彩なジャンルの30店舗が出店する。高江洲さんは自身の起業体験を踏まえ「起業前にファンができれば、認知してもらうまでの助走期間を短縮できる」と来場を呼び掛けている。問い合わせは高江洲さん、電話080(3992)3693まで。



平成25年11月7日(木)

沖縄タイムス



ピタリ賞のメダルを手に喜ぶ福地健治さん(左)と息子の義也君(17日、県総合運動公園)

福地さん唯一のピタリ

申告タイムと誤差なしの「ピタリ賞」となったのは、20キロコースに出場した福地健治さん(46)＝うるま市＝ただ一人だ。申告タイムは2時間20分00秒。福地さんは「00秒でピタリとは、びっくり」と目を丸くする。息子の義也君(10)も3キロコースを15分32秒で完走した。3キロ親子、5キロ、10キロの1位は誤差1秒。10キロで1位となった与儀善一さん(57)＝西原町＝は「今回は体調も考えタイムを少し」と笑顔だった。

し遅らせたのが良かった」と語った。3個人コース1位は、與古田英裕君(11)＝高原小6年。自身の誕生日「17」にかけて15分17秒と申告し、誤差2秒で1位に。結果を見てびっくりした。昨日まで修学旅行で少し疲れていたけれど、完走できてうれ

平成25年11月18日(月)

琉球新報

平成25年度 第6回定例理事会 議事概要

日時：平成25年8月10日(土) 午後7時～9時30分

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副 会 長：松山朝雄、吉田洋史

理 事：田場英治、江夏京子、山里 勇、亀谷浩昌、宮城敦子、前濱朋子、姫野耕一

下地 仁、川上善久、我喜屋美香、笠原大吾、玉城 純、石川恵市、村田美智子

欠 席：新垣秀幸、幸地良信、外間惟夫

事 務 局：山城英人、宮城麻希

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等(7月分)及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>

(2) 第45回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州・福岡 <資料配布>

7月14・15日(日・月) 福岡大学薬学部

我喜屋理事より、毎年九州地区では3～4個所で開催されており、沖縄県は福岡が交通の便がよいということで、一昨年から福岡での開催に参加している。今回は7月14・15日に開催され、平良奈緒子氏、中尾滋久氏、橋本裕行氏、山城巨佳氏、そして宮古地区から来年度薬学実習生を初めて受け入れるということで、古謝真己氏の5名の先生が参加した。また実務実習指導薬剤師がいない地区もまだあるので、早急に穴埋めしたいと報告があった。

(3) 学薬役員会 7月15日(月) 県薬 <資料配布>

前濱常務理事より、学薬役員会にて各研修会の報告があった。

(4) グッジョブサマ〜スクール準備会議 7月17・26日(水・金) 県薬

宮城理事より、7月28日に天久小学校でグッジョブサマースクールに参加し、30名の小学生が参加し、全員が白衣を着て、薬剤師になったつもりで楽しく受講していたと報告された。

(5) 個別指導 7月18日・8月1・8日(木) 自治会館・県庁

(6) 沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会 <資料配布>

7月18日(木) 沖縄県後期高齢者医療広域連合

江夏常務理事より、沖縄県後期高齢者医療広域連合が開催された。後期高齢者の医療費の伸び率が沖縄県では5%を想定していたが、3.2%であった。また、沖縄県一人当たりの医療費は1,003,000円で調剤料も6.6ポイント減少していた。これはジェネリックの使用率が56%と沖縄県は高く、それも要因の一つであると報告された。

(7) 平成25年度第1回沖縄県自然環境保全審議会自然公園・温泉部会及び現地調査

<資料配布>

7月19日(金) 部会(県庁会議室・金武町役場会議室) 現場確認(那覇・南城・金武)

宮城常務理事より、温泉部会にて7月19日に那覇市奥武山町、南城市大里、金武町宇金武、7月23日に宮古島市城辺に現地調査に行ったことが報告された。

(8) 新任・新人薬剤師研修会 7月21日(日) 県薬 <資料配布>

亀谷常務理事より、例年の研修内容に新しくフィジカルアセスメントを取り入れたところ、

多くの人が集まり好評だった。講師が情熱的で向上心を持ち続けることの大事さが会員に伝わったのではないかと報告された。

(9) 実務実習生交流会

7月21日（日）県薬

我喜屋理事より、病薬主催で病薬実習生、県薬実習生、県薬青年部等40名の参加があり、実習生同士が大学の枠を越えて交流をしていい雰囲気であったと報告された。

(10) 平成25年度第2回沖縄県自然環境保全審議会自然公園・温泉部会及び現地調査

7月23日（火）部会（宮古合同庁舎3階会議室）現地調査（宮古島市城辺）＜資料配布＞

(11) 会計監査

7月23日（火）県薬

(12) 平成25年度第2回スポーツファーマシスト委員会 7月23日（火）県薬 ＜資料配布＞

笠原理事より、今回の委員会からD I担当理事の松山副会長が参加して以下のことが協議された。

当委員会の所属が、開局委員会から薬事情報センター運営委員会の小委員会への移動が理事会で認められたこと。当委員会に宮古・八重山地区からも加入してほしいという意見があったが、宮古、八重山地区にはスポーツファーマシストはいないことがわかったこと。電話による質問の回答者ホットラインメンバーに久高祐一、玉城有子、立岡博之、長瀬涼の4名が新しく加わったこと。また、質問に対して間違った回答をした場合の賠償問題について検討したこと。国体の前に選手にアンケートを実施し、アンケートの内容をメーリングリストにて検討し、作成すること等について報告された。

(13) 第2回九州山口各県薬代表者会議

7月24日（水）福岡県薬 ＜資料配布＞

神村会長より、九州山口大会の例年の参加者は3,000名ぐらいだが、今年の佐賀大会の現在の参加者は、1,500名と少ないため申込期間を延長する。来賓者については例年通りの人数、また服装は来賓の方に失礼にならないようにクールビズでスーツのノーネクタイにする。

日薬の最近の動向についてはインターネット問題、また調剤報酬の問題で分業バッシングについて関係所等が徹底的に調査をしているので、ただ薬を渡すのではなく、しっかり対応する必要があると報告された。

(14) 沖縄県新型インフルエンザ等対策有識者会議

7月25日（木）自治会館 ＜資料配布＞

8月8日（日）自治会館 ＜資料配布＞

田場専務理事より、資料配布のと通りのメンバーで意見が取り交わされ、沖縄県新型インフルエンザ等対策行動計画書が作成され、県のホームページで掲載される予定である。沖縄県は他県と比べてアジアの国々に近く、新型インフルエンザが最初に侵入する可能性が高いので、国の指示を待つのではなく、沖縄県独自の行動計画が必要である。行動計画書が出来次第、皆様に配布すると報告された。

(15) 在宅小委員会

7月25日（木）県薬 ＜資料配布＞

笠原理事より、日薬からの報告事項、沖縄県保健医療福祉事業団からの助成金について、そして在宅医療の出前講習会についての話し合いが行われたと報告された。

(16) 医療保険委員会

7月26日（金）県薬

吉田副会長より、8月11日に開催される調剤報酬請求業務講習会について話し合わせ、申込みが1,200名と多かったので、2部構成で開催することになったと報告された。

(17) グッジョブサマ〜ス〜

7月28日（日）天久小学校

(18) 管理者会議

7月30日（火）県薬

- (19) 健康づくり支援事業推進委員会 8月1日(木) 沖縄県総合福祉センター <資料配布>
- (20) なごみ会県民健康フェア新聞社訪問 8月1日(木) 琉球新報社・沖縄タイムス
神村会長より、なごみ会県民健康フェアに向けてのPR活動のため、医師会、歯科医師会、
薬剤師会、看護協会の代表で沖縄タイムス社、琉球新報社を訪問したと報告された。
- (21) 平成25年度 第1回南部地区健康おきなわ21推進連絡協議会議 <資料配布>
8月1日(木) 南部保健所
- (22) 開局委員会主催第7回スキルアップ研修会 8月1日(木) 県薬
- (23) 平成25年度 第2回沖縄県がん診療連携協議会 <資料配布>
8月2日(金) 琉球大学医学部
田場専務理事より、参加者も多く、患者会からいろいろな意見が出た。沖縄県がんサポ
ートハンドブックの作成について第1回目ときは患者会の意見も取り入れてもらったが、去
年は全く話がなかった。また配布についても患者にも届くような配慮が欲しい、薬剤師会では在宅医療に向けて会営薬局うえはらに安全キャビネットとクリーンベンチを設置し、会員
を研修させていく予定であると報告された。
- (24) 平成25年度 第2回青年部会研修会 8月2日(金) おもろ殿内
石川理事より、8月2日に熊本県薬の大森眞樹先生を迎えて「今後の薬剤師の在り方につ
いて」という演題で講演してもらい、大森眞樹先生のたつての希望で堅い講演会ではなく、
気軽に話ができる講演会にしたいということで、おもろ殿内で開催された。参加は、県薬・
病薬含め20程で、今後も病薬とも交友を深めていきたいとの報告された。
- (25) 一般用医薬品の薬局等における対面販売・相談対応等に関する講習会 <資料配布>
8月4日(日) 県薬
神村会長より、日薬の会報に「セルフメディケーション支援と一般用医薬品販売における
薬剤師の役割」という良い内容が掲載されていたので、日薬をとおして東京薬科大学の渡辺
謹三教授に講演を依頼した。講演内容はとてもわかりやすく、今後も交流を深め、新たに講
演会をお願いしたいとされた。
- (26) 第13回九州地区健康教育研究大会 8月5・6日(月・火) てだこホール <資料配布>
前濱常務理事より、平日開催のために薬剤師は県外からの参加者は12名と少なかったこ
とが報告された。また、学校薬剤師で養護教諭、学校給食センター等から講演を依頼されて
断る先生がいる、その場合断るのではなく、学校薬剤師部会に連絡してほしいと報告された。
- (27) 沖縄県公害審査会辞令交付式・第1回公害審査会 8月5日(月) 県庁 <資料配布>
我喜屋理事より、辞令交付式が行われ、その後、第1回の公害審査会が開催された。大気
汚染、水質検査、悪臭、地盤沈下等公害要素の解決を迅速にするということで、司法とは別
に専門家で審査する会となっている。医療関係は医師会、薬剤師会、看護協会から各1名、
弁護士会3名、大学側6名の計12名で構成されている。事案が発生した場合に対応してい
くと報告された。
- (28) 九州厚生局沖縄事務所 所長 表敬訪問 8月6日(火) 県薬
神村会長より、所長村岡國雄氏、審査課長小成善一氏が薬剤師会に挨拶にみえたと報告さ
れた。
- (29) 平成25年度第2回広報委員会 8月6日(火) 県薬 <資料配布>
宮城常務理事より、石川恵市氏、伊敷松太郎氏、伊差川サヤカ氏の3名が今回から新委員
として参加した。平成25年7・8月号(265号)の巻頭言は、田場英治専務理事が執筆、

リレー随筆は比嘉菜々美（すこやか薬局）、平成25年9・10月号（266号）の巻頭言は、石川恵市理事、病院・施設訪問は、新築された宮古病院、青年部会が秋頃に見学を予定しているという情報があり、一緒に取材できたらと思っている。熟年の集いは9月1日に開催予定で、ものまね芸人の仲村哲也氏、その他多くの余興が予定されていると報告された。

- (30) **社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会** 8月7日（水）社会保険診療報酬支払基金
神村会長より、月1回第1水曜日に開催され、委員は11名で構成されているという報告があった。

- (31) **なごみ会県民健康フェア 実行委員会** 8月7日（水）沖縄県医師会

- (32) **ゆーりきやーとの打合せ（県民健康フェア）** 8月8日（木）県薬

- (33) **なごみ会県民健康フェア 実行委員会** 8月8日（木）県薬

笠原理事より、県民健康フェア関連で、8月7日になごみ会全体の会議が医師会で開催され、8月8日は、ゆーりきやーとの打合せと薬剤師会担当委員の打合せがありゆーりきやーとのコントに薬剤師役で上原幸代先生が共演することになった。また実際の薬剤師会ブースを県薬ホールに設置してリハーサルしたいと報告された。

- (34) **平成25年度沖縄県公務員薬剤師会退職者激励会・懇親会** <資料配布>
8月9日（金）洋食屋リリア

神村会長が参加したことが報告された。

- (35) **第75回九州山口薬学大会について（補助金・協議会）** <資料配布>

山里常務理事より、第79回九州山口薬学大会への参加者への補助金として、本来は20名に対して40万円の予算であるが、1名増えて42万円になる予定と報告された。

- (36) **薬剤師に対する行政処分について** <資料配布>

神村会長より、日薬からの通知で薬剤師が不在時に無資格者が調剤を行ったということで管理薬剤師が行政処分になった等の各内容について説明された。

- (37) **「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動に対する協力について** <資料配布>

当会より、毎年10,000円寄付しているが、各理事からが一人1,000円の寄附をお願いした。

- (38) **職員採用について** <資料配布>

吉田副会長より、事務局経理で1名の退職があり、資格が日商簿記二級以上でハローワークに募集をかけたところ、11名の応募があり、筆記試験と面接により、前原里江氏に決定したと報告された。

- (39) **平成25年度「がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用推進のための講習会について** <資料配布>

事務局より、全国持ち回りの講習会で、今年は沖縄県開催となっており、例年は保健福祉委員会より2名ほど講習会に派遣して伝達講習会を開催していると報告された。

- (40) **その他**

- ・石川理事より、青年部の事業計画の中で前回理事会にて承認された岩手県の岩淵先生の講演会の件で、岩淵先生の都合で10月12日しか日程がとれないということで、理事会の時間の変更をお願いされた。理事会開催時間を4時か5時で調整することとなった。

- ・ディオバンの件について

東京都では効かない薬を飲ましているということで薬を返したいという患者がいる。最初の報道はディオバンという薬品名をださないで高血圧の薬と報道。その関係で高血圧の

薬を飲んでいる患者が動揺している。結局は脳卒中や狭心症も減らされるかもしれないというデータの改ざんであった。

報告（薬連）

- | | | |
|-----------------------|----------|---------------|
| (1) 木村隆次氏来沖 | 7月13日（土） | |
| (2) きむらりゅうじ氏と語る会 | 7月13日（土） | 県薬 |
| (3) 厚生労働大臣 田村憲久氏との懇談会 | 7月15日（月） | ロワジールホテル那覇 |
| (4) 安里政晃 総決起大会 | 7月16日（火） | 沖縄コンベンションセンター |
| (5) 渡嘉敷奈緒美氏来沖 | 7月18日（木） | |
| (6) 安里政晃打ち上げ式 | 7月20日（土） | むつみ橋 |
| (7) 沖縄県薬剤師連盟総務会 | 7月29日（月） | 県薬 |
| (8) 参議院議員選挙結果について | | <資料配布> |
| (9) その他 | | |

神村会長よりまとめて報告された。去る参議院議員選挙の応援活動で参議院議員渡嘉敷奈緒美氏と共に県内の薬品問屋4社と近くの薬局を訪問した。結果は、木村隆次氏は落選、衛藤晟一氏が自民党で7位で当選した。

議題

- | | |
|--|--------|
| (1) 各種委員会委嘱について | <資料配布> |
| 推薦された委員会委員については承認された。 | |
| 神村会長より、地区枠以外でも、適任者がいれば推薦可能である。また北部地区の推薦枠については早急に選出するよう要請された。 | |
| (2) 委員会の統合について | <資料配布> |
| 財務委員会、収益事業部運営委員会、賃金委員会の目的等に関連性があり、委員も重なっていることから、まとめて財務・収益事業部運営委員会とすることです承された。 | |
| (3) 基準薬局運営協議会 担当理事について | <資料配布> |
| 吉田副会長を担当理事とすることが了承された。 | |
| (4) 沖縄県保健医療福祉事業団助成金について | <資料配布> |
| 笠原理事より、沖縄県保健医療福祉事業団からの300,000円の補助金を活用して在宅のチラシ25,000枚、ポスター600枚、在宅医療マニュアル500冊を作成する予定だが、見積もりが440,000円となり、140,000円オーバーするため県薬で補助ができるか確認された。 | |
| 川上理事より、見積もりが1社なので複数の見積もりをとり、予算内に収まるようにすべきではないかと意見があった。 | |
| 再度他社からも見積もりをとり再検討することとなった。 | |
| (5) 在宅医療の出前講習会について | <資料配布> |
| 笠原理事より、これまで、年1回県薬で約100名の参加者で講習会を実施してきたが、これでは周知徹底はできないので、日薬のアクションプランに基づいて、支部単位（15支部）で伝達講習を進めていきたいことが述べられた。 | |
| 神村会長より、積極的に取り組むようお願いされ、理事全員一致にて承認された。 | |

(6) 平成25年度第1回地区薬剤師会会長会議について

＜資料配布＞

地区薬剤師会会長会議を平成25年9月28日（土）に開催したいことが述べられ、出席者は、各地区薬剤師会長を含む2名程度ということで了承された。

(7) 沖縄県薬事功労者知事表彰・春の叙勲について

＜資料配布＞

県知事表彰については、南部地区の新垣秀幸氏が理事歴10年以上だが、年齢49歳で基準の50歳に足りないため、来年推薦することとし、事務局より各地区へ地区役員歴を確認したところ、南部地区の高良武和先生が該当の可能性があるため、早急に調べることとなっている。

春の叙勲について、該当者なしとなった。

(8) 沖縄県薬剤師会謝金支払規程について

＜資料配布＞

事務局より、8月11日の調剤報酬請求業務講習会で2部構成実施するにあたり、講師謝金支払規程に2部構成に対して対応されていない旨の説明があり、沖縄県薬剤師会謝金支払規程の備考欄に以下の文の追加依頼があり承認された。

（備考）

上記1の謝金支払額（車賃込み）は、標記額を限度とする。また60分未満の講演等・座長の算定に当たっては、60分の支払額を分割して適応する。その際、100円未満の端数が生じた時はこれを切り上げる。

但し、事情により1日で同じ研修会等を複数回に亘り開催する場合は、1回分に支払う額の半額を回数分加算する。

謝金の決定については、その都度理事会にて承認を要する。

(9) 理事会 月2回開催について

神村会長より、最近の理事会は、報告事項、議題も増えて3時間以上を要することもあるため、月2回開催にしようかという提案があり、参考で県医師会は毎週、県歯科医師は月に2回理事会を開催していると述べられた。

毎回2回ではなく、幹事会において重要な報告事項が多く、審議に時間を要すると認めた場合に、2回に分けて招集をかけるということで承認された。

(10) 9月理事会開催日（案：第1土曜日＝9月7日）について

（9月第2土曜日→九山大会、第3土曜日→日薬会長会議、日薬大会前日）

9月の理事会は、定例の第2土曜日が各行事と重なっているため、第1土曜日の9月7日に変更して開催することが決定した。

(11) その他

村田理事より年2回の女性薬剤師漢方講座に会員及び非会員問わず参加を認めているが今後どうすればよいかの質問があった。

神村会長より、非会員でも受講できる講習会があると、会員に入会する必要があると思われるため、受付で積極的に入会するように勧めるよう指示された。

川上理事より、病院薬剤師で会員になっている人が少ないので病院薬剤師会と連携して会費を下げてでも県薬に入会するようにしたほうがよいのではないか、また若い人にも入会できるようにしきみを考えないといけないと述べられた。

亀谷常務理事より、前にも話したが、そういうことを話し合う場がないので、委員会等を作って検討する必要があると述べられた。

年間目次

おきなわ薬剤師会報 平成25年もくじ

通巻262号～267号

No.(号) 発行月号 頁

表紙掲載会員作品

写真「早朝の桜並木（八重岳）」	松山朝雄	262	1・2	表紙
写真「飛翔」	新井直久	263	3・4	表紙
写真「シーズン到来」	吉富弓江	264	5・6	表紙
写真「夜と昼の境目」	比嘉良喬	265	7・8	表紙
写真「マチュ・ピチュ」	宮城信雄	266	9・10	表紙
油彩「海の道」	藤本勝喜	267	11・12	表紙

年頭挨拶

新年のあいさつ	神村武之	262	1・2	2
新年ご挨拶	児玉 孝	262	1・2	4
新年のあいさつ	崎山八郎	262	1・2	6
年頭にあって	藤井もとゆき	262	1・2	7
新年のご挨拶	松本 純	262	1・2	8
年頭の挨拶	島尻安伊子	262	1・2	10
新年のご挨拶	渡嘉敷奈緒美	262	1・2	11
年頭ご挨拶	國場幸之助	262	1・2	12
新年の決意	宮崎政久	262	1・2	13
御挨拶	比嘉奈津美	262	1・2	14
年頭のご挨拶	西銘恒三郎	262	1・2	15

表 彰

平成24年度沖縄県健康教育関係表彰				
石原英子先生、上原陽子先生、瑞慶山純子先生 おめでとうございます	263	3・4	49	
武田悦子先生が平成25年度那覇地区学校保健功労賞を受賞！	264	5・6	57	
渡嘉敷見先生・西登貴世先生・玉山善正先生が薬物乱用防止協会より感謝状を受賞	265	7・8	92	
九州山口薬学大会表彰受賞（被表彰者：山城志津先生）	266	9・10	3	
平成25年度沖縄県薬事功労者知事表彰（高良武和先生）	267	11・12	3	
第45回沖縄県公衆衛生大会長表彰（知名繁夫先生・宮里郁子先生）	267	11・12	4	
沖縄県薬物乱用対策推進本部長表彰（吉田久子先生）	267	11・12	5	
第8回日本禁煙科学会学術総会優秀演題賞受賞（笠原大吾先生）	267	11・12	5	

祝賀会

平成24年度薬事功労受賞者合同祝賀会開催	大城喜仁	262	1・2	18
受賞者プロフィール		262	1・2	20
合同祝賀会スナップ写真		262	1・2	24
会営薬局創立20周年記念祝賀会・忘年会報告	松堂恵美	262	1・2	26
医療法人愛和会創立20周年記念祝賀会に参加して	大城喜仁	262	1・2	28

巻頭言

薬剤師全体の資質の底上げのための教育・研修体制の確立	田場英治	265	7・8	1
今後の薬剤師の在り方や心構え	石川恵市	266	9・10	2
此の頃思う事	下地 仁	267	11・12	6

告 示

一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員補欠選挙について	野崎真敏	267	11・12	47
--------------------------	------	-----	-------	----

寄 付

沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式報告	大城喜仁	263	3・4	53
故 山城幸久先生（山城恵子・晶 両氏）より寄付がありました		267	11・12	2

会長あいさつ

一般社団法人への新たなスタートに	神村武之	263	3・4	2
------------------	------	-----	-----	---

総 会

第68回通常総会会長演述	神村武之	264	5・6	1
新理事・新監事・新相談役 紹介		264	5・6	2
第68回通常総会開催	大城喜仁	264	5・6	5
第68回通常総会懇親会	大城喜仁	264	5・6	9
第68回通常総会 議案審議及び質疑応答の概要	糸嶺 達	264	5・6	10
平成24年度会員・薬局等の業態現況報告		264	5・6	16
平成24年度事業経過報告ならびに平成25年度事業計画		264	5・6	17
平成24年度決算ならびに平成25年度予算		264	5・6	35
第68回通常総会におけるその他の議案事項		264	5・6	43

沖縄学術大会

第27回沖縄県薬剤師会学術大会報告	外間惟夫	267	11・12	8
第27回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム		267	11・12	10
第27回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会報告	大城喜仁	267	11・12	16
第27回沖縄県薬剤師会学術大会特別講演講師 菅野彊先生をお迎えして				
	吉田洋史	267	11・12	18
第27回沖縄県薬剤師会学術大会会員発表審査報告	亀谷浩昌・宮城敦子	267	11・12	19
第27回沖縄県薬剤師会学術大会奨励賞受賞発表要旨		267	11・12	20

薬と健康の週間

くすりと健康フェア（県民公開講演会）	池間記世	267	11・12	22
薬祖祭・街頭キャンペーン・平成25年度「薬と健康の週間」行事表		267	11・12	24

意見交換会

F A X コーナー担当者意見交換会報告	池間記世	263	3・4	8
F A X コーナー担当者意見交換会印象記	各 F A X コーナー担当者	263	3・4	11

会務ハイライト

第78回臨時時代議員会開催	吉田洋史	263	3・4	3
平成24年度第2回地区薬剤師会会長会議報告	糸嶺 達	263	3・4	6
平成25年度新任・新人薬剤師研修会報告	田場英治	265	7・8	2
平成25年度新任・新人薬剤師研修会集合研修評価表回答結果		265	7・8	4
平成25年度「調剤報酬請求業務」および 「個別指導・共同指導における指摘事項」講習会報告	照屋林一郎	266	9・10	4
なごみ会主催第3回県民健康フェア2013開催	笠原大吾	266	9・10	6
第3回県民健康フェア2013に参加して	上原卓朗	266	9・10	9
平成25年度医薬分業対策会議報告	西川 裕	266	9・10	10
医薬分業対策会議用アンケート&アンケート結果報告(病院・薬局向け)		266	9・10	13
第6回熟年の集い開催	宮城敦子	266	9・10	18

実務実習

平成24年度第Ⅲ期薬学生実務実習報告	我喜屋美香	263	3・4	36
平成24年度薬学生実務実習第Ⅲ期生からの体験記・感想	神山侑子	263	3・4	36
平成25年度第Ⅰ期薬学生実務実習報告	我喜屋美香	265	7・8	7
平成25年度薬学生実務実習第Ⅰ期生からの体験記・感想		265	7・8	8
楠見僚平・松島亜紀・上原佳子・知花理子・仲村渠典華・平敷善彦 喜友名尚子・比屋根倫子・三田井菜菜子・宇根由紀乃・當眞彩				
平成25年度第Ⅱ期薬学生実務実習報告～4年目Ⅱ期が終了しました！～	我喜屋美香	267	11・12	26
平成25年度薬学生実務実習Ⅱ期生からの体験記・感想		267	11・12	27
金城直美・稲嶺盛佳・國吉沙也佳・山口義樹・上原あかね 喜屋武千早・仲里翔太・崎浜康豊・安谷屋源・儀保翔・上原美樹				

寄稿

沖縄県内の薬局・病院訪問を終えて	飯村康夫	263	3・4	25
健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告 (財)沖縄県老人クラブ連合会事務局		264	5・6	64
薬物乱用防止教室～アルコールの害～講演会報告	大城直美	266	9・10	40
薬物乱用防止月間を終えて	祖慶和美	267	11・12	42
健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告 (財)沖縄県老人クラブ連合会事務局		267	11・12	78

投稿

認知症ケアについて考えてみませんか？～沖縄県認知症ネットワーク研究会について～	潮平英郎	262	1・2	38
“在宅医療推進のための多職種連携研修会”に参加して	笠原大吾	263	3・4	54
認知症ケアについて考えてみませんか？	潮平英郎	263	3・4	55
平成24年度食品の安全・安心意見交換会にコーディネーターとして参加して	笠原大吾	263	3・4	56
第36回小児糖尿病サマーキャンプ薬剤師ボランティア募集!!	外間 登	264	5・6	65

薬業連合会

平成25年第58回沖縄県薬業連合会理事会・総会及び懇親会報告	稲福文隆	265	7・8	22
--------------------------------	------	-----	-----	----

研修会

医薬分業対策委員会主催研修会（SGD）報告	知念正人	262	1・2	29
医薬分業対策委員会主催研修会（SGD）印象記	米倉美帆	262	1・2	31
2013公認スポーツファーマシスト認定実務講習会報告	林 伸嘉	262	1・2	32
AED取り扱い講習会に参加して	笠原大吾	262	1・2	34
第3回スキルアップ研修会報告	新垣秀幸	262	1・2	35
本島・宮古・八重山地区JPALS説明会紀行	亀谷浩昌	263	3・4	16
第3回在宅医療に関する講習会報告	山里美恵子	263	3・4	18
平成24年度医療安全講習会報告	吉富弓江	263	3・4	20
平成24年度薬剤師のための一般用医薬品研修会報告	松本圭五	263	3・4	26
第4回スキルアップ研修会の開催について	新川重一	263	3・4	30
平成24年度ゲートキーパー養成研修会報告	草壁瑞恵	263	3・4	31
第127回禁煙アドバイザー育成講習会 in Okinawa 報告	伊敷松太郎	263	3・4	34
第5回スキルアップ研修会報告	喜久山有紗	264	5・6	50
第6回スキルアップ研修会報告	島袋さゆり	265	7・8	20
第7回スキルアップ研修会報告	松本圭五	266	9・10	21
一般用医薬品の薬局等における対面販売・相談対応等に関する講習会報告	新垣秀幸	267	11・12	32
第8回スキルアップ研修会報告	喜久山有沙	267	11・12	34

委員会だより

沖縄県医師会のマスコミとの懇談会&RBCラジオに出演	宮城敦子	263	3・4	52
臓器移植と薬剤師	笠原大吾	266	9・10	28

啓蒙・普及活動

Uターン・Iターン希望薬学部生との相談会報告	川満直紀	262	1・2	40
薬剤師職能の啓蒙活動	大城喜仁	262	1・2	41
平成24年度ドーピング防止教育・啓発研修会に参加して	笠原大吾	262	1・2	42
薬剤師職能の啓蒙活動について	大城喜仁	265	7・8	9
「しごとミュージアム」「グッジョブ・サマースクール」「テレビ・コマーシャル」				
しごとミュージアム参加報告	三田井菜菜子・楠見僚平	265	7・8	16
テレビ・コマーシャル放送内容		265	7・8	17
広報委員長のうらかた日記	宮城敦子	265	7・8	18
「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 6.26ヤング街頭キャンペーン		265	7・8	19

会議レポート

平成25年度医薬分業対策担当者全国会議報告	川上善久	265	7・8	44
平成25年度沖縄県禁煙協議会総会に参加して	山里美恵子	266	9・10	36

研修レポート

第45回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州・福岡に参加して				
橋本裕行・平良奈緒子・中尾滋久・山城巨佳	266	9・10	31	
「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会（第1回）」				
および「一般用医薬品担当者全国会議」報告	新垣秀幸	267	11・12	41

部会だより

学校薬剤師について、知っていますか？～薬物乱用防止教室～	笠原大吾	262	1・2	36
平成24年度診療ガイドライン薬剤コース・スクーリング報告				
前濱朋子・沖山尚美・戸田澄之・石原留美子	263	3・4	37	
女性薬剤師部会主催第12回漢方講座報告	真地千明・宮城幸枝	263	3・4	42
平成24年度日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム参加報告	島袋さゆり	263	3・4	44
平成24年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会に参加して	鈴鹿玲子	263	3・4	46
学校薬剤師について知っていますか？「薬の正しい使い方」	前濱朋子	263	3・4	48
学校薬剤師部会研修会報告	前濱朋子	263	3・4	50
平成25年度新任学校薬剤師研修会報告	鈴木毅・城村幹彦	264	5・6	52
平成25年学校環境衛生・安全管理講習会の報告	前濱朋子	264	5・6	55
学校薬剤師について、知っていますか？～水上運動会のある学校～	笠原大吾	264	5・6	56
青年部会 第8回通常総会報告	鈴木一徳	264	5・6	58
「騒音測定ならびに測定器の借用について」	前濱朋子	265	7・8	23
平成25年度（第41回）学校薬剤師部会総会・研修会報告	村田成夫	265	7・8	24
学校薬剤師について、知っていますか？～学薬活動20年間の変遷～	渡嘉敷見	265	7・8	25
第9回保険薬局部会総会報告	川上善久	265	7・8	26
保険薬局部会研修会報告	川上善久	265	7・8	27
女性薬剤師部会通常総会報告	長元恒子	265	7・8	28
女性薬剤師部会主催 第13回漢方講座報告	村田美智子・與儀明美・高尾勝子	265	7・8	30
漢方講座用 症例に関する質問票&問診票		265	7・8	33
日本女性薬剤師会学術講演会報告	狩俣イソ	265	7・8	35
平成25年度日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部会報告	森下彰久	265	7・8	36
第42回沖縄県病院薬剤師会通常総会報告	外間惟夫	265	7・8	37
第12回九州地区健康教育研究大会報告	前濱朋子	266	9・10	37
未来の学校薬剤師～学校薬剤師と実務実習生～	前濱朋子	266	9・10	38
青年部会主催 岩渕安史先生講演会報告	石川恵市	267	11・12	36
岩渕安史先生講演会うらかた日記	牧野唯右	267	11・12	37
大森眞樹先生との座談会	大城喜仁	267	11・12	37
平成25年度学校薬剤師部会支部長会・研修会報告	村上市子	267	11・12	38
平成25年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会参加報告	島袋さゆり	267	11・12	39

月例相談会

第107回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	堀場弘明	263	3・4	51
第108回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	眞榮城紀美子	265	7・8	52
第109回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	國吉直子	266	9・10	39
第110回健康とおくすり相談会報告（南部地区薬剤師会）	照屋秀子	267	11・12	44
第111回健康とおくすり相談会報告（中部地区薬剤師会）	渋谷貴子	267	11・12	45
第112回健康とおくすり相談会報告（宮古地区薬剤師会）	前里由紀子	267	11・12	76

その他会務報告

沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊	大城喜仁	265	7・8	42
沖縄戦殉職医療人之碑に参拝しておもう	笠原大吾	265	7・8	43

地区だより

新宮古病院開院！	前里由紀子	264	5・6	59
平成25年度宮古地区薬剤師会総会報告	前里由紀子	264	5・6	60
石垣市への医薬品卸会社の出店について	山城英人	264	5・6	62
八重山地区薬剤師会総会報告	山城 専	264	5・6	63
第11回北部地区薬剤師会定時総会報告	北部地区薬剤師会事務局	265	7・8	46
一般社団法人那覇地区薬剤師会総会	那覇地区薬剤師会事務局	265	7・8	48
南部地区薬剤師会総会報告	新垣秀幸	265	7・8	49
平成24年度中部地区薬剤師会総会報告	普久原隆	265	7・8	50
在宅医療ネットワーク作りについてのアンケート結果報告	亀谷浩昌	265	7・8	51
第22回糸満市健康福祉まつり参加報告	新垣秀幸	267	11・12	46

宮古地区特集

宮古地区特集にあたって	宮城敦子	267	11・12	63
宮古島移動理事会の後の懇親会	亀谷浩昌	267	11・12	64
はいさい！病院前薬局（宮古島市）	宮城敦子	267	11・12	66
盛島明隆先生～強面で頼りになる班長！～	池間記世	267	11・12	68
沖縄県立宮古病院	伊差川サヤカ	267	11・12	70
燃えろ！青年団 山崎今日太さん	鈴木一徳	267	11・12	73
「ストロング・メディスン」を読んで	方 智子	267	11・12	74
第112回健康とおくすり相談会報告（宮古地区薬剤師会）	前里由紀子	267	11・12	76
学校薬剤師って、知っていますか？～離島から都会の学校へ～	村田成夫	267	11・12	77
健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」報告（財）沖縄県老人クラブ連合会事務局		267	11・12	78

日薬学術大会

第46回日本薬剤師会学術大会参加報告	森下彰久	266	9・10	22
--------------------	------	-----	------	----

九山薬学大会

第75回九州山口薬学大会～くすりが紡ぐ「命の絆」「人の絆」～	川上雄一郎	266	9・10	24
--------------------------------	-------	-----	------	----

新入会員

平成24年度沖縄県薬剤師会新入会員（平成24年10月～平成25年3月末日入会分）	263	3・4	124
平成25年度沖縄県薬剤師会新入会員（平成25年4月～平成25年9月末日入会分）	266	9・10	42

試験検査センター

平成24年度試験検査センター運営委員会報告	武村博子	262	1・2	37
-----------------------	------	-----	-----	----

D I

薬事情報おきなわ No.220	薬事情報センター	262	1・2	43
薬事情報おきなわ No.221	薬事情報センター	263	3・4	57
薬事情報おきなわ No.222	薬事情報センター	264	5・6	67
薬事情報おきなわ No.223	薬事情報センター	265	7・8	53
薬事情報おきなわ No.224	薬事情報センター	266	9・10	43
薬事情報おきなわ No.225	薬事情報センター	267	11・12	49

薬学の歴史

第13回 「ペルシャのガレノス」、アヴィセンナ	262	1・2	50
第14回 薬学と医学の分業	262	1・2	51
第15回 最初の公式な薬局方	263	3・4	72
第16回 ロンドンの薬剤師協会	263	3・4	73
第17回 ニューフランス（現カナダ）の薬剤師、ルイ・エベール	264	5・6	82
第18回 病気を治療した統治者	264	5・6	83
第19回 薬剤師、マーシャル	265	7・8	64
第20回 アメリカ植民地時代の最初の病院	265	7・8	65
第21回 最も偉大な化学者薬剤師、シェーレ	266	9・10	56
第22回 アメリカの最初の薬剤師長、クレイギー	266	9・10	57
第23回 最初のアルカロイド化学者、ゼルチュナー	267	11・12	80
第24回 カヴァントゥー、ペルティエ、そしてキニーネ	267	11・12	81

薬草学

身近な薬草を知ろう 第6回 キクイモ（菊芋）	狩俣イソ	262	1・2	52
身近な薬草を知ろう 第7回 シークワサー	狩俣イソ	263	3・4	74
身近な薬草を知ろう 第8回 ゴーヤー	狩俣イソ	264	5・6	84
身近な薬草を知ろう 第9回 トウガン	狩俣イソ	265	7・8	66
身近な薬草を知ろう 第10回 パパイア	狩俣イソ	266	9・10	58
身近な薬草を知ろう 第11回 ウコン	狩俣イソ	267	11・12	82

Spot Light

伊敷幸太郎先生～あらまほしき姿の薬局を追い求めて！～	池間記世	264	5・6	86
盛島明隆先生～強面で頼りになる班長！～	池間記世	267	11・12	68

病診内薬局訪問

医療法人天仁会 天久台病院	亀谷浩昌	262	1・2	54
おきなわクリニカルシュミレーションセンター	伊差川サヤカ・砂川智子	266	9・10	60
沖縄県立宮古病院	伊差川サヤカ	267	11・12	70

薬局訪問

はいさい！ふく薬局 名護店	池間記世	263	3・4	76
はいさい！ルーナ薬局	鈴木一徳	264	5・6	88
はいさい！病院前薬局（宮古島市）	宮城敦子	267	11・12	66

卒煙物語

その39 気づかい	えんこ	262	1・2	58
その40 元喫煙者が「my wife」と自慢する日	えんこ	264	5・6	92
その41 未成年者喫煙禁止法と治療	えんこ	265	7・8	70
その42 愛煙家の方々へ	えんこ	266	9・10	67
その43 まごはやさしい	えんこ	267	11・12	79

リレー随筆

フットサル会	外間 登	262	1・2	56
私のドライブ	比嘉 仁	263	3・4	78
新年度を迎えて	照屋林一郎	264	5・6	90
私の沖縄ライフ	金城奈々美	265	7・8	68
第36回沖縄県小児糖尿病サマーキャンプに参加して	喜久山有沙	266	9・10	64
「ストロング・メディシン」を読んで	方 智子	267	11・12	74
学校薬剤師って、知っていますか？～離島から都会の学校へ～	村田成夫	267	11・12	77

青年部

燃えろ！青年団 鈴木 毅さん	伊差川サヤカ	265	7・8	69
燃えろ！青年団 伊敷松太郎さん	伊差川サヤカ	266	9・10	66
燃えろ！青年団 山崎今日太さん	鈴木一徳	267	11・12	73

訃報・弔文

故 上原克美 様	川上雄一朗	262	1・2	59
ご逝去 友利賀代先生		262	1・2	102
吉川敏男先生、新垣善彦先生がご逝去		263	3・4	81
吉川敏男先生を悼む	山城志津	263	3・4	81
山城幸久先生を悼む	城間盛光	264	5・6	81
山城幸久先生（H25.4.26ご逝去）		264	5・6	124
具志堅興永先生 謹んでご冥福をお祈り申し上げます		265	7・8	92
宮城光吉先生 謹んでご冥福をお祈り申し上げます		266	9・10	90
故 宮城光吉先生の葬儀における神村会長の弔辞		266	9・10	90
藤本勝喜先生 謹んでご冥福をお祈り申し上げます		267	11・12	116
藤本勝喜先生を悼む	新川重一	267	11・12	116

理事会

平成24年度第4回定例理事会議事概要		262	1・2	71
平成24年度第5回定例理事会議事概要		262	1・2	81
平成24年度第6回定例理事会議事概要		262	1・2	88
平成24年度第7回定例理事会議事概要		262	1・2	93
平成24年度第8回定例理事会議事概要		263	3・4	82
平成24年度第9回定例理事会議事概要		263	3・4	88
平成24年度第10回定例理事会議事概要		263	3・4	92
平成24年度第11回定例理事会議事概要		263	3・4	97
平成24年度第12回定例理事会議事概要		263	3・4	102
平成25年度第1回定例理事会議事概要		264	5・6	100
平成25年度第2回定例理事会議事概要		265	7・8	72
平成25年度第3回臨時理事会議事概要		265	7・8	76
平成25年度第4回定例理事会議事概要		265	7・8	76
平成25年度第5回定例理事会議事概要		266	9・10	78
平成25年度第6回定例理事会議事概要		267	11・12	94

日薬通達

医薬品等の誤飲防止対策の徹底について	262	1・2	62
疑義解釈資料の送付について（その11）	262	1・2	63
医薬品のインターネット販売訴訟（最高裁判決）について	262	1・2	64
医薬品のインターネット販売訴訟（最高裁判決）を受けた 厚生労働大臣談話の公表について	262	1・2	65
平成25年薬剤師賠償責任保険の加入募集について	262	1・2	66

行政通達

手数料の改正について	263	3・4	116
労災診療費請求書の提出先の変更について	267	11・12	1

国保・社保通達

平成25年度受付協力日及び受付締切日	262	1・2	70
資格関係誤りレセプトの未然防止について（お願い） 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部	266	9・10	69

薬連だより

藤井もとゆき国会レポート～3年ぶりに与党に復帰～	藤井もとゆき	262	1・2	60
藤井もとゆき国会レポート ～補正予算が成立・来年度政府予算案の審議に～	藤井もとゆき	263	3・4	80
平成25年度沖縄県薬剤師連盟総会報告	山城英人	264	5・6	93
熊本県若手薬剤師フォーラム報告	玉城武範	264	5・6	94
藤井もとゆき国会レポート ～違法ドラッグ対策強化のための関係法律の改正～	藤井もとゆき	264	5・6	98
一般用医薬品のインターネットによる販売の規制緩和についての陳情	山城英人	264	5・6	99
藤井もとゆき国会レポート ～一般医薬品のインターネット販売と参議院選挙～	藤井もとゆき	265	7・8	71
藤井もとゆき国会レポート ～平成26年度政府予算の概算要求～	藤井もとゆき	266	9・10	68
藤井もとゆき国会レポート ～第185回臨時国会が始まる～	藤井もとゆき	267	11・12	84
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成24年12月～平成25年1月分）		262	1・2	61
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成25年2月～3月分）		263	3・4	121
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成25年4月～5月末日分）		264	5・6	99
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成25年6月～7月末日分）		265	7・8	89
沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成25年10月～11月末日分）		267	11・12	115

告知用ポスター・チラシ

第3回県民健康フェア2013	266	9・10	70
くすりと健康フェア（県民公開講演会）PRポスター	267	11・12	86

転載記事

交通遺児育成に88万円 県内医療 4 団体	263	3・4	53
「残薬」確認 患者と薬剤師 認識に差	263	3・4	63
沖縄県体育協会出版の海邦スポーツに 「ぎふ清流国体へのスポーツファーマシスト帯同記」が掲載	263	3・4	109
佐藤雅美先生が週刊ほ～むぶらざ「彩職賢美」に紹介される	263	3・4	110
T P P 地方の岐路 県経済への影響「皆保険崩れ 医療格差も」	263	3・4	112
認識にギャップ「残薬確認受けた」24% 薬剤師91%「確認した」	263	3・4	113
在宅医療 連携強化を 中部地区で意見交換会	263	3・4	114
12年度ジェネリック切り替え調査 沖縄 軽減額が全国一	263	3・4	114
精神・在宅医療 柱に 県審議会 5 年計画承認	263	3・4	115
車いす20台を寄贈 宮古地区薬剤師会が新宮古病院に	264	5・6	61
医薬品卸会社の出店を 中山市長が県協会に要請	264	5・6	62
医薬品のインターネット販売に関する意見広告 日本薬剤師会	264	5・6	106
薬のネット販売 安全性と利便性 埋まらぬ溝	264	5・6	107
薬99%ネット販売解禁	264	5・6	108
薬ネット販売解禁 首相と業界 思惑一致 薬害被害者反発強める	264	5・6	108
大衆薬ネット販売 消費者の安全が最優先だ	264	5・6	109
山城志津先生 消費者支援活動に貢献	264	5・6	109
那覇市医師会報への寄稿 「沖縄県におけるジェネリック医薬品使用の現況と促進について」 神村武之	264	5・6	110
沖縄県医師会報への寄稿「改めて薬物乱用防止について考える」 笠原大吾	264	5・6	112
週刊ほ～むぶらざ「暮らしのいろは」安全、効果的に薬を飲もう	264	5・6	114
国民向け薬剤師職能 P R 記事 日本薬剤師会	264	5・6	116
週刊「ほ～むぶらざ」の彩職賢美に高江洲はつよ先生	265	7・8	82
琉球大学大学院学位取得した砂川智子先生	265	7・8	84
第3回県民健康フェア2013（新聞広告）	266	9・10	72
「いきいき健康あいランド」に神村会長インタビュー記事掲載	266	9・10	73
自分流の健康法 発見 県民フェアに1000人	266	9・10	74
健康 楽しみながら意識 18日に県民フェア	266	9・10	74
学んで長寿取り戻す 県民健康フェア	266	9・10	75
気軽に健康診断を 18日に宜野湾でフェア	266	9・10	75
週刊レキオの「なんくるお悩み相談」に会員の備瀬紀子先生が回答	266	9・10	76
会員の大城朝徳先生が東京国体の剣道で活躍	266	9・10	77
薬ネット販売で相談対応義務化 厚労省が素案	266	9・10	77
薬事功労評価 高良さん表彰 南部地区薬剤師会役員	267	11・12	3
地域医療に貢献 5 氏を知事表彰 県公衆衛生大会	267	11・12	4
薬物乱用撲滅で感謝状	267	11・12	5
「第8回日本禁煙科学会学術総会 in ぐんま」笠原大吾先生の優秀演題受賞要旨	267	11・12	5
くすりと健康フェア（県民公開講演会）P R 新聞広告	267	11・12	87
日本薬剤師会「薬と健康の週間」国民向け P R 記事	267	11・12	88
インフル対策 5 団体を指定 県医師会などに県	267	11・12	2
薬局を地域の健康拠点に～ちぐはぐな国の薬事政策～ 亀谷浩昌	267	11・12	90

正しく使って健康を維持～薬の安全性と有効性～	金城栄一	267	11・12	91
健康維持の場 薬局活用して	玉城武範	267	11・12	92
季節風 「薬と健康の週間」が紹介される		267	11・12	92
くすりと健康フェア（県民公開講演会）PR		267	11・12	93
起業家支援でイベント 他分野でも活躍中の高江洲はつよ先生		267	11・12	93
第24回中部トリムマラソンにてピタリ賞に喜ぶ会員の福地健治先生		267	11・12	93

職員人事

山城英人さんが課長に就任		263	3・4	123
田場英治先生・城間盛光先生ご就任おめでとうございます 新城光枝先生・糸嶺 達先生お疲れ様でした		264	5・6	121

一包一話

旅 余談	橋 の 下	262	1・2	98
タンメーの話し	橋 の 下	263	3・4	122
小さな、大騒動	橋 の 下	264	5・6	120
ユンタク、ヒンタク	橋 の 下	265	7・8	90
猫と台風	橋 の 下	266	9・10	88
マラソン応援記	橋 の 下	267	11・12	118

会務報告

平成24年12月・1月分		262	1・2	100
平成25年2月～3月末日分		263	3・4	118
平成25年4月～5月末日分		264	5・6	122
平成25年6月～7月末日分		265	7・8	85
平成25年8月～9月末日分		266	9・10	84
平成25年10月～11月末日分		267	11・12	116

会員作品（誌上ギャラリー）

平成24年誌上ギャラリー大賞・優秀作品				
写真「バナナの葉」（大賞）	宮良夏子	262	1・2	裏表紙
写真「泊港にて」（優秀作品）	鈴木一徳	262	1・2	裏表紙
写真「うりずん」（優秀作品）	玉山善正	262	1・2	裏表紙
写 真「五人扶持の松」	川満直紀	263	3・4	裏表紙
写 真「小さな図体に大きな花」	亀谷浩昌	263	3・4	裏表紙
水墨画「古城」	吉川敏男	263	3・4	裏表紙
写 真「カボチャの花」	玉山善正	264	5・6	裏表紙
写 真「ちょっと休憩」	笠原大吾	264	5・6	裏表紙
写 真「黄金瀑布」	前濱朋子	264	5・6	裏表紙
写 真「迷子になったの～」	松山朝雄	264	5・6	裏表紙
写 真「タイムスリップ」	比嘉良喬	265	7・8	裏表紙
写 真「蜜が吸いにくいなー」	亀谷浩昌	265	7・8	裏表紙
写 真「まだ眠たい向日葵」	吉田洋史	265	7・8	裏表紙

写 真「バンコクの寺院にて」	平安山春江	265	7・8	裏表紙
写 真「水前寺境内」	玉山善正	265	7・8	裏表紙
写 真「オダマキ」	上原正徳	266	9・10	裏表紙
写 真「秋の忘れ草」	玉山善正	266	9・10	裏表紙
写 真「運河が走る港町」	山里美恵子	266	9・10	裏表紙
写 真「翔南高校カッター部、ただ今休憩中」	吉田洋史	266	9・10	裏表紙
写 真「砂山ビーチ」	鈴木一徳	267	11・12	裏表紙
油 彩「ウッドローズ」	藤本勝喜	267	11・12	裏表紙
写 真「タッチ・アンド・ゴー」	伊差川サヤカ	267	11・12	裏表紙
写 真「宮古島まもる君とまる子ちゃん」	前里由紀子	267	11・12	裏表紙
写 真「宮古島シーサー」	亀谷浩昌	267	11・12	裏表紙
写 真「通り池」	池間記世	267	11・12	裏表紙
写 真「魔王の宮殿」	吉富弓江	267	11・12	裏表紙

○以下のコーナーについては、ページ等の詳細は省略いたします。

編集後記

県民の皆様へ

あまくま薬立つ情報

お知らせ

日本薬剤師会生涯学習支援システム（JPALS）について
 第3回在宅医療に関する講習会開催案内
 会報原稿募集のご案内
 記念に写真を撮って上げます！
 県薬が会員に販売している印刷物等
 会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について
 地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！
 沖縄県薬剤師会学術大会演題募集について
 第8回スキルアップ研修会の開催案内
 第2回日本くすりと糖尿病学会学術集会開催案内
 第27回沖縄県薬剤師会学術大会の演題の募集について
 第27回沖縄県薬剤師会学術大会の開催について（ご案内）
 第2回日本くすりと糖尿病学会学術集会のご案内
 平成25年度薬事功労受賞者合同祝賀会案内

平成25年10月

- 1 火○平成25年度第2回薬剤師学術研修委員会 県薬研修室
- 2 水○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏
- 3 木○個別指導（2薬局） 県庁 社会保険医療担当：仲真良重氏
○平成25年度第2回災害対策委員会 県薬研修室
- 4 金○平成25年度第6回「薬と健康の週間」調整会議 県庁 稲福・大城両係長
- 6 日○薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会（第1回）及び一般用医薬品担当者全国会議 慶應義塾大学薬学部 新垣理事
- 7 月○南風原町役場訪問（医療ゾーンの雨水側溝について） 南風原町役場 田場専務理事
- 8 火○平成25年度第2回医薬品事故・過誤対策委員会 県薬研修室
○医薬分業対策小委員会 県薬会議室
- 9 水○くすりと健康フェアPR活動 琉球新報社・沖縄タイムス社 田場専務理事、前濱・宮城各常務理事、大城係長
○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 神村会長
○トルバプタン学術講演会 ザ・ナハテラス 共催：大塚製薬(株)
○平成25年度第7回定例幹事会 県薬研修室
- 10 木○中部地区医師会設立六十周年・検診センター開設二十五周年・ぐしかわ看護専門学校創立五周年記念式典・祝賀会 ラグナガーデンホテル 前原信照中部地区薬剤師会会長、仲座方利中部地区薬剤師会副会長
- 11 金○平成25年度医療安全対策全国会議 日薬 亀谷常務理事
○第5回那覇・浦添コ・メディカル糖尿病セミナー 県薬ホール 共催：MSD(株)
○薬学生実務実習受入小委員会 県薬会議室
- 12 土○平成25年度第7回定例理事会 県薬研修室
○青年部会主催「岩淵安史先生（元石巻日本赤十字薬剤師）講演会」 県薬ホール
○インクレチン「Now and Future」 ロワジールホテル那覇
- 15 火○保健福祉委員会 県薬研修室
- 16 水○在宅医療に関する地区・支部単位での伝達講習会（沖縄支部） 沖縄市福祉文化プラザ 講師：笠原理事
- 17 木○薬と健康の週間（10月17日～23日）
○「薬と健康の週間」街頭キャンペーン パレットくもじ前広場 沖縄県薬業連合会
○くすりと健康フェア「健康とおくすり相談会」 パレット市民劇場ロビー 担当：南部地区薬剤師会
○くすりと健康フェア「県民公開講演会」 パレット市民劇場 講師：後藤直良先生
○那覇地区薬剤師会臨床講座 県薬研修室
- 18 金○薬祖祭 波之上本殿 沖縄県薬業連合会
○第17回腎と高血圧研究会 沖縄県医師会館ホール 共催：ファイザー(株)
- 19 土○会報取材 福寿薬局 前濱常務理事、大城係長
○「薬と健康の週間」街頭キャンペーン サンエー石垣シティ前 八重山地区薬剤師会
○「薬と健康の週間」街頭キャンペーン イオン名護店 北部地区薬剤師会
- 20 日○「薬と健康フェア」街頭キャンペーン サンエーショッピングタウン宮古前 宮古地区薬剤師会

- 20日○がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用推進のための講習会 沖縄県医師会館 講師：笠原理事
- 21月○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 22火○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城
- 青年部役員会 県薬部会室
 - 在宅医療に関する地区・支部単位での伝達講習会（那覇北支部） 那覇市薬剤師会事務局 講師：笠原理事
- 23水○**沖縄県薬事功労者知事表彰** 沖縄県福祉保健部長室 高良武和氏（受賞者）、神村会長、大城係長
- 平成25年度学校薬剤師部会全国担当者会議 日薬 前濱理事
 - 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
 - フィジカルアセスメント講習会 クリニカルシミュレーションセンター 講師：笠原・川上各理事・上原幸代
- 24木○個別指導（2薬局） 県庁 社会保険医療担当：仲真良重氏
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
 - 第2回沖縄喘息治療フォーラム ザ・ナハテラス 共催：MSD（株）
- 25金○平成25年度第1回沖縄県国民保護協議会 県庁 田場専務理事
- 26土○在宅医療に関する地区・支部単位での伝達講習会（宮古地区） シモジ薬局2階 講師：笠原理事
- 27日○**学校薬剤師部会「支部会・研修会」** 県薬研修室
- 28月○新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく指定地方公共機関指定書交付式 県庁 神村会長・田場専務理事
- 29火○在宅医療に関する地区・支部単位での伝達講習会（那覇東支部） 那覇地区薬剤師会事務局 講師：笠原理事
- 30水○在宅医療に関する地区・支部単位での伝達講習会（那覇中央支部） 那覇地区薬剤師会事務局 講師：笠原理事
- 31木○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏
- 個別指導（2薬局） 県庁 社会保険医療担当：仲真良重氏
 - 沖縄食物アレルギー勉強会 県薬研修室 共催：協和発酵キリン（株）
 - 在宅医療に関する地区・支部単位での伝達講習会（浦添支部） 那覇地区薬剤師会事務局 講師：笠原理事

平成25年11月

- 1金○第45回沖縄県公衆衛生大会 沖縄県市町村自治会館 知名繁夫氏・宮里郁子氏（沖縄県公衆衛生大会会長表彰受賞）、前濱理事、吉田久子氏、大城係長
- 九州厚生局沖縄事務所より来訪 県薬会議室 神村会長
 - 第15回沖縄COPD研究会 ザ・ナハテラス 共催：日本日本ベーリンガーインゲルハイム（株）

- 1 金○第9回OCEAN研究会 沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ 共催：吉富薬品(株)
○在宅医療小委員会 県薬会議室
- 2 土○インスリンデバイス研究会 県薬ホール 共催：ノボノルディスクファーマ(株)
- 5 火○浦添市役所より来訪（子供医療費助成の件） 県薬会議室 田場専務理事、山城課長
○平成25年度第2回薬剤師学術研修委員会 県薬会議室
○平成25年度第9回定例幹事会 県薬研修室
- 6 水○下水道接続についての6者会議（医師会・歯科医師会・看護協会・小児保健協会・ファミリーハウス・薬剤師会） 県薬研修室 田場専務理事、山城課長
○Osteoporosis Meet the Expert Seminar（研修会）
沖縄県医師会館 共催：中外製薬(株)
○在宅医療に関する地区・支部単位での伝達講習会（首里支部） 那覇地区薬剤師会事務局
講師：笠原理事
- 7 木○九州山口薬剤師会事務局職員研修会（8日迄） 開催県：宮崎県薬剤師会 田場専務理事、山城課長
- 8 金○健康づくり支援事業リーダー養成講習会「薬の正しい使い方講演会」 沖縄県立宮古青少年の家 砂川裕美子氏
- 9 土○会報取材 病院前薬局（宮古島市） 亀谷・宮城各常務理事、伊差川広報委員、大城係長
○会報取材 沖縄県立宮古病院 亀谷・宮城各常務理事、伊差川広報委員、大城係長
○Spot Light 盛島明隆先生にインタビュー ぱいながまホール（宮古島市）
池間広報委員、大城係長
○青年薬剤師部会インタビュー（山崎今日太先生） ぱいながまホール（宮古島市） 鈴木一徳・伊差川サヤカ各広報委員、大城係長
○新沖縄県立宮古病院見学 沖縄県立宮古病院 理事、山城課長、大城係長、伊差川・池間各広報委員
○平成25年度第9回定例理事会 ぱいながまホール（宮古島市）
- 11月○薬学生実務実習受入委員会 県薬会議室
- 13水○平成25年度第4回都道府県会長協議会 日薬 神村会長
○在宅医療に関する地区・支部単位での伝達講習会（小禄支部） 那覇地区薬剤師会事務局
講師：笠原理事
- 14木○年末調整等説明会 沖縄コンベンションセンター劇場棟 事務局（金城・宮城・前原）
○団体の個別指導 八重山合同庁舎 山城専八重山地区薬剤師会会長
○個別指導（1薬局） 八重山合同庁舎 山城専八重山地区薬剤師会会長
- 15金○団体の個別指導 宮古合同庁舎 吉田副会長
○平成25年度第3回沖縄県がん診療連携協議会 琉球大学医学部管理棟 田場専務理事
○個別指導（1薬局） 宮古合同庁舎 吉田副会長
○第113回九州医師会連合会総会懇親会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー
神村会長
○公益法人移行検討委員会 県薬研修室
○在宅医療に関する地区・支部単位での伝達講習会（八重山地区） 大濱信泉記念館 講師：
笠原理事
- 16土○第111回健康とおくすり相談会 うるま市健康福祉センターうるみん

- 16土○第113回九州医師会連合会総会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー2階
彩海の間 神村会長
- 19火○第7回琉球気管支喘息・COPDフォーラム ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバー
ビュー 共催：グラクソ・スミスクライン(株)
- 20水○社会保険診療報酬支払基金第1次審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委
員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 24日○第27回沖縄県薬剤師会学術大会 県薬会館・宮古地区薬剤師会事務所・大浜信泉記念館
(石垣市)
- 25月○アクションプラン推進協議会 沖縄レインボーホテル 江夏常務理事
○社会保険診療報酬支払基金第2次審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委
員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 26火○管理者会議 県薬研修室
- 27水○平成25年「薬と健康の週間」反省会 県庁 田場専務理事、稲福・大城各係長
○第5回沖縄Airway Conference ザ・ナハテラス 共催：杏林製薬(株)
- 28木○個別指導(2薬局) 県庁 社会保険医療担当：仲真良重氏
○那覇地区薬剤師会理事会 県薬研修室
- 29金○平成25年度ドーピング防止ホットライン担当者研修会 TKP市ヶ谷カンファレンスセ
ンター 薬事情報センター吉田典子
○SCRUM学術講演会 ホテル日航グランドキャッスル 共催：大塚製薬(株)
○保険薬局部会主催研修会 県薬研修室

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成25年10月

- 2水○平成25年度臨時評議員会 東京會館 神村会長
- 21月○自由民主党 一日政調会 自民党県連会議室 江夏・姫野各副幹事長、吉田洋史総務、事
務局山城
- 25金○仲井眞弘多知事を励ます女性の集い 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ 大城桂子監
事、吉田幹事長、江夏副幹事長、前濱朋子
○仲井眞弘多知事を励ます集い 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ 神村会長、城間副
幹事長

平成25年11月

- 7木○「ミヤザキ政久激励の集い」女性の集い エリスリーナ西原ヒルズガーデン 吉田久子幹
事長
○衆議院議員ミヤザキ政久激励の集い エリスリーナ西原ヒルズガーデン 吉田久子幹事長、
吉田洋史総務
- 11月○衆議院議員比嘉なつみを囲む会 モーリアクラシック沖縄迎賓館 神村会長、江夏副幹事
長、事務局山城
- 23土○第6回若手薬剤師指導者育成フォーラム(24日迄) クロスウェーブ船橋 石川総務・
名嘉紀勝氏

訃報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

藤本 勝喜 先生（享年81歳） 平成25年11月 4 日ご逝去



藤本勝喜先生を悼む

一般社団法人ぎのわん健康支援センター
理事長 新川 重一

誰しにも永遠に旅立つ日が参りますことが来るものとは知りながらも、いざこうして先生との別れになってしまいましたことはどうしても信じられないことであり、そしてとても信じなければならない気持ちにもなれません。心ならずも今は先生の霊前に一般社団法人ぎのわん健康支援センターを代表して追悼の言葉を申し上げさせていただきます。

私どもと先生との出会いは、先生が琉大病院の退職後に薬剤師会の会営薬局の創設で連日連夜、奔走され、幾夜を徹して薬局開設と組織構築にまたその後の活動のための基盤づくりを沖山・前原氏を含めた時からが始まりでした。先生が琉大病院でお勤めされ定年までの20年間、先生と私どもとの思い出は深く、広く、数枚の書面では語りつくせない程であります。先生が昭和54年、琉球大学附属病院薬剤師部長ご就任と同時に病薬の会長として着任され、病院薬剤師会の活動を活発にすべく獅子奮迅のご活躍をされ、今日の発展の基礎を築きあげられました。そして先生は並行して、先生の最大の功績の一つとされます沖縄県薬剤師会に於ける定期役員会の開設、各種研修会の開催、さらに必要な分科会を併せて創設され、県内での薬剤師学術大会の開始も手掛けられました。平成4年6月には、薬剤の院外処方のためのオーダーリ



当会広報委員のインタビューを受ける藤本氏

ングシステムの構築につき、琉大病院から院外処方箋を発行させ、広域病院からのそれには県内でも初めての実績をあげられました。

平成7年、ぎのわん支部薬剤師会とともに地域分業の支援、健康保健事業の推進に多大な寄与をされ、加えて特筆すべき事に、厚生労働省の補助金を得て、宜野湾市からの委託事業の立案、実施を実現され、平成13年に

は健康日本21事業の一環であります宜野湾市生活習慣改善まちかど相談事業、平成14年に、市民健康づくり訪問時指導マニュアル作成事業、平成15年、回想法（かたり、あしばな回想法）事業を立案・企画・実施などの市民また私どもの社会的利益の実現及び確保につき、先生は文字通りきわめてご多忙の中、全身全霊を傾けて、全責任をもって

遂行されました。今、振り返りましても私どもはただただ頭を垂れるほかはありません。

先生は常に高い志を持たれ、温厚篤実、高潔な人格者でもありました。そして人生における豊かな想像力を持たれ、私どもに対するばかりでなく、地域社会に対しましても強い指導力に富み且つ発揮され、終生医療・福祉・保健の向上に献身的に奉仕され、地域住民、薬業会、行政からの信望も本当に厚い方でありました。個人的には、不肖の小生を常に寛容のお気持ちで見守れ、茲父の如くご指導さ

れました。小生もまた先生を慈父のように絶えず慕って参りました。最後になりましたが、改めて先生が小生の人生のよき師として20年もの間お見守り下さったことに心から感謝致します。

先生の枚挙に暇がない数々のご功績並びにぎのわん健康支援センターの基礎を不動のものにされたことに職員一同に代わりまして、深甚の感謝とお礼の言葉をここに捧げさせていただきます。沖縄県薬剤師会を始め、ぎのわん健康支援センターの社員は、今後とも一致団結し、先生の遺徳を偲び、遺業をさらに前進させ、些かも変わることなく、先生の想いをそれぞれの胸に託して、主体的に薬剤師職能を発揮できますように、日々前進してまいります。そのことを合わせて、私どもの決意を先生のご霊前に固くお誓い申し上げます。

先生、本当にありがとうございました。今や私どもはお悔みしか申し上げられませんが、安らかにお休みになられ、ゆったりと旅立ち

をなされてください。ご遺族の皆様方にはさぞかしご心痛のこととお察しいたします。しかし、先生は浄土の道から、ご遺族の方々や私どもを常に見守って下さっておりますことでしょう。

ここに在りし日の先生を偲んで、心から哀惜の意を申し上げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

藤本先生、さようなら。



受賞の喜びを述べる藤本氏 左は奥様の康子氏



ぎのわん健康支援センター感謝のつどい（藤本勝喜先生平成20年度日本薬剤師会功労賞受賞祝賀会）
平成20年11月24日 於：コスタピスタ沖縄

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
(香典・生花等の手配があります)

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしく申し上げます。

【連絡先】県薬事務局：098-963-8930

マラソン応援記

12月1日午前9時、万国津梁の鐘の合図がゴーンと鳴り響き、27,699人ものジョガー達が一斉に飛び出した。あまりにも人数が多いので、最後の一人がスタートラインを越えるのに20分くらいかかったという。第29回那覇マラソンは、晴れ少し曇りで気温22度、走るジョガーにとってハードなコンディションとなったようである。小生達はスタートをテレビで確認してから目の前の道路を反対側に渡るだけである。今回は、小生達夫婦と長女と孫二人。一人は生後4か月足らずで、抱っこ帯で抱えている有様である。今年は薬局の事務のNさんとOさんが走るので応援にも気合が入る。差し入れの黒糖とヤクルトを手渡しやすいように用意する。

さて、この応援だが、ここ数年、一緒になる方がいる。お互いにまだ名乗ったことがないので仮にKさんと呼ぶことにする。Kさんは8時30分頃から既にサンシンを弾き鳴らしている。しばらくは民謡島唄を弾いているが、スタートの報せで、いきなりテンポが上がる。「トゥン・トゥン・テン♪トゥン・トゥン・テン♪」元気にジョガーの足を加速させる力があるようだ。文字で表記できないのが残念である。Kさんは、いつもエンジ色の上着に赤い野球帽を被っている。今回は小さい椅子に腰かけている。小型のアンプにスピーカーもセットしていて、隣のオバアはサンシンに合せ、「ヒヤサッサ〜ハァイヤー」とはやす。もう一人のオジサンがシチタンバークを打ち鳴らす。うるさい。3歳の孫がパーランクーを打つ。小生達3人は片手で大きな団扇、片手でカチャーシーの手踊りである。チンダミもOKだ。「さあ〜ドンと来いジョガー」の体制である。



「去年の写真だよ」とKさんが手渡す。そう言えば、昨年は大雨が降り雨の大会だった。小生達が雨ガサをさして所定の場所へ行くと、Kさんがサンシンのケースを抱えてションボリと立っている。雨でサンシンが弾けないと言うから、それでは向かいの我家からブルーシートを持ってきて、ヒモ通しの穴に傘の先端を差し込んで持ち上げ、Kさんの頭の上に屋根を作った。それからKさんは、「トゥン・トゥン・テン♪トゥン・トゥン・テン♪」とジョガー達に元気な応援を続けること1時間10分くらい、最後のジョガーが通過するまでである。勿論、小生達は片手にテントを支える傘、片手には団扇を持ち、応援。ティードルーになって疲れ果てた。大喜びのKさん。記念にバチバチと写真を撮ったのである。「じゃ、また来年」と別れたが、忘れもせず持って来てくれた。イヤうれしーね。Kさんが言った「年に一度だけ会う。七夕みたいだね」「イヤ、これってミチバタですよ」と小生が答える。ワハハハと笑ってくれた。

実は小生、第1回から欠かすことなく応援団なのである。特に第2回大会からは、同級生の脳神経外科医のT君が走り始めた。レース前になると電話がくる。「今年は調子いいよ。応援よろしく!」と。小生も「しっかり足を鍛えろよ。俺も手首を鍛えて大きく手を振るよ」と言っているが、応援も一瞬である。「頑張れー」「行け行け〜」の一言だが、「お蔭で元気がでた」と言われると、つい嬉しくなる。彼は会を重ねること25回完走である。この頑張りには頭が下がる。他県や東京マラソンも走り、マラソンと名のつくレースを120回くらい走ったというから、もうエンドルフィン中毒かもしれない。25回完走を達成して那覇マラソンを卒業したいと宣言したので、第26回大会は同級生が集まり、横断幕を作り、我家の前で奇声を上げた。なんで25回なのだと考えてみると、5時間台だったタイムが後半2回くらいは6時間となり、

ロスタイムの15分にくい込んだ。今年のプロ野球楽天の田中選手のシーズン24勝0敗は、見事な記録で日本中を沸かせた。これを引き合いに出すのは気が引けるところだが、T君もオール完走0敗で那覇マラソンの終わりを飾りたかったのだろう。男の、イヤ、彼の美学だろうと思われる。アップレだ。また、我家でも長女夫婦が4年前に、那覇マラソン、尚巴志マラソン、沖縄マラソンを完走したのは驚かされた。特に娘は貧血体質なので。鉄剤を服用しながらの参加だったのではと思うと無茶はするなと言いたい。人生はマラソンに例えられることがある。お腹の中での10か月と10日の待機時間が過ぎ、生まれ出てオギャーと産声を上げた時からレースの開始である。家族という応援団に支えられて、七五三と成長する。そして小学校、中学校、高校、大学と受験などの経験をする。このあたりまで序盤戦だ。そして、就職、家族を持つ生活を頑張らなければならない。このへんから山あり、谷あり、登り坂下り坂、まさかなどという難問な道が待ち受けている。50年、60年、走り続けて後を振り返ってみると、俺は何をしてきたんだと肩を落とす。先をみると年金ってどんなに小さいの、認知症って誰でもなるのだろうか、の不安要素がいっぱいだ。70年に差し掛かると、片道コースの人生マラソン。ゴールがチラホラ見えてきて、さびしく、空しい気分になる。マラソンの42.195kmは、語呂合わせでゆくとシニイクコース（死に行くコース）と読めるから変な気分になる。ゴールのテープを切る間の時間は、いかに有意義に心穏やかに歩むかというのが終活だという。

イヤハヤ、横道に逸れてしまった。先頭集団が通過する。人の波は道をいっぱい埋め尽くす。バイキンマン、花嫁さん。背広のサラリーマンと、コスチュームがバラエティーである。頭がピョンピョンと上下し知人を見つけたのが大変だ。Kさんのサンシンは絶好調。サンシンに近づいて手踊りするジョガー



もいる。大声で「ガンバレー、ファイト、ファイト」と応援するのも楽しいものだ。9時35分頃、マチカンティしていたNさんが通過。10分位後にOさんが通過する。手渡しも成功する。最後尾の人たちはジョガーではなく、ウォーカーになっているが、最後の一人まで見送ってからKさんとまた来年会いましょうと挨拶を交わす。今度は小禄辺りに移動だ。およそ到達の時間を見計らって、モノレールを利用。小禄駅辺りはゴールに近いこともあって物凄い人出だ。Oさんは中間地点でリタイアしたとの連絡が入る。Nさんはまだ走っている。人の波の中から手を上げてNさんが近づく。飲み物を手渡して、「あと一息だ、頑張れ！」と背中を押す。すぐにモノレールで奥武山駅へ急ぐ。時間を見る。3時だ。ヤバい。15分のロスタイムで着くだろうか。駅に着いた途端にドンドンと花火が打ち上げられた。ゴールへ向かって歩いているとメールが届いた。ゴールの150M手前の時、ゴールゲートが閉まり人間の鎖の壁ができたという。残念無念。悔し涙がこぼれて止まらない。今年は終わった。次は30回記念大会。元気を取り戻してほしい、チャレンジだ！時間外ではあるが、6時間16分は見事な完走と健闘を讃えたい。

走る人も、手を振る人も、また来年！

橋の下



誌上ギャラリー(裏表紙)について

左上:「砂山ビーチ」 撮影地: 宮古島
photo by 鈴木 一徳 (神山薬局)

右上:「ウッドローズ」 油彩 by 藤本 勝喜

左中:「宮古島まもる君とまる子ちゃん」
photo by 前里 由紀子 (コジャ薬局)
撮影地:「第36回宮古の産業まつり」会場

右中上:「タッチ・アンド・ゴー」 撮影地: 下地島空港沿岸道路
photo by 伊差川 サヤカ (琉球大学医学部附属病院)

右中下:「宮古島シーサー」 撮影地: 宮古空港
photo by 亀谷 浩昌 (沖縄療育園)

左下:「通り池」 撮影地: 宮古島市の下地島
photo by 池間 記世 (やまうち薬局)

右下:「魔王の宮殿」 撮影地: 下地島の西側
photo by 吉富 弓江 (株式会社琉薬)

編 集 後 記

宮古島特集、いかがでしたか? 宮古島市内で、「ビデンスピローサ」という植物が路傍に広がっているのを見つけました。化粧品や健康食品に使われている注目の有用野草です。ただの雑草だと思っていたのですが……、沖縄にはまだまだすばらしい薬草が潜んでいるようですね。さて最近の私は、沖縄と同じく「薬草の宝庫」といわれている国、スリランカに夢中です。日本薬剤師会の国際委員として、年末にスリランカ薬剤師会を訪問することになりました。スリランカの薬剤師に会うのがとても楽しみです。そのほかにも、本場スリランカのアーユルヴェーダを体験したり、病院や薬局の見学、スパイス&ハーブガーデンの見学など、たっぷり堪能したいと息巻いています。(クララ)

今年も残り少なくなってきた。毎年12月12日の「漢字の日」に日本漢字能力検定協会が漢字一字を選びその年の世相を表す字として、「今年の漢字」を決めている。これに倣い、自分なりにこの一年を表す漢字について考えてみた。広報委員会については「新」であろうか。若い委員が一举に3人も入ってきたし、委員長も交代した。新装開店というわけだ。自分自身については「責」としたい。委員長の責(席)からは離れたが、新たに別の責を負うことになった。なるべく自分の為に時間を使いたいと思わないでもないが、これも神の思召しと考え、責任を果たすことに邁進するとしよう。(亀)

今年の2月に膝の手術をしてから早10ヶ月、久々に大好きなゴルフをすることとなった。不安を感じつつも装具を身に着け、ブランクを感じながらのティーショット第一打……。これほどまでにドキドキした第一打はいつ以来だろう? 心臓に悪いじえ! だが、フェアウェイへと歩き出した次の瞬間、見渡す景色や芝生の匂いが懐かしく、何とも言えない気分だった。ふと思った。今日はスコアの事はどうでもいい、自然やコースを堪能しよう、これだけで大満足だ! という気持ちもつかの間……普段となへんにも変わらずスコアを気にしてオロオロしている自分が……。やっぱり、ゴルファーとはそんなもんだよなあ……笑(ごり)

今年も色々ありました。特に大きな出来事といえば、県立宮古病院の移転新築、県理事会の宮古島開催がありました。日頃会報でお名前とお写真しか見ない先生方の顔が拝見できるいい機会となりました(懇親会の司会を担当し、緊張でほとんど挨拶もできませんでした)。懇親会でカラオケやオカリナを披露する先生方をみて、私も何か特技を身につけなくてはと思われました。(〇〇)個人的には娘の小学校入学があり、PTAのクラス役員になるなど益々忙しくなるばかり。家庭と仕事の両立はもう諦めて、主人や子供たちに「もうできません」宣言をしています。皆様あまり無理をせず、自分の体も労わって、良いお正月をお迎えください。来年も調剤ミスなく、家庭円満で頑張りましょね。(コジャック)

平成26年4月で、マイクロソフト社によるwindows X Pのサポートが終了するというメッセージが、頻繁にしかも派手にパソコン画面に張り付くようになった。仕方なく、ほとんど衝動買いに近い形で、windows 8が搭載されたパソコンを購入した。というより、どのパソコンもみんなwindows 8に切り替わっていたのである。しかし、これまでのパソコンが取扱説明書など読まなくても最低限の操作が出来たので、少し甘く考えていた。しかし、すぐにいかに無謀な買い物をしたか、いやというほど思い知らされた。いちいち子供の助けを得なければ、メールやその他諸々の設定、ソフトのインストール等々1歩も前に進むことが出来ない。いかにも簡単そうに書かれた「あんしんスタート」という説明書も、「言葉の壁」のハードルが高くて私には役に立たない。おかげで最低限のことができるようになるまで一ヶ月以上もかかってしまった。(ピアナ)

あったかい宮古の人たち、先日の宮古島取材はとても楽しいひと時でした。また天然のウミガメもひょっこり海面から顔をだしてくれて感動でした!

(クロップ)

今年から若いメンバーも加わり、さらにパワーアップした広報委員会活動。司会担当も若返り頼もしい限りである。専務をボス(?)とし発足したオカリナ隊の初演奏となった「熟年の集い」では三線やキーボード担当も現れるなど、広報員の隠れた才能も発掘された。ところで、広報委員長は日薬の国際委員のメンバーであることをご存知でしょうか?近い…遠くない将来、広報委員会が沖縄県薬剤師会学会ツアーなんて出来るといいなと妄想する最近の私。いやいや、妄想に留まらず実現したいものです。こんな広報委員から発信される広報誌。皆さま、来年もよろしくお願いします。(TOMO)

1歳になったばかりの娘を連れて、11月中旬に国際学会に参加してきました!と言っても横浜で開催されたアジア太平洋呼吸器学会(APS R)です。琉球大学第一内科の大学院生として取り組んでいるテーマの1つであるインフルエンザについてポスター発表をしてきました。沖縄を飛び立つ直前まで、広報委員のいさ吉さんから英語の発音(発声?)指導を受け、単語や文節での区切りを意識しながらひたすら練習をして挑みました。結果は、大成功(?)でした。アジア人を中心とした学会のためか、発表後の質問タイムでは数名が一斉に質問し、演者の私ではない別の先生方がその質問に答えるなど、和気あいあいとした心地よい雰囲気でした。母親である私が奮闘している頃、娘はホテルに併設されている託児所へ預けていました。沖縄県の託児所は1時間500円~700円程度ですが、横浜の託児所は1時間2,625円!!!!と、驚きの値段でした。国際学会なので託児所内も様々な国の子供がいて、娘にとっても言葉や肌の違いを感じることができた(?)貴重な一日になったと思います。さて、年末になりました。また、来年も会員の先生方にとって親しみやすい会報誌作りを心がけていきたいと思っています。それではよいお年を♪♪(三郎)

今回、初めて1人での取材を行わせていただきました。元来マイペースな私は「なんくるないさ」精神を発揮し、のんびりと構えておりました。今回の宮古病院は理事視察も兼ねていたため、取材時間が少なく、段どりの悪い私は何度も同じことを訊ね、結局取材日だけでは書きたいことを聞き出せず、後日何度も渡真利薬局長にお電話をして解決を図りました。入稿予定日を超過し焦る中、渡真利薬局長の優しさに何度も助けられながら、やっとこさ原稿が完成しました。ああ、来年こそは計画性のある人間になりたい。ふと気付くと、もう来年のことに想いを馳せる時期、あつという間に師走ですね。来年はもう少し頭を絞って、体も絞って、計画性もあつて、結果も出せるそんな薬剤師になりたい。毎年描く夢は完璧なんですが…。壮大な抱負を書いてはみたものの、来年の目標は、とりあえず、読者となつてくださる方々に愛想をつかされないような書き手になりたいと思います。皆様はどんな一年でしたか?どんな新年を迎えたいですか?では、よいお年をお過ごしください。(いさ吉)

少し前まで暑い暑いと言いながら、いつの間にか長袖を着る季節となりました。そんな寒さを感じる中、先日那覇マラソンに参加してきました。去年も参加しており、その際は土砂降りの中の走りだったため途中棄権となりました。今年は準備万端にシなくては、と靴も新調してリベンジに燃えての参加でしたが…今回も30km点でリタイアに(泣)。どうやら去年も今年も環境のせいではなく練習不足が最大の敗因のようです。言い訳もすっかり尽きてしまったため来年の30回大会はしっかり練習して臨まなくては!と今から意気込んでいる自分でした。

P. S. 県薬事務局のI氏は三時間前半でのゴールだったとのこと。驚愕!(松)



I氏

沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
 ■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
 ■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
 ■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第267号 平成25年12月16日発行

◇次号は、平成26年2月中旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 神村武之

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／亀谷浩昌・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木一徳
 石川恵市・伊敷松太郎・伊差川サヤカ 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
 八重山地区通信員／宮良善朗 事務局／大城喜仁

印刷：有限会社 金城印刷

誌上ギャラリー

(会員作品)

お気軽にご投稿下さい。

宮古地区特集

